

世界と結ぶ
マツザカヤ!
世界の優秀品を豊富にとりそろえました……



松坂屋

能 楽 の 友

発行所 能 楽 の 友
名古屋市中区栄2丁目16-10(花本ビル)
電話 (211) 1019・1974 (231) 6727
振替口座 名古屋 36393 番

購読料 1年 200円
送料 1年 380円
郵送の場合 1年 200円

能楽の友紙のご購読、催能の有料会員
熱田神宮能楽殿 電話 (671) 2912
お問い合わせ願います。

もらえぬものだろうか。
▽その一△
いつも思うことだが終演が、冬になると帰り途が暗闇になって寂しい所をイヤな気持ちで歩かねばならぬので、御婦人は特にイヤである。
▽その二△
らんのが帰りの不愉快で憂鬱になつてしまふようでは折角の芸術の殿堂も台無しになってしまう。せひ点灯して貰いたいと切望するものである。

昨年上回る催能 明治ことしの能楽界

昭和四十三年の新春を迎え、この能楽界は、昨年をうらむるさまさまな行事で幕をあげた。熱田神宮能楽殿では、学生能と狂言の会についで、観世会定式能(一月十四日)大槻十三・七回忌追善能(十五日)梅若六郎日本芸術院会員就任・還暦祝賀記念能(二十八日)などが催され、また新春にふさわしい各社中大会などが企画され、昨年を上回る催能が期待されている。

能楽が本来の演劇的な使命に立って一般大衆の自由な観賞を求め、機会が多くなってきたことは何よりも喜ばしい。これと同時に、能楽を理解し、学ぼうとする層は年ごとに厚くなっている。ある意味では、能楽界は新しい興隆期にあるともいえる。そこには機械文明に対比する精神文化への要求が現われているといえないこと

二月の演能

名古屋梅猶会能
二月四日(日)十一時始

能松風 見留
能天鼓 弁鼓之舞

ツレ梅若修一
シテ梅若盛義
シテ梅若猶義

「田村」のスケッチ

この曲は八島 殿と共に勝修羅三曲の一つで、修羅の苦思はありませんから、謡も勇壮に謡います。前シテ、後シテも一音で出ますが、前は童子、後は將軍ですか



二、三、一、二、三、四、五、六、七、八、九、十、十一、十二、十三、十四、十五、十六、十七、十八、十九、二十、二十一、二十二、二十三、二十四、二十五、二十六、二十七、二十八、二十九、三十、三十一、三十二、三十三、三十四、三十五、三十六、三十七、三十八、三十九、四十、四十一、四十二、四十三、四十四、四十五、四十六、四十七、四十八、四十九、五十、五十一、五十二、五十三、五十四、五十五、五十六、五十七、五十八、五十九、六十、六十一、六十二、六十三、六十四、六十五、六十六、六十七、六十八、六十九、七十、七十一、七十二、七十三、七十四、七十五、七十六、七十七、七十八、七十九、八十、八十一、八十二、八十三、八十四、八十五、八十六、八十七、八十八、八十九、九十、九十一、九十二、九十三、九十四、九十五、九十六、九十七、九十八、九十九、百

大切な所です。カケリは鈴鹿の悪魔を退治する勇ましいところで、カケリの上り「いかに鬼神もたしかに聞け」からは謡の聞かせ場所です。「田村」には小書が非常に多く、観世は長胡床、金剛では長床几、金春、金剛では白式等があります。これ等の時は型も変わります。位も重くなります。以上は田鍋惣太郎師著「小鼓芸話」からの抜書です。音は五段に置かれていて、初心音には馴染深く、一般に広く知られた曲でしょう。京都若羽山、清水寺縁起からの着想と見られる作品で、別に花月があるが「田村」は戦勝ものとして、目出度い曲で、新春を飾るにふさわしいと思われまふ。

謹賀新年

熱田神宮宮司 篠田康雄
権宮司 長谷晴男

1月のラジオ案内

NHKラジオ第二放送

21日(日)前8.00
観世流「鉢木」藤波 順三郎

28日(日)前8.00
宝生流「二人静」高橋 進

●購読のお申込み
本紙では、昭和四十三年の購読についてすでに多くののお申込みを頂いておりますことを感謝申し上げます。
ご購読は一カ年二百円、送料とも三百八十円。
お申し込み方法は、能楽の友社または社中にておとりまとめねがえれば幸甚です。
振替用紙ご入用の節はおはがきにてお申し込み頂ければ、払込料金能楽の友社負担の用紙をご送付致しますからご利用下さい。

国際的にも能楽に対する評価は高まっている。能の生命は古く、しかも新しい。日本の文化や文芸が、この明治百年を機に新たな展望をきざるとき、能楽界の昭和四十三年の課題は大きい。
本紙は、伝統ある名古屋能楽界に育まれ、読者のご理解を得て、ことしも演能の案内をはじめ、いろいろな角度から、読者とともに「能」をみつめ進んでいきたい。大方のご批判とご指導を切にお願ひする次第であります。

- 桜川 角野志げ子 安間昌子 稲上 絹
- 千手 佐藤つる枝 岩崎 敏子
- 頼政 鷲坂 信子 奥村 泰広
- 雲林院 神田佳代子 大西智津子
- 高野物狂 増田保雄 恒川松彦 松本頌一
- 俊 寛 森田帝八郎 矢田 義雄
- 野口 清 宮部保良
- 飯田悦子 飯田悦子 角南智枝

昭和43年賀正

| | | | | |
|---------------------------|-----------------------|--------------|-------------------------------|--------------|
| 久田観正会 久田 秀雄 | 澄声会 尾 関 健太郎 | 名古屋梅若会 梅若 六郎 | 名古屋梅若会 梅若 六郎 | 此水会 高野 瀬 |
| 観世元正 | 名古屋 観世九阜会 観世 喜之 観世 武雄 | 曲水会 増田 一雄 | 新年おめでとう御座います 芥川 秀子 | 嘉誦会 加藤 総兵衛 |
| 研 能 会 梅若万三郎 会 東京部渋谷区西原一ノ四 | 上田観正会能楽堂 観 正 会 上田 照也 | 光誦会 飯田 新子 | 鳳 鳴 武田多加志 会 名古屋東区栄町一九 吉田 義正 方 | 名古屋淡交会 橋岡 久共 |
| 鶴声会 丹下 三義 | 竜神会 竹内 六郎 | 名古屋淡交会 橋岡 久共 | 此水会 高野 瀬 | |

菓舗 やよい (71)五三二二

小売部

お題「川」に寄せて

「川」は音読みで「セン」、訓読みで「かわ」「がわ」であり、平凡社の百科辞典を引いてみると、河川(かせん)とくるのであるが、「川」の語源と川づくしもお正月早々に退屈しのぎに読んで戴きます。

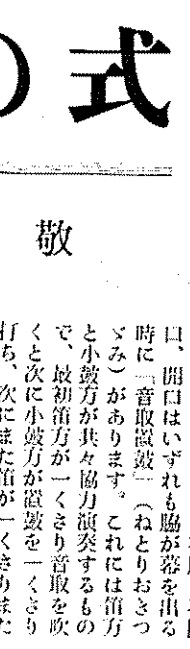
装束談義(二)

長 絹

二 井 栄 逸

あつとふみ

さびしさの中に幽玄な美しさを味わせる能は、まこと、日本の生んだ洗練された芸術であることに間違いない。その演出効果をたかめている重要な要素の一つに、能装束をあけることが出来る。深々とした色調、ずっしりとした質感、一刀ばりを思わせる直線的な屈折。前明でも強い輪廓美、そのような状態の中で装束は極度に象徴化されて動くのである。装束も、動きも、共に現実を離れたもので、見る人を幻想の世界へと導いてゆくのである。遠い王朝の物語、



あつとふみ、長絹は、長絹直垂の変化したもので、袖振り紐や、菊綴はなく、ただ胸に紐、袖先にツノがついて、優雅な武将にも用いるが、

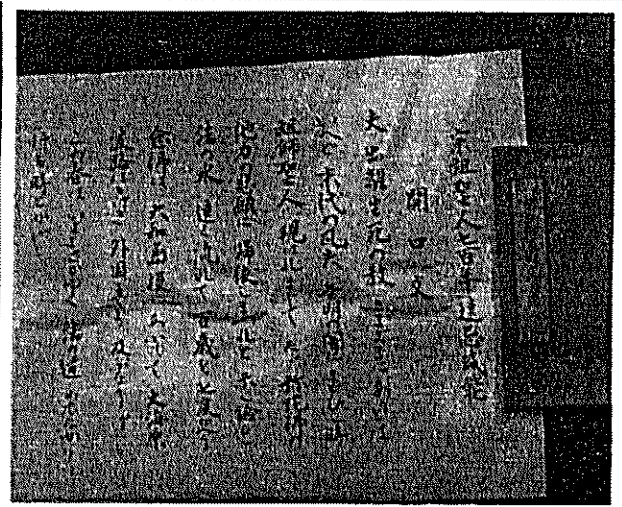


新年賀 謹

Table of names and addresses for various groups and individuals. Includes names like 梅猶会, 竹韻会, 杉村竹翠, 大槻清韻会, 大槻文蔵, 大槻秀夫, 大槻文蔵, 大槻秀夫, 大槻文蔵, etc.

開口の式

西村 弘 敬



開口の式に関する文書

開口の式は「習い」という言葉がある。これは特に許しを受けなければならない教えたり、演奏したり出来ないさまじりなものである。誰しも忠実に守って行われる。能の各役にはそれぞれに色々の習い事がある。またその役だけの特別な重き習い事もある。例えば小鼓方の乱拍子(らんぱし)とか太鼓の役での朝長儀法(ともながせんぼう)のようなものである。私の所属する脇方でも脇師に限って勤める特種の習い事がある。それは「礼脇」「半開口」「開口の式」「翁足」などがある。このうち礼脇は時々行なわれませんが他のものは余り行なわれません。

開口の式は天下泰平国土安穩の御祈禱するのが本意であります。開口の式はこれと趣を異にして特に芽出度き慶賀の節に賀表文を読み上げるような儀式的なものでその第一は御座る御慶事即ち御即位の御大礼を始めとして皇の御祝いの事は開口の式で勤めたもので、他は臣下の大慶事即ち將軍宣下、代替り、婚儀生誕等に行なわれたもので、拙宅にある記録によれば寛永三年(一六二六)京都二条城において徳川二代目秀忠公太政大臣官賀賀能に脇太夫山科新藤豊後守が奉仕したのを始めとし、以後文化十年(一八一三)竹千代様御誕生祝の能まで都合四十五回の開口の年月日、慶賀の名目、脇太夫の名前、御慶文等の詳細の記録がある。其後といえども折々は行なわれていたと思われ、が私方に其後の分の記録がありませんので判りません。

開口、開口はいずれも脇が器を出す時に「音取置敷」(ねとりおきつきみ)があります。これには笛方と小鼓方が共々協力演奏するもので、最初笛方が一くさり音取を吹くと次に小鼓方が一くさり音取を打ち、次にまた笛が一くさり音取を同時に演奏するが但し拍子には合わずに進めて行く、脇は笛の調歌を聞き合わせながら器を出て舞台に入り所定の位置にて礼脇なりまたは開口の式なりの所作をするのであります。

この御慶文というのは開口の式が行なわれる節その節度備家文章博士(もんじょうはかせ)が目出度美文を作り大奉書に認め前夜脇師に下り渡され、脇師は直ちに暗記して翌日舞台にて誦経けし誦上げるといふ節は少なく剛貯に誦うものであります。なおこの御慶文の結びの句は朝廷の時は一御代とかや」とし其の他の時は「一時とかや」とするのが定めであります。

新年 謹賀

| | | | |
|----------|-------------------------------|--|--------|
| 大槻文蔵 | 名古屋観衡会 | 宗家寶生九郎 | 掬水会 |
| 山本博之 | 山本勝一 | 東京都文京区本郷一ノ五ノ五 電話 00-6-112 | 柴田初太郎 |
| 熊沢恵美子 | 福詠会 井道子 | 名古屋千種区覚王山通り六ノ五 新伸田ビル 戸田秀雄方 | 柴田収武 |
| 谷水会 石谷初蔵 | 島三友 能面頒布会 清光会 岡田光紘 | 名古屋巽会 | 中部金剛会 |
| 名古屋金春会 | 後藤正男 川上鉄郎 塚本恵治 岩崎清 | 名古屋巽会 | 山中春鶯会 |
| 中部金春会 | 前田昌広 前田茂穂 | 近藤乾三 東京都豊島区西里鴨四ノ二七五 | 福王茂十郎会 |
| 本田光洋 | 井井栄逸 | 金剛流 豊星会 | 福王輝幸 |
| 二井井栄逸 | 名古屋市中区正木町五ノ三九 TEL 六七一一二七九一 | 豊島弥左衛門 豊島三千春 京都市東山区智恵院 山内林下町四五五 | 福王輝幸 |
| | | 金剛流 豊星会 | 福王輝幸 |
| | | 豊島弥左衛門 豊島三千春 京都市東山区智恵院 山内林下町四五五 | 福王輝幸 |
| | | 高安滋郎 | 福王輝幸 |
| | | 西村弘敬 | 福王輝幸 |
| | | 高安滋郎 | 福王輝幸 |
| | | 西村弘敬 | 福王輝幸 |

学生に聞く能・狂言

掘下げたい「深さ」

人間形成の一助に

旧うう十五日、名古屋学生能楽連盟の主催で、高等学校生徒能楽鑑賞会が催された。能楽の友紙では、若い世代の人たちに能楽がどのように受け入れられ、考えられているか、学生能楽連盟の方々と、能・狂言について座談会を開催した。

司会 学生能も迫り何かとお話しして、いろいろお聞きしました。感謝致します。本日は能楽の友紙として学生のみならずいろいろなご意見を伺いたいと思っております。

――僕の場合は祖父が謡曲をやっていた。ラジオで聞いて興味を覚えた。最初は、はじめは能をやることなど嫌でしたが、友達にさそわれてやっていたうちにだんだん興味をわいてきました。

――僕は中学時代に謡を習ったことがあるのですが、大学へ入ってクラブにお友達にさそわれて加りました。前から興味はあったのですが、

大学へ入ってからは、クラブ活動として私が前に入っていたのは美術クラブだったので、展示会中心の活動のようでも能楽にとりくんでみました。

――僕の場合は父がやっています。卒業したら変わるんじゃないですか。女子学生の場合はどうですか。

――謡はつづけるつもりです。好きですから。しかし社会人となってから能をみる機会もなくなるのじゃないですか。謡は続けてやってみようと思います。

――卒業したら離れる人も多い。今でもうちのクラブで研究とか文献というよりは強制されるわけでもないですから。僕としては能そのものをみていきたいと思えます。卒業しても多分続くんではないかと思えます。

――伝統ある能楽をいかにしてひろく深くしていくか、という点でどうお考えですか。

――能そのものが判りにくいということもなかなかあります。

――一般の人というのは能をみる機会がない。意識していればみれるが、一人でも多くの人に能のいいところを理解して頂きたいと思えます。今日の高校生能楽鑑賞会もそうだったことから出発しているのですが、高校生の場合とくにお考え方には弾力性があり、先入観がありませんから理解して頂くのによいのではないかと思います。

――専門家として進もうという方はありますか。

――私自身、能はまだ判らないものだから、専門というところになるのわかりません。司会、持さんの方から、こうしたらよいというお気持ち、ご希望があったら。

――まだまだ能を見るという方が少ないと思えます。鑑賞する機会がもっと多ければと思えます。

――言葉はむづかしいが、何審みたく判りませんがだんだんみていくうちに何の知識がなくても判ってくるような気がするのです。

――興味はあると思いますが、卒業したら変わるんじゃないですか。女子学生の場合はどうですか。

――事情が許せば続けてやっています。私と同じです。

謹賀新年

名古屋邦楽協会
名古屋師範地区歌謡部
名古屋師範地区歌謡部

深意
若い世代に高まる関心

謹賀新年

九州 高安会
飯 富 祥 雲

豊 嶋 十 郎

西 村 欽 也
名古屋市瑞穂区仁所町二ノ四五
電話(八三二)五九一九番

谷 田 宗 二 朗

名古屋 和泉流
狂言 共同社

狂言 やるまい会
野村又三郎
名古屋市中村区鳥羽村内三三二
電話(四七二)五〇六七

亀 井 俊 一 雄
保 忠 雄

藤田六郎兵衛
藤田昭彦

森 田 光 春
京都市東山区八坂上町

龍友会 寛 三 男

名古屋能楽鑑賞会
かすみ会
田 鍋 惣 太 郎
田 鍋 洋 一

桂 会
岐阜市松屋町後藤方

福 井 啓 次 郎
福 井 良 久

寛 敏 一
河 村 総 一 郎
吉 田 定 男

長 生 会
鬼 頭 喜 太 郎
鬼 頭 喜 太 郎

池 野 崎 太 茂 郎

演 能 案 内

熊 野 高安 滋郎
後見 梅田 邦久
武田 太加志
地 謙
真河 村 健太郎
尾 関 健太郎
藤田 六郎兵衛
藤田 六郎兵衛
南 泰 三
秀 雄 三

あなたに心をこめておくりする……
富士道の婚礼道具
家具の ふじみち
本社 名古屋市中区栄3丁目34番40号 (新館完成)
TEL (241) 3367・1453
本 ショールーム
工 場 愛知県西加茂郡三好町 TEL (05613) 2-1178

日本観光旅館連盟会員
日本交通公社協定旅館
やま いづみ
料理 旅館 山泉
名古屋市中区栄3丁目19-14 (呉服町通り) 電話 (241) 2506~8 番

中日本装備株式会社
本社 名古屋市中村区高道町6の5
TEL (代表) 461-8111 番

昭和四十三年一月三日 午後二時始
於 熱田神宮 能楽殿
能楽協会名古屋支部初謡会

老 山 本 博之
杉村 一 竹翠

発行 能 楽 の 友 社
 名古屋市千種区吹上本町2-20
 電話 (731) 7984
 振替口座 名古屋 36393
 購読料 1年 200円
 郵送の場合 1年 380円
 一 部 20円

能 楽 の 友

●購読のお申込み
 本紙では、昭和四十三年の購読についてすでに多くのお申込みを頂いておられますことを感謝申し上げます。
 ご購読は一カ年二百円、送料とも三百八十円。
 お申し込み方法は、能楽の友社または社中にておとりまめがえれば幸甚です。
 振替用紙ご入用の際は、お振替料金を能楽の友社負担の用紙をご送付致しますからご利用下さい。

喜多流能八 島 旅僧 宝生弥一 田鍋惣太郎 藤田六郎兵衛
 弓流 旅僧 殿田保輔
 間 那須の洞 浦人 茂山千五郎
 後見 和谷亀三郎 地謡 中尾 栄一 福岡 周三
 連管 中之舞 長谷川 操 鈴木 八寿
 橋 弁慶 小林 琢麻 九橋 勝利 鬼頭 季信
 神 楽 後藤孝一郎 助川 龍夫 繁雄
 寛 鉦一 館 繁雄
 吉田 定男 鹿取 清子
 田鍋 惣太郎 藤田 六郎兵衛

米国各地で公演 野村狂言団一行

野村狂言団一行は、沖繩音楽文化協会主催、琉球放送と沖繩タイムズの後援により、二月八、九の二日間、沖繩タイムズ社ホールこけら落しの記念行事に出演のため沖繩を訪問、同地で「映画と仕舞素謡の会」を開いた。曲目はつぎのとおり。
 なお映画「能」は梅猶会が製作したものである。
 二月八日 午後七時始
 仕舞 梅若修一 梅若善高
 小袖曾我 井戸良造
 舞 井戸良造
 野 守 梅若善高

沖繩で仕舞素謡会 梅猶会一行六人

梅若善高氏ら梅猶会一行は、沖繩音楽文化協会主催、琉球放送と沖繩タイムズの後援により、二月八、九の二日間、沖繩タイムズ社ホールこけら落しの記念行事に出演のため沖繩を訪問、同地で「映画と仕舞素謡の会」を開いた。曲目はつぎのとおり。
 なお映画「能」は梅猶会が製作したものである。
 二月八日 午後七時始
 仕舞 梅若修一 梅若善高
 小袖曾我 井戸良造
 舞 井戸良造
 野 守 梅若善高

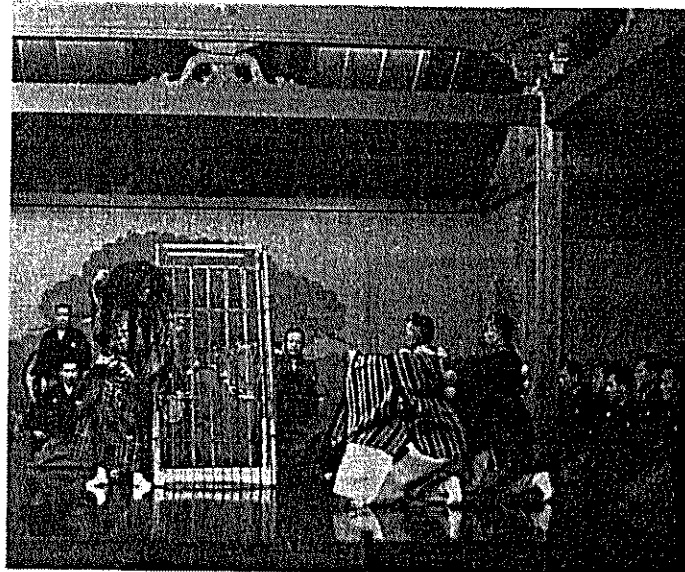
「求塚」のスケッチ

仙田 雪 山 子

求塚の曲は一人の美女へ二人の方への義理にて遂に生田川へ投身若男が同時に恋慕したが、女は自殺した。二人の男も互いに刺し



追えて死んだ。女は自分のために二人の男までも死に至らしめた罪により、冥途にて地獄の責を受ける。このころを伴ったもので、前場に美しい菜摘の光景をみせ、一転して後場に深刻な地獄の責を描くこの対照は、すこしのゆるみもなく、数多い能の中で名曲とされている。後場「火宅の住家御覽せよ」で引出しがおろされ、清潔な乙女から瘦女の面となって、凄絶なその姿を現わす。鉄鳥となった鶯がこうべをつつき囀る。火焔は鬼となって女を追う。「左も右も、水火の責に詰らされて、詮方なくて、火宅の柱に、すがりつきとりつけば」を詠いたもの。罪業に悩む女人の痛ましき、身のものよたつ地獄の光景の演出は「求塚」の型どころである。



安達原后 (日本能楽会名古屋公演より)

「いのり」の事

西村 弘 敬

能一番の中には、調に合せて色々の所作(しよき)をしたり、舞ったりするほかに、謡はなく四拍子の囃子だけで舞う場所があります。即ち序の舞とか、中の舞とか色々の種類の舞などがあり、またこのほかに働(はたらき)、色衣(いろえ)、立廻り(たちまわり)、翔(かけり)、祈り(いのり)などがあります。
 これらは大体仕舞が舞うもので、祈りは仕舞、脇方(わきかた)で舞うもので、珠数をさらさらと振りもんで祈るのは脇方の仕事であります。
 仕舞の方では安宅の能の時に同山が珠数をもちことがあつたかと思われ、この祈りに用いる珠数は則高(いらたか)という特製のもの、珠数の球が扁平で碁石のような形に出来ていて、振り合わせると高い音のするものであります。
 脇方ではこの珠数を担って祈る曲は次の通りです。
 道成寺、葵上、黒塚(視世流では安達原)、飛雲、雷電、星界、調伏曾我、舟弁慶、檀風、野守などであります。
 どであります。そしてこれ等の祈りにも、その目的によって色々の種別があつて、それぞれに心持が相通している。私の流儀では、その種別は次の通りに定まっています。
 一、願念(がんねん)の祈り
 二、敵力(げんりき)の祈り
 三、捨身(しゃしん)の祈り
 四、無明烈強(むみやうれつきやう)の祈り
 五、蟹足(かいそく)の祈り
 などとなっている。これらにそれぞれ例えられているのです。
 一、願念(がんねん)の祈りといふのは、人の恨みによる怨念(おんねん)をなだめ鎮める目的で祈るもの、また捨身の祈りといふは、相手が鬼であるから喰うか喰われるかの必死の力をふりしほる祈りである。いずれもその目的が違ふので、それぞれに違ふ心持である筈で、また、目の附けどころも或いは胸を目標にするとか、或いは口を目標にするとかで、曲によって相違があるものであります。

判官 梅若修一 梅若善高 井戸良造
 山伏 梅若善高 梅若修一
 安宅 梅若善高 梅若修一
 附祝言
 菅 豊後下り羽 藤田六郎兵衛
 狸 々 伊藤与始子 森 勢津子 吉田 安枝 岩井乃志枝
 田鍋惣太郎 鬼頭 季信
 主 龍 梅若善高
 天 鼓 梅若善高
 映 画 「能」鑑賞の知識

式社 株式会 能 楽 八
 第七回 梗雲 会 大会
 二月十一日(日)十時始
 熱田神宮能楽殿

| | | | | | | | | | |
|-----|---------------------|-----|--------------|-----|--------------------|-----|---------------------------|-----|-----------------------------------|
| 能 熊 | 後見 辰巳 正宜 地謡 香川 島 善子 | 能 野 | 高安 澄雄 福井 澄雄 | 能 經 | 小川 道子 西村 欽也 後藤 孝一郎 | 能 鶴 | 後見 倉本 雅二 地謡 竹内 芳金 久野 文也 | 能 龜 | カメ 尾茂田 龍子 植村 本子 高安 敬久 西村 忠敬 立石 澄雄 |
| 能 神 | 東 老 岸本 正美 泉 康雄 | 能 屋 | 北 中 森 三 岸本 孝 | 能 瓦 | 井上 松次郎 井上 礼之助 | 能 龜 | 西村 忠敬 吉田 定男 鬼頭 八郎 藤田 六郎兵衛 | 能 山 | 柴田 正明 岸本 孝 |
| 能 山 | 柴田 正明 岸本 孝 | 能 屋 | 北 中 森 三 岸本 孝 | 能 瓦 | 井上 松次郎 井上 礼之助 | 能 龜 | 西村 忠敬 吉田 定男 鬼頭 八郎 藤田 六郎兵衛 | 能 山 | 柴田 正明 岸本 孝 |
| 能 山 | 柴田 正明 岸本 孝 | 能 屋 | 北 中 森 三 岸本 孝 | 能 瓦 | 井上 松次郎 井上 礼之助 | 能 龜 | 西村 忠敬 吉田 定男 鬼頭 八郎 藤田 六郎兵衛 | 能 山 | 柴田 正明 岸本 孝 |

追善記「大槻十三」

大槻清韻会が編さん

(下図がその表紙)

名古屋にゆかりのことも深く、追善会が一月十五日熱田神宮能楽殿で催されたが、故人をしのぶよすがとして、このほど七回追善出版とし、大槻清韻会の編集により「大槻十三」と題する記念刊行物が上梓された。

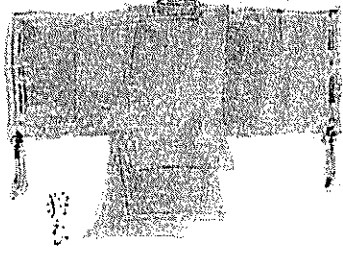
師匠に従え

題字は故人自筆のもので、宗家親世元正、親世佳子(二十四世末亡人)、親世之丞、藤波順三郎の諸氏と親世之丞、大倉長右衛門の両師による故人をしのぶ追善記、故人が諸雑誌に掲載した芸談、数々の舞台写真、沼津雨氏の「十三の舞姿」、片山博道師「演能中の死」、宗家による「お別れの言葉」年譜が収められている。とくに付録として、ソノシート「十三の面影」は、「御進帳」むすかしい問題だと思えます。も

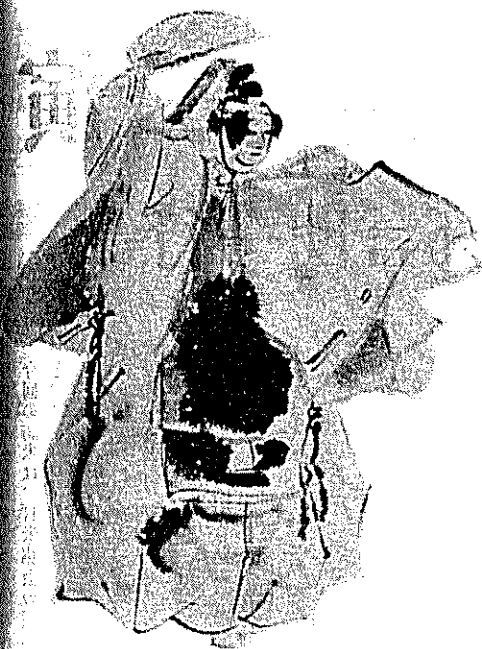
ちろん斯界にその人ありといわれ、その立派な師匠につけば申分ないには違いないが、そこにはまた経済上の問題、あるいは地方なぞではそんな人に習いたくても人がないとか、なかなか容易なことではありませぬ。で、私はいつもこういふことを考えています。謡曲を習うのことは、横道に外れるというところが一番嫌うべきことなのですから、師匠自身もそんな上手でなくとも、たゞ教えるものが横道に横すべつてゆくのを防いでゆくことの出来るだけの心得のある人を師匠として選べばよいのです。謡曲を習うほどの人にとつては、だれにでも必要なことですが、ことさら初心者には、師匠のまね、どこまでも師匠を信頼して、師匠について習ってゆくことを忘れてはなりません。もちろん一人、一人違つたいろいろなクセは持っているものですが、また多人数のなかには、ずいぶんひどいクセを持った人もあるにはありますが、そんなのは比較的に少ないですから、大体にはやっぱり師匠を信頼してもらわ

義談装束 狩衣(かりぎぬ)

逸 栄 井 二 ふみ と



全くの無装飾、無装束ともいえる白木造りの能舞台は、茶室のわびの美しさに通じるが、この舞台に登場するシテの装束は、これはまた、非常に豪華で目を奪われるほどである。この、両袖端のもの調の中からは、能の不思議な美しさが際立って出てくるのである。能装束の豪華さは、模様や色彩もさることながら、その材質(厚い織物地)にもある。厚手の唐織でない薄織の水干や狩衣等でも、ことさらに地をかくして造つてあるのは、彫刻的な直線の輪郭美を強く出すためにはかならない。



水衣(みずころも)、長袖(ちようけん)は、前号で書いたが、本号では(狩衣(かりぎぬ))を書いてみる。これも、能装束の上衣の内の一つである。着附と、上衣を分けて、着附というのはいわゆるの着物に相当する装束をいい、また上衣は、着物の上に着る羽織に当たるものである。さて、狩衣であるが、昔の官服の一種(もと既許に用いたもの)から生れたもので、普通の狩衣と大差はないが、袖の括り紐がすべて二節で、串と拾がある。これに

対する狩袴は用いないで、大抵、大口(おおくち)をはく。位のある者か、威儀を正した役に付ける装束である。拾狩衣は、神休や高貴な男性に、単狩衣は神官につけるのが定法である。なお単狩衣の中には、綴狩衣(よりかきぎぬ)といつて、綴糸を粗にかきぎぬたものもある。織通、大仏供養等に用いられる。

月光の降る紫野の雲林院の庭に伊勢物語の秘事を伝えんとする業平の姿も狩衣の姿である。狩衣の袂、冠の巾子(こし)に打被さし、忍び出すやきさらぎの姿、狩衣の袖を被く型は、私の好きな型の一つである。また一代の風流大臣、藤のおとゞも初冠垂櫻の狩衣姿である。庭中に塩がまを築かせ、難波の浦から日毎、海水を運ばせて焚かせたという稀代の豪者は、その求めんとするところが、ただ、ほのくんと敷く上る夕烟を眺めんとするにあつたらしい。このように、淡々とした気宇調大の者は、わが国ならではみられない雅懐といつていいだろうが、このように詩趣横溢した嵐の夜の狩衣姿も、演出構成の一つである。シテの狩衣の色調と模様が大なる役目を果たしていることを、要はあくまでも師匠につ



- (二面より)
独吟 木 賊 前川 齊
独調 玉之段 泉 嘉夫 八田 源一
半能井 筒 高安 滋郎 河村總一郎 寛 三男
素調 鉢 木 八田 小三 石附 一二
仕舞 花 籠 粟生歌女子
舞囃子 高 砂 高橋 雪 寛 寛 寛 寛 寛 寛
熊 坂 八田常次郎 寛 寛 寛 寛 寛 寛
狂言清 水 井上礼之助 井上松次郎
女神伊藤 滋敏
力神三島 泉 嘉夫
半能絵 馬 西村 欽也 寛 欽一 鬼頭 嘉太郎
立石 澄雄 福井啓次郎 藤田六郎兵衛
地謡・後見等賛助出演
大槻秀夫 泉 康雄 南条秀雄
中森昌三 殿島修二 杉村竹翠
久田秀雄 佐藤太俊 水田 博
主催 壺 泉 嘉 夫 会
◎御来観を歓迎致します(入場無料)

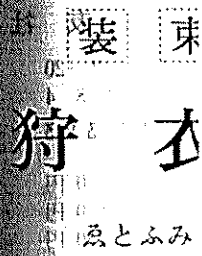
気が打ちつめることが肝要で、だ手を並べて打つというだけでは一調にはなりません。ここに一調のむつかしさがあるものであって、公開の演奏では一調は、特に練達の人が演ずることになっております。小鼓のほかには大鼓と太鼓にも一調があります。大鼓の一調には

催能だより
第十五回記念
重要無形 産 経 観 世 能
文化財

- 青 陽 会
三月十日(日)
熱田神宮能楽殿
能 猿 福川 幸市 寛 欽一 鬼頭 三男
能 土 河村 元昭 後藤孝一郎 寛 三男
能 葛 塚本 秀雄 後藤孝一郎 寛 三男
能 船 柴田 芳江 後藤孝一郎 寛 三男
名匠鑑賞能 (第五十六回)
昭和四十三年三月十七日(日)午後一時始
熱田神宮能楽殿
能組
天女 白本 正宜
ツレ 衣妻 正宜

よりよい品をより安くより親切に
丸榮
てんわ251-1211

一調のこと
一調といふのは、小鼓が太鼓の音に大切に及びます。



「一調」のこと

一調というのは、小鼓が大鼓の... 幸清流では現在の廿八番が...

一調といふのは、小鼓が大鼓の... 幸清流では現在の廿八番が... 幸清流の二代目から分家する...

好番組の名匠鑑賞能 春を飾る宝生宗家来演

名古屋能楽鑑賞会主催の第五十... 宝生宗家の来演... 宝生宗家の来演...

心憎い番組

名匠能の番組の立て方には、い... 心憎い番組... 宝生流独特の男物狂を...

金沢能楽会 定例研究発表会

金沢能楽会は、さる二月四日... 定例研究発表会を金沢能楽堂で開...

第十五回記念 重要無形文化財 産経観世能

Table listing various plays and performers for the 15th anniversary event. Columns include play titles (e.g., 道成寺, 釣針), performers (e.g., 観世喜之, 松本謙三), and dates.

2月のラジオ案内

Table providing radio broadcast schedules for February. Columns include dates (11日, 18日, 25日), program names (e.g., 喜多流, 観世流), and hosts/performers.

サルにちなんで 「鞆猿」のことなど

佐藤 卯三郎

今年、恵方がサル年で、サル年の人は、得て子と云うて幸福が得られる年である。猿は昔から今日に至るまでいろいろな形で話題に出されている。神代には猿田彦大神と伊勢国一之宮大神に祀られている。また奈良朝時代に中国から仏教とともに、猿樂が輸入された。これがわが国の歌舞音楽の元となり後に足利室町時代に舞臺芸術として能楽が完成されたといわれている。

江戸時代から明治にかけて、猿廻しといつて猿を背負い太鼓を叩いて街歩き猿を踊らせたのがあつた。渡世としていたものがあつた。また緑日等に猿芝居として着物を着た猿太夫がある。この助平の道行等といふれこみ、猿芝居の着物は類かむりをさせ、舞臺で踊らせるその姿はとも面白。ロボットの本尊は何を指すのか。また最近では観光客を寄せるために猿ヶ島とて方々にモンキーセンターが設けられた。これは戦前からあるもので、九州の高崎山には幾百の猿が集団飼育されて今は観光ルート上なくてはならない所である。湯の里別府を訪れた人はこれを見ることが出来る。一部は百五十匹位で三組が群をなし見物道が金網で囲まれ、むしろ猿に人間が見られるようである。名古屋東山動物園には、外国産の猿、ゴリラ、チンパンジー、マンドリル、サイクスその他色々の猿類が飼育されている。足利時代の猿に冠を著せ、袴をはかせて舞わせ、一同大いに興がったことが古書にある。これが猿樂の始まりであらう。清正も猿の愛好家で東西する舟中に猿をもてなしたと清正記に見えている。

能楽殿が新築されて既に十年の余になると思うが、改造せねばならぬと感ぜられる所が多々ある。思ふので、もうボツ／＼改造してもらえぬものだろうか。

February 25th (Sunday) 10:00 AM start at Kanonji Temple. Cast list for 'Tama no Uchi' featuring actors like Kanonji, Uchi, and others.

能楽殿に望みたいこと

能楽 愛好家

能楽殿が新築されて既に十年の余になると思うが、改造せねばならぬと感ぜられる所が多々ある。思ふので、もうボツ／＼改造してもらえぬものだろうか。

是非改良して欲しい。角柱で見にくい箇所がたゞさんあるので、そこを通路にして、入口の扉を、そこからお願いしたい。食堂に昼食の出来るようにおは二カ所移動させることによつて、シテ正面のずいぶんよい席が沢山設けられると思うのである。一番見よい場所が通路になつていてそこに扉があるので決して体面なことではないこと、熱意が全然ないことに起因していると思ふ。

昨年に上回る催能

明治百年 ことしの能楽界

国際的にも能楽に対する評価は高まっている。能の生命は古く、しかも新しい。日本の文化や文芸が、この明治百年を機に新たな展望をきくとき、能楽界の昭和四

社中大会 February 11th (Sunday) 9:00 AM start. Cast list for 'Shachū Taishō' featuring actors like Yamada, Nakamura, and others.

Cast list for 'Shachū Taishō' featuring actors like Yamada, Nakamura, and others.

観世元正 研 梅若三郎

わんや書店 (Wan-ya Shoten) listing various books and contact information.

樽書店 (Tsuneshoten) listing various books and contact information.

季節の和菓子 (Seasonal Wagashi) listing various sweets like sakura mochi and kuzumochi.

名古屋でたった一軒のきしめん専門店 (Nagoya Unimichi Kishimen Specialty Store) listing 'Kishimen' and contact information.

能 楽 の 友

行能楽の友
 名古屋千種吹上本町2-20
 電話(731)7984
 振替口座 名古屋 36393
 購読料 1年 200円
 郵送の場合 1年 380円

●購読のお申込み
 本紙では、昭和四十三年の購読についてすでに多くのお申込みを預けておりますことをご感謝申し上げます。
 ご購読は一カ年二百円、送料とも三百八十円。
 お申し込み方法は、能楽の友社または先生にておとりまねがえれば幸甚です。
 振替用紙ご入用の際は、お振込み先お申し込み頂ければ、送料金能楽の友社負担の用紙をご送付致しますからご利用下さい。

より通々東国に下り隅田川の岸邊に連りついた母親は果して何才であつたらうか。「さてその雅児の年は「十二歳」と文中にある。舞台はそれより一年あとのことだから、彼女が十三才の一人子をもつ母親であることは確かである。

春を飾る催能 各流社中大会も活発

名古屋能楽界の三、四月は各流多様な催能が盛られる。熱田神社能楽殿での名匠鑑賞能、定式能、社中大会、中日劇場での中日五流能など意欲ある催しがそろっている。

名匠鑑賞能(三月十七日)は宝生流の名手をそろえ、宝生英雄、英照師の「高野物語」で宝生流独自の男物狂を演じ、野口裕久師の「土朝」ワキはいずれも松本謙三、辰巳 孝、高安滋師の「加茂」の能三番、さらに家元九郎、田鍋惣太郎師の「勸進帳」も劇目できよう。

中日五流能はことし第十三回、中日五流能(四月一日)は宝生流の各流をそろえ、宝生英雄、英照師、梅若六郎師が来演。社中大会は、三日に九草会が全流能「土朝」ワキはいずれも松本謙三、辰巳 孝、高安滋師の「加茂」の能三番、さらに家元九郎、田鍋惣太郎師の「勸進帳」も劇目できよう。

四月には山本親衛会(七日)、久田親正会(十四日)、長生会(十八日)、幸友会(二十九日)の各大会が予定され、また各地での演、金春流 金春榮治郎、宝生流 住持、素謡会だよりもよせられて酒を好んで舞い載れる可憐な少年の妖精「狸々」。



「狸々」 壺泉会大会

さる二月十八日、熱田神社能楽殿で壺泉会大会が催され、能「狸々」が子供供で演ぜられた。シテは中原嘉吉と泉真澄さん。酒を好んで舞い載れる可憐な少年の妖精「狸々」。

大観清領会

伊勢神宮奉納能
 四月四日 於 内宮仮設舞台

能 鶴 野 亀
 能 熊 野 若
 能 杜 若

金春流伊勢神宮祭奉納
 四月五日(金)
 伊勢神宮内宮(仮設舞台)

| | | |
|---|-----|--------|
| 能 | 前シテ | 金春栄夫 |
| 能 | 後シテ | 高橋 汎 |
| 能 | 嵐 山 | 高安滋郎 |
| 能 | 山 | 山 口 義男 |
| 能 | 山 | 三 男 |
| 能 | 山 | 三 男 |
| 能 | 山 | 三 男 |
| 能 | 山 | 三 男 |

事務所移転のお知らせ
 能楽の友社では、このたび事務所を左記に移転致しましたのでご案内申し上げます。
 新住所 名古屋千種区吹上本町二丁目二〇番
 電話(七三二)七九八四番
 なお振替口座番号は従来どおり名古屋三六三九三三です。
 三月一日

演能案内

演能案内
 第十一期 第三回
 青陽会能組
 三月十日(日)午前十一時始
 熱田神社能楽殿

演目：
 花月 加賀 敏彦
 春 加賀 敏彦
 土 河村 元昭
 野 高安 滋郎
 高 後藤 孝一郎
 山 佐藤 秀雄
 後見 加藤 初太郎
 後見 柴田 初太郎

演能案内
 名匠鑑賞能(第五十六回)
 三月十七日(日)午後一時始
 熱田神社能楽殿

演目：
 天女 白木 正
 ツレ 白木 正
 辰巳 孝
 高安 滋郎
 高安 滋郎
 高安 滋郎

演能案内
 高野物語
 宝生 英雄
 宝生 英照
 宝生 英照
 宝生 英照

演目：
 高野物語 松本 謙三
 高野物語 松本 謙三
 高野物語 松本 謙三

演能案内
 鬼頭 正宜
 高安 滋郎
 高安 滋郎
 高安 滋郎

演目：
 鬼頭 正宜
 高安 滋郎
 高安 滋郎

演能案内
 藤田宗家遷居祝賀
 三月二十日(春分の日)午前九時半始
 熱田神社能楽殿

演目：
 藤田宗家遷居祝賀
 藤田宗家遷居祝賀
 藤田宗家遷居祝賀

演能案内
 伊勢神宮奉納能
 四月四日 於 内宮仮設舞台

演目：
 鶴 野 亀
 熊 野 若
 杜 若

演能案内
 金春流伊勢神宮祭奉納
 四月五日(金) 伊勢神宮内宮(仮設舞台)

演目：
 嵐 山
 山 義男
 山 三男

世宗 観宗
 合資会社
 東京部 京都部
 酒
 金山・富

訪米 野村狂言団の活躍

シアトルで公演好評

本紙前号所報のように、日米協同会とワシントン大学の招へい、外務省の後援により野村狂言団(团长野村万蔵氏)一行九人は、二月一日から三月七日まで、アメリカ、カナダ各地で狂言を上演、シアトルを振出しに、ポートランド、サンフランシスコ、ボートーク、スタンホード、キャンサス、オハイオ、キンストン、ニューヨーク、ボストン、トロントを巡演した。同狂言団メンバーの野村又三郎氏(能楽の友人)は編纂部として訪米後のシアトル三日間の公演の模様をつぎのように伝えてきた。(通信は、二月八日シアトル発、編集部三月十四日着)

当地へ到着以来、思いのほかの歓迎とスケジュールに追われ、切り目を気にかけつつ、大変遅れました。まだシアトル滞在中です。二月八日現在、この手紙が古里に着くころつぎの目的地へ参っていること存じます。一応今日までの報告をご連絡申し上げます。

野村狂言団一行九名、一月三十日午後九時四十五分発ノース・ウエスト第四便にて一路シアトルに向う。快適な飛行機。現地時間三十日午後三時三十分シアトルに着く。(日本時間三十一日午前七時半)六時より領事館招待のカクテルパーティーに一同出席する。

途中から雪の歓迎に逢う。当地では二十九日朝より雪模様とのこと。翌日二月一日の公演を前に舞台の古に一同参加。三間四方、一間半の橋渡しと立派な舞台が完成、非常に演じ易い舞台。五百名程度収容の小劇場(シアトル・ウエス)です。

二月二、三、四、八、九、十日の六日間の公演で八時半開演。プログラム(A)椿、(B)釣鐘、(C)二人大名、(D)山伏、(E)うつけ猿の順序で公演する。新聞、テレビなどのPRもある。第一回の三日間は非常に顧客も多く好評であった。

プログラムの一部を紹介いたします。
THE CENTER FOR ASIAN ARTS UNIVERSITY OF WASHINGTON AND A TEMPORARY THEATRE PRESENT

七日一時半より、カイロテレビにて狂言「附子」のビデオあり。約二十分。ジェームズ・マッキンノン氏解説。

(シアトルにて野村又三郎氏「附子」上演曲のうら「釣鐘」)

マッキンノン氏は、ワシントン大学教授で能・狂言の研究者として知られ、今回の訪米も、マッキンノン氏の努力が実を結んだものである。なお同氏は「世阿弥の研究」で学位を得ている。



春のおとずれと共に、人々は、樹々が芽を吹き出すように、それぞれ意欲的に、春の女神は人々の心の中に、一つ、新しい生命のともしびを点火してゆくのである。

そして、あちこちに王朝の華麗な絵巻をくりひろげるのが、能である。春の能には、湯谷(能登)、草紙洗小町、杜若、東北、羽衣、桜川など、かずかずあるが、中でも唐織物は美しい。

昔、金沢で、しつとりとした春の夜能を見たことがあった。今は

知らないが、その頃の金沢の舞台は、見所が豊富でまことに気持がよいく、妙に印象に残っているのである。それは、はらりと散る春の夜能であったからかも知れない。上演曲は舟弁慶であったが、シテは佐野さんであったことや、その唐織姿が非常に美しく、かつたことを覚えている。数ある能装束の中でも唐織は代表的なもので、感動を受けた唐織姿、こまこまは、私の頭にきざみこまれたり、スケッチ帖に残された

現在の私達が着る着物に相当する着附(きつけ)には、厚板、摺箔(すりばく)、白練(しろねり)、白綾(しろあや)東斗目(しのめ)小袖(こそで)などがあるが、唐織は、摺箔と呼ぶ、金箔や銀箔で型を置いた光沢のある平絹の上に羽織る厚織の上衣の一つである。唐織といふのは、練糸と金糸で、色々の模様を浮織にし、金襴・緞子・綾・錦のような中国風の

義談東装 (四) 唐織(からおり)

逸栄井二 二とふみ



唐織(からおり)は、もとは、明(みん)から輸入された高価な織物であるが、能の装束は、実用も技法も、日本独特のものなのである。

(左)熊野からおり姿



(左)熊野からおり姿

東京新聞 中日新聞 中日新聞 中日新聞

東京新聞 中日新聞 中日新聞 中日新聞

東京新聞 中日新聞 中日新聞 中日新聞

久田 観正会 春季大会 四月十四日(日) 午前九時半始

熱田 神宮 能楽殿

山本 観衛会 囃子会 四月七日(日) 熱田 神宮 能楽殿

能「狸々乱」ほか仕舞、舞囃子数番

仕舞、舞囃子数番

金沢能楽会定例研究発表会 3月

金沢能楽会は三月三日、金沢能楽堂で定例研究発表会を開催した。

素謡「鞍馬天狗」シテ 柴田直明、子方 柴田佳明、ワキ 瀬戸明、地謡 河崎米次郎社中。

能「殺生石」前シテ 村井美智子、後シテ 角嘉一、ワキ 泉喜八、大鼓 飯島忠、小鼓 住駒陽介、太鼓 石黒俊二、笛 林豊寿

後見 宮野伍朗、玉川 博、地謡 田川雅章ほか

狂言「一番草履」能村英兵、畑中

金沢市広坂一丁目一十二号 電話二〇一八番

邦謡会大会 三月三十一日(日) 熱田 神宮 能楽殿

久田 観正会 春季大会 四月十四日(日) 午前九時半始 熱田 神宮 能楽殿

山本 観衛会 囃子会 四月七日(日) 熱田 神宮 能楽殿

能「狸々乱」ほか仕舞、舞囃子数番

仕舞、舞囃子数番

能の演出に、特殊な型とか囃子(柄(宝生)で傘をさして出たり、の変化をつけて演ずる場合、曲目 鞍馬天狗の白頭(喜多)で鹿背杖

小書のこと

シテの型の替わるのは一等多し。大抵の小書はシテの型に変化をみる。この場合には、装束も囃子も替わることが多い。たとえば舟弁慶の小書(重前後替、後之出留之伝、遊女之舞替之出、白波

名古屋観世丸傘会

此水会春季季誌会

此水会では、三月十七日春季誌会を高野瀬通師宅(名古屋市中区横木町二ノ九)で開催する。

連吟「玄象」、素謡「蟻通」「生田敬盛」「玉璽」「小塩」「結正」「融」「国橋」一調「笠之

天 久田 秀雄 西村 欽也 河村 一郎 助川 三男

鉄 輪 林 甲子夫 高野 透 末吉 地謡 尾内 健太郎 飯田 賢

四月二十一日(日)午後一時始 熱田 神宮 能楽殿

装 唐 新

「小書」のこと

能の演出に、特殊な型とか囃子の変化をつけて演ずる場合、曲目の左側に小さい文字で、その特殊演出のことを書き添える。これが「小書」である。演ずるときには「小書附」(こがきつき)で演ずるといふ。

三宅義氏(能楽全書)によれば、現行二百五十番ほどの曲のうち、約百七十番に小書があるが、その中には「融」「海人」のように一番で幾つも小書のある曲もあって、総計すると約六百近くになる。

古書によれば、この小書の趣意は、同じ能を幾度も同じ人が演じては観客を倦ませることから、面白い肩書をつけ、実際に近い変わった技を演ずるとか、なかには、太夫の一時の過りがその技能がすぐれているため、かえって観る人の嗜好に適し、意外にも好評を博したので、それをとって習事としたものもある。また方のあるすぐれた太夫が、工夫して付け加え、或いは変更したなどによって小書の数も段々増えたといわれる。

能楽大辞典(明治四十一年刊)によると、所作につきて名付けたもの、舞の類につきて名付けたもの、笛太鼓の曲につきて名付けたもの、装束の変易につきて名付けたもの、作者の変易につきて名付けたもの、文句の変易につきて名付けたものがある。

小書によって生ずる演出の変化は大体つぎのように分けることができる。(能楽全書より)

一、面装束、小道具類が変わるもの

替装束とハッキリ称える場合は勿論だが、他の名称の場合でも、シテやツレの面装束、持物などが常とは異なるもの、例えば「融の舞之舞(宝生・喜多)」に、真実の笏を持って出たり、邯鄲の長柄(宝生)で傘をさして出たり、鞍馬天狗の白頭(喜多)で鹿背杖に桜枝を附けたり、絵馬の女体(喜多)で後シテは、小面に褐色髪、天冠に日輪、襟は三つ襟、白地摺箔に白地袴袴衣をエモンに着け、緋大口を穿いたり、高砂の八段之舞(観世)に常の邯鄲男の面が三日月に替わるといった類である。

二、作物が出る時と出ない時とあるもの

普通は出る作物が、小書によって出なくなる場合があり、またその反対に特に作物を出すこともある。

例えば高砂に作物出(宝生)と書いて、青竹で囲った相生松の立木を出す式もあり、殺生石の白頭(観世)では、常に出す石の作物を省略し、幕内を用い、「この石二つに割るれば」で後シテが幕を掲げて走り出る類である。

また石橋の三ツ台(喜多)で、一壘台を三つ品字型に重ねるなど甚だ特殊である。狸々乱で作物の壘を出すのも、経政(金剛)に、壘壘を出すのもみなこの類である。

三、登場の役者が変わるもの

シテとツレがその位置を替わるもの、また常には登場しない役者が出てくるものもある。例えば、竹生島の女体(金剛)では、常のツレ天女がシテになり、シテ樹がある一人獅子であるが、小書になると二人あるいは三人、四人の獅子が登場する。また小鍛冶の前シテは常に童子であるが、白頭になると劇に替わる(観世、金剛)老松の紅梅殿になると、いつもは出ない紅梅天女が登場して舞をまう。

四、謡の文句に変更を来たすもの

これにはおよそ三通りの変化がある。一つは文句を省略する場合

る平絹の上に羽織る厚織の上衣の一つである。唐織というのには、練糸と金糸で、色々な模様を浮織にし、金細・緞子・綾・錦のような中国風のクセをぬいたりする例。一つは常にない文句を挿入する場合、これの最も極端なのは、安宅の問答習、橋弁慶の笛の巻、夜討曾我の十番斬で、これらは殆んど独立した別の曲ともみられるが、これほどでなく、短かい章句の挿入は、山姥雪月花舞、羽衣盤沙(宝生)邯鄲拳之出(喜多)などにある。このほかワキの語、狂言の語もある。



東京新聞
中日新聞東京本社
東京港区海岸町2-3-1
TEL: 大代表 171-2111

シテの型の替わるのは一等多。大抵の小書はシテの型に変化をみる。この場合には、装束も囃子も替わることが多い。たとえば舟弁慶の小書(重前後替、後之出留之伝、遊女之舞替之出、白波、真之伝)等がこの条件をそなえている。これらの小書はシテの型が替わり、装束が替わり、囃子が替わり、謡の緩急が著しくなる。演劇の順序も変更される。

六、囃子が替わるもの

いわゆる舞が替わるのを主とするが、これには中之舞が序の舞になり、序の舞がイロエに替わり、神舞が神楽になるといった風に、外之派風では、キリの「善知鳥は却つて鷹となり」以下の文句を「ことわりや我ながら」云々と全然あらため、大原御幸の夜光院では、クセ後をロンギにして「げに傷はしき物語」云々と全く別の謡にするなどの例である。

いま一つは、ある部分の詞章を別題のものに置換える場合、すなわち花筐の儀之伝では「あらいまはしの事や候」を「あら勿体な事や候」とかえて謡い、善知鳥の外之派風では、キリの「善知鳥は却つて鷹となり」以下の文句を「ことわりや我ながら」云々と全然あらため、大原御幸の夜光院では、クセ後をロンギにして「げに傷はしき物語」云々と全く別の謡にするなどの例である。

私に最近の比較的短い期間に松風の能を二度みる機会をえた。一つは昨年十一月の名古屋観世会、六郎師であり、一つは本年二月の名古屋梅酒会の盛義師である。

もとより素人の私には一方が戯之舞であり、他方が見留の小書である違いを知らない。だからといって文句をひもひもとの相違を研究するほどの暇もない。能があくまで芸術であるなら、観客の私にむかひしい理屈をぬきにして能そのものを楽しめばよいのである。

観客を無条件に楽しませてくれる能がよい能であって、そうでない能はこの能率とスピードを尊重する現代にあつては一時間以上の自由の拘束にすぎない。能の小書

二つの「松風」

素人 能 評

私に最近の比較的短い期間に松風の能を二度みる機会をえた。一つは昨年十一月の名古屋観世会、六郎師であり、一つは本年二月の名古屋梅酒会の盛義師である。

もとより素人の私には一方が戯之舞であり、他方が見留の小書である違いを知らない。だからといって文句をひもひもとの相違を研究するほどの暇もない。能があくまで芸術であるなら、観客の私にむかひしい理屈をぬきにして能そのものを楽しめばよいのである。

観客を無条件に楽しませてくれる能がよい能であって、そうでない能はこの能率とスピードを尊重する現代にあつては一時間以上の自由の拘束にすぎない。能の小書

長袖会囃子会
長袖会囃子会は、三月十七日、河村舞台で午前十時から行なわれ

名古屋観世九卓会
記念祝賀大会
名古屋観世九卓会では、ことし九卓会東京本部が九卓会と命名しその第一回催進から満六十年の還暦にあたり、恒例の春の大会をこの記念祝賀会として、さる三月三日、熱田神宮能楽殿で大会を開催した。

質問箱
毎月、能楽の友を楽しみに読ませて頂いております。しかし郵送で送られるせいか、私の手許に届くのが十五日すぎになり、NHKのラジオ放送番組や折角の演能案内は済んでいるのは惜しいと思っております。ご研究下さるようお願い致します。(千種区・丁生)

長袖会囃子会
長袖会囃子会は、三月十七日、河村舞台で午前十時から行なわれ

3月のラジオ案内

ラジオ第2放送
毎日曜日 午前8時から9時まで

| | | | | |
|-----|-----|------|-------|------|
| 10日 | 金春流 | 「羽衣」 | 松間 | 竜馬ほか |
| | 喜多流 | 「経政」 | 福岡 | 周斎ほか |
| 17日 | 宝生流 | 「定家」 | 宝生 | 英雄ほか |
| 24日 | 観世流 | 「千手」 | 観世鉄之丞 | 承ほか |
| 31日 | 金剛流 | 「花月」 | 金剛 | 巖ほか |

四月二十九日(祭) 熱田神宮能楽殿

| | | | | |
|------|-------------------|-------------------|-----------|--------|
| 天鼓 | 久田 秀雄 | 西村 欽也 | 河村 隆一郎 | 寛助川 竜夫 |
| 鉄輪 | 林 甲子夫 | 高野 順 | 末吉 久 | 藤谷 政二 |
| 三輪 | 河村 隆二 | 加藤 丈太郎 | 地謡 飯田 健太郎 | 久田 徹二 |
| 花月 | 塚本 秀雄 | 地謡 佐藤 内六郎 | 竹内 六郎 | 上田 照也 |
| 弱法師 | 西村 欽也 | 後藤 孝一郎 | 寛三男 | |
| 寝音曲 | 野村 又三郎 | 井上 礼之助 | | |
| 當 | 梅田 邦久 | 立石 澄雄 | 高安 勝久 | 鬼頭 八郎 |
| 風山 | 後見 河村 隆二 | 柴田 初太郎 | 地謡 尾関 健太郎 | 高野 順 |
| 雲林院 | 野村 四郎 | 柴田 初太郎 | 梅若 景英 | 高野 順 |
| 春日童神 | 梅若 景英 | 梅若 景英 | 地謡 梅田 邦久 | 高野 順 |
| 子方 | 河村 隆二 | 西村 欽也 | 立石 澄雄 | 高野 順 |
| 邯鄲 | 後見 梅田 邦久 | 観世 鉄之丞 | 地謡 増田 十草 | 高野 順 |
| 長生会 | 追善能 | 四月二十八日(日) 熱田神宮能楽殿 | | |
| 卷 | 下田 雄三 | 伏藤 長八 | 西村 欽也 | 寛助川 竜夫 |
| 碓 | 西村 欽也 | 後藤 孝一郎 | 藤田 昭彦 | |
| 幸友会 | 四月二十九日(祭) 熱田神宮能楽殿 | | | |
| 能 | 藤田 昭彦 | 高安 勝久 | 河村 隆一郎 | 鬼頭 八郎 |
| 幸友会 | 四月二十九日(祭) 熱田神宮能楽殿 | | | |
| 能 | 藤田 昭彦 | 高安 勝久 | 河村 隆一郎 | 鬼頭 八郎 |

中日五流能

三月二十四日(日)

名古屋・栄東中日劇場

第一部(午前十時開演)

宮守 金春宗吉郎

金春流能 通 紀貫之(高安勝郎) 高木敏一郎 小寺金七

後見 金春 兎美 地謡 赤川 敏幸

親世流能 熊 坂 洩世 元昭 地謡 林後藤 正男

和泉流能 千 鳥 太郎冠者 野村 万蔵 酒屋 野村 又三郎

宝生流能 陽田川 護守 宝生弥一 大倉長十郎 野口伝之輔

梅若丸 辰巳彌次郎

後見 渡辺春之助 地謡 加藤 勝一

金春流能 加 茂 金春 欣三 地謡 山田 信三

親世流能 富士太鼓 坂井音次郎 地謡 飯田 重三

宝生流能 鉄 輪 辰巳 孝 地謡 戸内 秀二

生若丸 吉田 隆夫 福井 忠

稚児 西田 素子 福井 忠

稚児 深見 理 福井 忠

山伏後 大天狗 親世喜之 安福 春雄

親世流能 鞍馬天狗 藤田 大五郎

素白頭 藤田 大五郎

間 能ノ葉天狗 井上松次郎

後見 梅若丸 五木田武計 地謡 佐藤 太夫

高多流能 八 島 旅僧 宝生弥一 山本敬一郎

間 那須の語 浦人 茂山千五郎

後見 和谷龜三郎 地謡 二井 栄逸

重区吹上本町2-20 31) 7 9 8 4 古屋 3 6 3 9 3

1年 200円 1年 380円 20円

公演行

親世流能 放下僧

柴田初太郎 地謡 後藤 甲子

金剛流能 東 北

山田仁三郎 地謡 大塚 三吉

親世流能 殺生石

浅見 重弘 地謡 加藤 兵衛

喜多流能 花 月

福岡 周齊

杜若の精 梅若丸

安福 春雄 地謡 藤田 大五郎

大蔵流能 宗 論

法華僧 茂山千五郎 淳土僧 茂山千五郎

金剛流能 耶 耶

大臣 西村 欣也 高安勝郎 高安勝郎

附祝言

後見 豊島 弥左衛門 地謡 伊藤 鉄之進

藤田宗家還暦祝賀

三月二十日(春分の日)午前九時半始

雛 子 組

熱田 神 宮 能 楽 殿

管 下 り 羽

小谷津治男

高 砂

田中さん 地謡 坂井 音次郎

熊 野

深見 弥太郎 地謡 福井 音次郎

卷 絹

後藤 鈴子 地謡 河村 総一郎

羽 衣

高木 美智子 地謡 河村 総一郎

連管 中之舞

長谷川 八寿 地謡 丸橋 勝利

橋 弁 慶

小林 琢郎 地謡 後藤 孝一郎

湖 蝶

平河 和子 田鍋 洋一

七 騎 落

宮崎 英子 後藤 孝一郎

菊 慈 童

吉川 宇良子 河村 総一郎

花 月

松井 省吾 河村 総一郎

草 紙 洗 城

松見 年子 田鍋 洋一

草 之 神 楽

吉田 恒治 河村 総一郎

野 宮

佐藤 アヤ子 田鍋 洋一

安 宅

山森 幸男 吉田 定男

草子洗小町

岡部 幸江 丸橋 勝利

葛 城

大和舞 吉田 定男

竹 生 島

戸田 秀雄 内藤 純子

早 舞

クワロギ 谷沢 トミ子 福井 音次郎

小 督

原 正義 河村 総一郎

楊 貴 妃

濱村 園子 大川 和夫

花 月

近藤 重次 吉田 定男

熊 野

戸田 和 吉田 定男

船 弁 慶

岡田 寿子 河村 総一郎

山 姥

増田 よし 青木 恒治

養 老

水波之伝 吉田 定男

融

渡辺 節子 後藤 孝一郎

杜 若

十三段之舞 吉田 定男

序 付 神 楽

恋之舞 河村 総一郎

硯 々

松本 秀子 河村 総一郎

狸 々

伊藤 与始子 田鍋 洋一

管 豊後下り羽

藤田 六郎兵衛 森 勢津子

演能案内

第七回 梗雲 大会

二月十一日(日)十時始

熱田神宮能楽殿

カメ 保津 眞子

株 式 社 トモエ硝子製造所

代表取締役 片岡 良平

名古屋市中区松町三丁目

電話 721-6531(代)

名 古 屋 龜 末 廣

中区錦3丁目14-5 962-3831(代)

能 楽 殿 御 用 達 八 百 彦 支 店

名古屋市中区相生町2の18

電話 (941) 4707番

発行 能 楽 の 友 社

名古屋市中区上本町2-20
電話 (731) 7984
振替口座 名古屋 36393

購 読 料 1年 200円
郵 送 の 場 合 1年 380円
一 部 20円

能 楽 の 友

題字は熱田神宮 篠田富司筆

●購読のお申込み
本紙の購読については、多くのお申込みを頂いており、購読料を感謝申し上げます。ご購入は一年二百円、送料も三百八十円。お申し込み方法は、能楽の友社または先生にておとりまめねえれば幸甚です。振替用紙ご入用の場合はお振替用紙にお申し込み頂ければ、送料金を能楽の友社負担の用紙をご送付致しますからご利用下さい。

第三回の薪能

8月に開催決まる

薪能は神事能の一つで、奈良の興福寺の南大門の芝の上で、毎年陰曆二月に七日間新明りの中で、観世、金春、宝生、金剛の四座の太夫によって行なわれた能楽で、昔は夏にも催されたといえられていた。現在では伝統ある興福寺の薪能をはじめ、京都、東京、大阪でそれぞれ行なわれ、名古屋では二十年前ほど熱田神宮で催されたことがあるが、能楽協会名古屋支部能楽師、能楽愛好者、文化教育関係方面の熱意が実って、一昨年八月若宮八幡社で「新能」を催し、ひきつづき、昨年八月同じく若宮八幡社で第二回が行なわれ、杉戸名古屋市長もとくに臨席して、薪能によせてあいさつを述べ、市民文化の向上のうえで能楽のついでに、また能楽協会名古屋支部主催、愛知県、名古屋市、愛知県教育委員会、名古屋市教育委員会、朝日新聞社、名古屋能楽会後援の「大衆能」も好番組をもって九月一日(日)に熱田神宮能楽殿で行なわれることに決定した。

「葵上」のスケッチ

仙田 雪山子



この曲は四番目物であるが、切能にも用いられ、源氏物語の葵の巻に登場したもので、金春神竹の作として謡曲愛好家にはよく知られている曲である。

光源氏の北方である左大臣の息女葵上が物怪に悩まされるので、照目の神子(シテツレ)にその本性を現わさせると、六条の御息所が現われて、源氏の愛を失った恨と道成寺と安達原とは何かとよく比較される。女性をシテとしながら、愛物とは反対な気分をもちあげるところに能の世界の幅を示す曲である。

優雅な、教養高い貴婦人が嫉妬に燃え生霊となって恋仇の女性にとり憑き苦しめる。優雅の趣きと女性の嫉妬、明暗二面をもつて前段と後段に表現されており、謡としても面白く、能としても、なかなか見所のある曲として親しまれ、また難所のある曲である。面は泥眼(でいがん)を用いるので、この曲に最も似合らしいものである。

先代梅若万三郎師二十三回追善

四月二十日(土) 午前十時始

熱田神宮 能楽殿

| | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|--------|--------|--------|-------|--------|-------|--------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|--------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|
| 東野 北 | 吉野 天 | 田村 衣 | 班 女 | 頼 政 | 雲 院 | 紅 葉 | 船 舟 | 柏 崎 | 桜 川 | 富士 太 | 勸 進 | 琴 之 | 弱 法 | 杜 若 | 玉 之 | 野 宮 | 三 輪 | 千 手 | 梅 枝 | 藤 戸 | 楊 貴 | 松 風 | 唐 船 | 班 女 | 清 経 | 菊 童 | 熊 野 | 船 舟 | 天 鼓 | 融 鼓 | |
| 北湯口 安子 | 滝島 とみ子 | 長崎鋳右衛門 | 松本 律子 | 弥政 寿美子 | 加藤 章一 | 星川 寿恵子 | 木村 洋子 | 野村嘉寿子 | 鈴木喜久子 | 羽原 沢美 | 佐藤 豊次 | 菊地 重郷 | 熊 沢 敦 | 西尾 房子 | 奥村 昌子 | 橋本 絢子 | 中村 治子 | 沢田 春子 | 加藤 登志子 | 稲木 起志 | 伊藤 恵美 | 長谷川 操 | 神田佳代子 | 鈴木 八寿 | 菊地 敏子 | 上羽 秀 | 杉田 合子 | 奥田 敏子 | 深谷 和代 | 梅若 猶彦 | |
| 福井啓次郎 | 福井啓次郎 | 福井啓次郎 | 福井啓次郎 | 福井啓次郎 | 福井啓次郎 | 福井啓次郎 | 福井啓次郎 | 福井啓次郎 | 福井啓次郎 | 福井啓次郎 | 福井啓次郎 | 福井啓次郎 | 福井啓次郎 | 福井啓次郎 | 福井啓次郎 | 福井啓次郎 | 福井啓次郎 | 福井啓次郎 | 福井啓次郎 | 福井啓次郎 | 福井啓次郎 | 福井啓次郎 | 福井啓次郎 | 福井啓次郎 | 福井啓次郎 | 福井啓次郎 | 福井啓次郎 | 福井啓次郎 | 福井啓次郎 | 福井啓次郎 | 福井啓次郎 |
| 梅若 猶彦 | 梅若 猶彦 | 梅若 猶彦 | 梅若 猶彦 | 梅若 猶彦 | 梅若 猶彦 | 梅若 猶彦 | 梅若 猶彦 | 梅若 猶彦 | 梅若 猶彦 | 梅若 猶彦 | 梅若 猶彦 | 梅若 猶彦 | 梅若 猶彦 | 梅若 猶彦 | 梅若 猶彦 | 梅若 猶彦 | 梅若 猶彦 | 梅若 猶彦 | 梅若 猶彦 | 梅若 猶彦 | 梅若 猶彦 | 梅若 猶彦 | 梅若 猶彦 | 梅若 猶彦 | 梅若 猶彦 | 梅若 猶彦 | 梅若 猶彦 | 梅若 猶彦 | 梅若 猶彦 | 梅若 猶彦 | 梅若 猶彦 |

4月のラジオ案内
ラジオ第2放送
毎日曜日 午前8時から9時まで

14日 下懸宝生流「桜川」 松本謙三ほか
21日 観世流「西行桜」 梅若猶彦ほか
28日 宝生流「海士」 宝生九郎ほか

(番組の変わることがあります。ご了承下さい。)

| | | | | | | | | |
|---------|----------|-------|---------|--------|-----------|-----------|---------|---------|
| 子方 河村大郎 | 雲林院 春日竜神 | 飯 山 | 嵐 山 | 当 梅田邦久 | 寝音曲 野村又三郎 | 弱 法 西村 欽也 | 鉄 輪 甲子夫 | 井 口 豊橋市 |
| 梅若 六郎 | 梅若 景英 | 野村 四郎 | 観世 静夫 | 立石 澄雄 | 高安 勝久 | 佐藤 友彦 | 高野 謙三 | 梅若 猶彦 |
| 西村 弘敬 | 立石 澄雄 | 井上 祐一 | 後見 観世之丞 | 高安 勝久 | 高安 勝久 | 高安 勝久 | 高野 謙三 | 梅若 猶彦 |
| 梅若 六郎 | 梅若 景英 | 野村 四郎 | 観世 静夫 | 立石 澄雄 | 高安 勝久 | 高安 勝久 | 高野 謙三 | 梅若 猶彦 |

甘之母



野村又三郎師を囲んで
牧野素子さん

米国の狂言の公演について

米国の公演は狂言としては二回目になります。昭和三十八年から一年間、野村方蔵師が大学の講師として米国の各都市に巡回公演したのが、本格的な公演として今回が初めてです。もちろんその下地があったので、今回の公演が力を入れたものであったわけですが、それだけに、こんどの公演は大変期待して歓迎してくださるという感じでした。そうした一面としては、観客にぶっつけてすぐ反応がでる。笑うツボが理解され、言葉が判らないことを超越して強い関心をもちかけているという感じを観客からはっきりうけておる感じができました。一行としてはとくに公演が一本勝負だから熱を入れてやる。それが受けとる方に体でうけておる何かがあったのではないのでしょうか。

公演の様子は

公演は(A)番組 棒縛、釣瓶、くまびら、(B)番組 附子、鎌取、首引、(C)番組 二人大名、蟹山伏、細道(うづはば)の三つのプログラムを各地を回りました。会場はシヤトル、ニューヨーク、サンフランシスコの各劇場、あとは大休大学でした。最初のシヤトルは六回(二月一、二、三、七、八、九日)で全プログラムを上演、ポートルランド(十一日)C番組、サンフランシスコ(十三日)A番組、カリフォルニア大学(十六日)B番組、スタンフォード(十九日)B番組、ローランド(二十一日)キャンサ

印象深めた公演

野村又三郎師を囲んで

機で帰りました。公演は夜八時半ごろから十時半ごろまで。公演前のレクチュアが二時ないし三時から五時ごろまで二時間あまりあり三百人から七百ぐらい聴講してくれました。このレクチュア・デモンストラーション(実技解説)はマッキンソン氏が講義をして、狂言を四、五番、棒しばり、釣瓶、釣瓶、花子などの曲の解説、見どころ、聞きどころを解説し、部分的にその間に狂言をやるのです。たとえば舞台の定義、道行とはといったことを具体的に解説します。とても熱心に聞いてくれました。それだけに一行はこのレクチュアに

観客の入りか

シヤトルでは六回公演、多いときは千人、少ないときは五百人はありました。この六日間四千人、五千人の観客があったわけですが、入場料は三ドル(四ドル程度)です。シヤトルではテレビでPRしたようです。番組は英語の番組でマ

観客のマナー

休憩があっても、必ず開演までに席について待つという態度です。とくに感じたことは静粛にみていることです。もちろん面白いときには笑うのですが、さわめてしずかに鑑賞してくれました。このことはどの会場でも感じたことです。ヨーロッパの場合には、おかしなところでも、こらえの鑑賞のしかたでしたが、今回は客との親近感を一層強く感じました。マッキンソン氏の説明もよかったです。思います。

人気があった番組

とくにとりあげるとすればA番組の棒縛、くまびら、釣瓶が一番うけたようです。またうづはばは子供が出るということで楽しませたようです。観客には夫婦づれ、家族づれも多く、附子、棒しばりなど子供たちも喜んで手をたたくてくれました。この反面鑑賞などは、理解されなかつた面もあります。首引、くまびらなどの方がショー的だし理解されやすいようでした。日本人がみても、アメリカ人がみても棒しばりなどが面白い。鑑賞などは言葉で聞かせるのですが言葉の面白さが判らないと理解されなかつた点があると思えます。レクチュアで「花子」をやります。(四面へつづく)

米国の狂言の公演について

米国の公演は狂言としては二回目になります。昭和三十八年から一年間、野村方蔵師が大学の講師として米国の各都市に巡回公演したのが、本格的な公演として今回が初めてです。もちろんその下地があったので、今回の公演が力を入れたものであったわけですが、それだけに、こんどの公演は大変期待して歓迎してくださるという感じでした。そうした一面としては、観客にぶっつけてすぐ反応がでる。笑うツボが理解され、言葉が判らないことを超越して強い関心をもちかけているという感じを観客からはっきりうけておる感じができました。一行としてはとくに公演が一本勝負だから熱を入れてやる。それが受けとる方に体でうけておる何かがあったのではないのでしょうか。

公演の様子は

公演は(A)番組 棒縛、釣瓶、くまびら、(B)番組 附子、鎌取、首引、(C)番組 二人大名、蟹山伏、細道(うづはば)の三つのプログラムを各地を回りました。会場はシヤトル、ニューヨーク、サンフランシスコの各劇場、あとは大休大学でした。最初のシヤトルは六回(二月一、二、三、七、八、九日)で全プログラムを上演、ポートルランド(十一日)C番組、サンフランシスコ(十三日)A番組、カリフォルニア大学(十六日)B番組、スタンフォード(十九日)B番組、ローランド(二十一日)キャンサ

印象深めた公演

野村又三郎師を囲んで

機で帰りました。公演は夜八時半ごろから十時半ごろまで。公演前のレクチュアが二時ないし三時から五時ごろまで二時間あまりあり三百人から七百ぐらい聴講してくれました。このレクチュア・デモンストラーション(実技解説)はマッキンソン氏が講義をして、狂言を四、五番、棒しばり、釣瓶、釣瓶、花子などの曲の解説、見どころ、聞きどころを解説し、部分的にその間に狂言をやるのです。たとえば舞台の定義、道行とはといったことを具体的に解説します。とても熱心に聞いてくれました。それだけに一行はこのレクチュアに

観客の入りか

シヤトルでは六回公演、多いときは千人、少ないときは五百人はありました。この六日間四千人、五千人の観客があったわけですが、入場料は三ドル(四ドル程度)です。シヤトルではテレビでPRしたようです。番組は英語の番組でマ

観客のマナー

休憩があっても、必ず開演までに席について待つという態度です。とくに感じたことは静粛にみていることです。もちろん面白いときには笑うのですが、さわめてしずかに鑑賞してくれました。このことはどの会場でも感じたことです。ヨーロッパの場合には、おかしなところでも、こらえの鑑賞のしかたでしたが、今回は客との親近感を一層強く感じました。マッキンソン氏の説明もよかったです。思います。

人気があった番組

とくにとりあげるとすればA番組の棒縛、くまびら、釣瓶が一番うけたようです。またうづはばは子供が出るということで楽しませたようです。観客には夫婦づれ、家族づれも多く、附子、棒しばりなど子供たちも喜んで手をたたくてくれました。この反面鑑賞などは、理解されなかつた面もあります。首引、くまびらなどの方がショー的だし理解されやすいようでした。日本人がみても、アメリカ人がみても棒しばりなどが面白い。鑑賞などは言葉で聞かせるのですが言葉の面白さが判らないと理解されなかつた点があると思えます。レクチュアで「花子」をやります。(四面へつづく)

舞台について

舞台装置がとてもよくゆきとどいていました。演者の私たちに親切であったことを感謝しております。マッキンソン氏が指導してやりよい舞台にして頂いた。会場によって大きい舞台、大学だと講堂につくりますが、松も置くしシヤトル、ワキ住も柱に箱でこしらえてランカもつけてあります。松とか杉とかを使わないので、すべりは悪いのですが、或る程度

舞台について

舞台装置がとてもよくゆきとどいていました。演者の私たちに親切であったことを感謝しております。マッキンソン氏が指導してやりよい舞台にして頂いた。会場によって大きい舞台、大学だと講堂につくりますが、松も置くしシヤトル、ワキ住も柱に箱でこしらえてランカもつけてあります。松とか杉とかを使わないので、すべりは悪いのですが、或る程度

次回予告(五十八回)

十月二十七日(日)
能 小袖曾我
能 卒都婆小町一度之次第
能 殺生石白頭
ほか 真言、獅子

第九回やるまい会公演

五月十八日(土) 午後六時始
能 熱田神宮 能 楽 殿
能 熱田神宮 能 楽 殿

能高砂

能高砂 立石澄夫 福井啓次 鬼頭喜太郎
能高砂 高安勝久 福井啓次 良治 鬼頭喜太郎
能高砂 高安勝久 福井啓次 良治 鬼頭喜太郎

(三面よりつづく)
したが、二号的存在の女性という英訳がどういふ風にマッキンノン氏が訳されたのか判りませんが、よく理解されました。
前回はヨーロッパ、印度などでやりやうのなく、拍手にこたえてもう一度あいきつするのです。とくにシャトルなどは、総立ちして手をたたいてくれました。

公演の印象

芸術に環境はないといいますが今回の公演はその言葉をはつきり身に感じました。レセプションの席に出て、「狂言の歴史」「狂言」とかの質問を浴びせかけられ言葉がそのままお答えできないので残念ですが、ワングラブルの連続でした。また、レセプションなどで、そのまの衣装であいきつに臨んでほしいという空気がした。いろいろ有難うございました。

とくにショーとして飛んだりねたりするショーでなく、狐を入れたというところなど、「静」といふものに二時間以上もじっと観客がみてくれるというところに演者として非常に嬉しく感じた。学ぶべきことですね。
日本の古典紹介という点で一行の責任も重大ですが、それだけに誇りをもってやりました。
またレクチャー・デモンストラーション(実技解説)は講義と実技を一緒にやる方法なのですが日本でも大いに取り上げるべき様式だと思えます。レクチャーで、運びの実技のときに一列に並ばせて歩くことをさせると、喜んでその中に入って実演をやってみる人が多かった。また声を大きく出してしゃべること興味を示したようでした。公演はどの会場でもマイクなしでした。舞台の構成がいいんです。オーバーな表現かもしれませんが、銅貨をおとすと、その

各地だより

国立劇場で鎌倉能
鎌倉能の会では、きたる四月三十日(火)東京・国立劇場小劇場

同会の国立小劇場公演は、昨年二月に第一回を催し、演出のある能「翁」(橋弁慶)で試み注目を集めたが、今回は、さらに一歩を進め、劇場能として演出された能に新しい意欲をもっている。
とくに金春流(宗家・金春信高師、喜多流若宗家・喜多長世師)が界に新風を吹かそうとしている。また鎌倉能公演は、中森三郎の令息、中森賢太郎(七歳)の初シテの会である。
番組は、能「吉野天」前・後シテ中森賢太郎、ワキ山本則直、能「清経」恋之音、シテ中森三郎、ツレ藤村健、ワキ宝生弥一郎、笛安福春雄、小鼓北村一、大鼓安福春雄、三味線神楽、翁、祝世喜之、千才、泉、嘉夫、狂言「二人袴」、一調「放下僧」、仕舞「賀茂」に

豊春会春の能

金剛流・豊春会では、第十一回「豊春会春の能」を四月二十一日(日)午後一時から京都・金剛能楽堂で開演する。
番組は、能「求塚」シテ豊鶴弥左衛門、ワキ岡治郎右衛門、能「石橋」シテ豊鶴三千春、ワキ今村知史。
狂言「鏡男」茂山千作、佐々木千吉、独吟「藤戸」栗林貞一、仕舞「放下僧」大川嘉彦、西行「皆川多津子」歌古「平瀬津祿子」鶴之段「高岡歳子」阿古木田橋義雄、一調「笠之段」金剛巖、林吉兵衛、仕舞「熊坂」金剛永謙、連吟「大原御幸」玉村剛也、重本昌三、川崎薫、田橋義雄、中尾六三郎、植田基三の諸師。

金沢能楽会

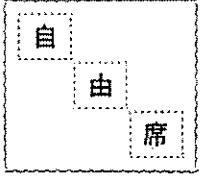
金沢能楽会では、四月定例研究発表会を四月十四日金沢能楽堂で開催。
能「ぬえ」シテ宮野伍朗、ワキ泉、喜八。能「千手」シテ渡辺容之助、ツレ玉川、伝、ワキ殿田保輔、狂言「不問座頭」素謡「船弁慶」

NHK「謡曲・狂言の時間」再放送

NHKでは、毎週日曜午前八時から九時まで第二放送で謡曲・狂言の時間として全国放送をしていくが、ことし四月からの新番組編成により、日曜日に放送された謡曲・狂言番組をその週の金曜日午後二時から三時まで再放送されることになった。

梅若丸のお母さん

素人能評



ある素人が能が好きのために、思いつくまま正直に、しかしおそろしく投稿した「二つの松風」がそのまま能楽の友に掲載された。そこが素人の素人たる所であろうか。彼は調子にのって再び投稿してみようと考えた。前の能評は能の讚美であり、陶醉であったが今回のそれは能への疑問であり、とまどいでもある。三月二十四日中日五流能第一部岡田川を観ての感想である。

梅若丸のお母さんは何才か。わが子梅若丸の行方を求めて都より遠々東国に下り岡田川の岸辺に辿りついた母親は果して何才であったろうか。「さてその稚児の年は」「十二歳」と文中にある。舞台はそれより一年あとのことだから、彼女は十三才の一人子をもつ母親であることは確かである。昔は現代より早産であったから、

であつてもよい。また何かの都合で比較的遅い子宝として三十才であつたかも知れない。そうすれば東国に下つた時の彼女は二十九才より四十五才までと考へて間違いないと思う。昔の女性の四十五才が現代の女性の四十五才と同じと考へられない。現代は女性の平均寿命は約七十五才、昔は人生五十年であつたとして約五割の延長である。即ち昔の四十才の女性は現代の六十才ぐらいの老け方であると考えねばならない。だから大きく申すと梅若丸のお母さんは現代の三十才より六十才ぐらいまでの婦人を想像してよいと思へる。三十才より三十五、六十才の女性といえは女性として最も肉熟した美しさと魅力の溢れた年齢でもある。また六十才の女性で、もし彼女がめくまれぬ生涯を送るべき年齢に達したとすれば、

この言いたいことは演者がこの年令の申広い女性の中で、どの年令を選ぶかということである。それは演者の自由である。ある時は中年の女性としての溢れるような魅力のある美しく腐れたたけの婦人を描いてもよいし、またある時は人生の悲哀をなめつくし、殆んどこの世には感情も表に現わさないが、ただわが子のためにだけは夢中になる年若い母親を描くのもよいであろう。それは演者の芸への試みであつて、約束ごとのきびしい能楽の中で、演者が自分の考へや、自分の芸風や、また自分の力を表現する自由はそこにあるのではないだろうか。しかしそこに充分に計算され、コントロールされた表現力が要求される。同じ一つの舞台で前半が三十才で後半が四十才では困るのである。もし許されるならば各人に「今日は何才の母親を演じられますか」と聞いてから岡田川をみてみたいと思ふ。それでは中日五流能の岡田川の母親は何才であつたろうか。

私にそこには大きい疑問と、とまどいを感じるのである。姿や動作はよく打ち消していたであろう。そのとき人は涙するであろうか。いや、涙も早く乾いていってしまうか。血涙になつてもまだ涙は出ないか。

わが子の死を知らされ絶望に打ちのめされた母親の狂乱である。この二つは全く異質のものである筈である。その間にワキの語りがある。前半の狂いがおさまると、船中で静かにワキの語りを聞く間に次には今度は救いようのない絶望の狂乱が近づいてくる。この異質のものへの推移がどのように表現されるか、それは本曲の大きい命題でもある。そして最後は涙も枯れて茫然たる絶望の底に沈んでしまった母親は、狂うことの氣力さえも失つてしまふ。そこまでの変化を私は教へてはしかなかった。能に最後は止拍手というものがある。岡田川にもそれはあるのだから。私は前に岡田川をみたとき家の傍に茫然と立ちすくむ母親の姿をみて最後は場内の明りをすべて消してしまいたい衝動にかられた。数多い能の中でことさらに梅若丸のお母さんだけを救いのない絶望の中にたたき込んだ原作者の氣持を表現して欲しかった。

以上素人のたわごとと認んで頂きたい。しかし大部分の観客や、これから能のよさを分ってくる若い人達は素人であることも事実なのである。

Table with 2 columns: Year (1年, 2年), Price (円). Values: 200, 380, 20.

春を飾る催能 各流社中大会も活発

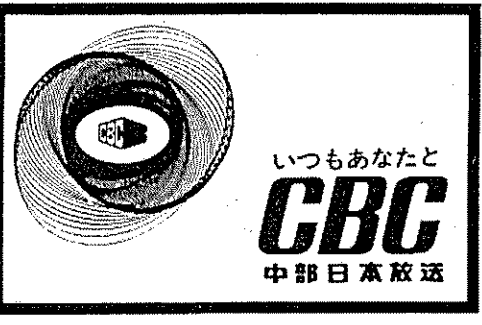
津市喜多流能子会
喜多流東海古竹師一週忌追善雅子会が三月三日午前十時から津市三重会館で開催。和台逸二郎・仕舞「鐘之段」、二井榮逸・中尾和子の「玉之段」などがあつて盛やかな追善の会であつた。

事務所移転のお知らせ
能楽の友社では、このたび事務所を左記に移転致しましたのでご

龍白蔵 檜書店
東京部千代田区神田小川町2-1
電話(291)2488-9 35520 振替東京1990 振替京都113

龍白蔵
岡山・富士銀行西50米(金山ビル一階) 電話(076)6702

富士道の婚礼道具
家具のふじみち
本社 名古屋市中区栄3丁目34番40号 (新館完成) TEL(241)3367・1453
支店 愛知県西加茂郡三好町 TEL(05613)2-1178



能 楽 の 友

題字は熱田神宮 篠田富司筆

発行 能 楽 の 友 社
 名古屋市中千種区吹上本町2-20
 電話 (731) 7984
 振替口座 名古屋 36393
 購読料 1年 200円
 郵送の場合 1年 380円
 一 部 20円

充実した能組で

五、六月の能楽殿の催し

熱田神宮境内の新緑ひとさわ映える五月、さらに六月の熱田神宮能楽殿の催しは、ことごとく豪華な能組をそろえ愛好者の期待と関心は大きい。

なかでも庄巻は、五月二十六日の「別会・名匠鑑賞能」。これは第五十七回を迎え、ことごとく、観世、宝生、金剛の鑑賞ともいえる能組。能は観世宗家が「定家」、さらに「道成寺」は片山博太郎師のシテ。田鍋洋一君の小鼓被さきもある。

五月十二日には鳳鳴会大会。能三番、十八日には、やるまい会第九回の公演、狂言三番のほか、独吟。

六月は第一日曜日の二日に能楽倶楽部能会、五日の熱田神宮奉納。

能は能宝生流「放下僧」、観世流「土蜘蛛」さらに八日の喜多流和調会が能「紅葉狩」。九日には青陽会が研究能一番、能三番の豪華番組で開演。

十五日の一番会が能、素謡、つづいて十六日(第三日曜日)には観世会第三回定式能、能「忠度」「半部」「菊慈童」で力演が期待されよう。第四日曜日の二十三日には宝生会定式能で宝生英雄師の「芦刈」と倉本雅師の「百万」で流友の期待は大きい。

なお先号所報のとおり、ことし第三回を迎える新能は、能楽協会名古屋支部が中心となり、準備がすすめられているが、期日は八月三日(第一土曜日)で、会場は熱田神宮境内で行なわれることに決

購読のお申込み

本紙の購読についてすでに多くのお申込みを頂いておられます。ご購読は、一カ年二百円、送料とも三百八十円。

お申し込み方法は、能楽の友社または先生にておとりまじめねがえれば幸甚です。

振替用紙ご入用の場合はお振替用紙にお申し込み頂ければ、送料金能楽の友社負担の用紙をご送付致しますからご利用下さい。

「杜若」のスケッチ

仙田雪山子 画



杜若のスケッチ

とくは三河の國八橋、いまの目の代表曲。雪山子のスケッチは愛知県碧海郡知立町大字八橋で、本紙第六号(42年6月)に後シテを描いて頂いたが、今回はとくにだけに、当地にはなじみ深い三番季節にちなんで、前シテを送って

頂いた。謡曲を研究したフランス人ルノンドーに「能における仏教思想」の著があるが、その中で、「無生物界の救済」という章には草木国土悉皆成仏は神道における靈の概念を導き入れ、日本仏教が案出した日本人らしい思想だと述べている。(古川久著「能の世界」より)

美しく咲き匂う杜若の花に眺め入っていた旅僧(ワキ)に呼掛けられたシテ(杜若の精)は、名に負う花の名所と教え、伊勢物語を引いて葉平の詠んだ歌を思い出す。花紫のゆかりの色に象徴されるその美しさは、シテ、ワキの問答、掛合いの間にも花やかに美しく咲き匂う浪遊の杜若をほうふつとさせる詩的幻想と文芸思想をもって、能の世界に復るものを引きずりこんでいく、優麗の曲である。

演能案内

鳳鳴会大会

五月十二日(日)午前九時開演
 熱田神宮 能楽殿

能翁

小島一英
 山本一
 三番見 大野 弘之
 千歳 中川 雅章

能高

砂 立石 澄夫 河村総一郎
 高安 勝久 福井啓次郎
 周 佐藤 秀雄

狂言しびり

井上礼之助
 佐藤卯三郎

素謡

盛 久 関戸 操子 財前 光枝
 千 手 永味 善昭 亀山 信吉

俊

寛 三川 鉦平 加藤 山松

素謡

藤 戸 高橋すゑの 小岩 秀子
 加藤三三子

素謡

山 姥 後藤幸一郎 野々山正彦

素謡

求 塚 小島 隆一 鈴木 俊一

素謡

求 塚 小島 隆一 鈴木 俊一

素謡

求 塚 小島 隆一 鈴木 俊一

素謡

求 塚 小島 隆一 鈴木 俊一

素謡

求 塚 小島 隆一 鈴木 俊一

素謡

求 塚 小島 隆一 鈴木 俊一

素謡

求 塚 小島 隆一 鈴木 俊一

素謡

求 塚 小島 隆一 鈴木 俊一

五月十二日(日)午前九時三十分始
 名古屋王山・中むら松風閣
 素謡・舞囃子十五番ほか仕舞・独吟等
 (番組四面掲載)

五月十八日(土)第一部午後一時
 第二部午後六時
 熱田神宮 能楽殿

能翁

熱田神宮 能楽殿

能高

熱田神宮 能楽殿

狂言

熱田神宮 能楽殿

素謡

熱田神宮 能楽殿

素謡

熱田神宮 能楽殿

素謡

熱田神宮 能楽殿

素謡

熱田神宮 能楽殿

素謡

熱田神宮 能楽殿

素謡

熱田神宮 能楽殿

素謡

熱田神宮 能楽殿

素謡

熱田神宮 能楽殿

素謡

熱田神宮 能楽殿

素謡

熱田神宮 能楽殿

素謡

熱田神宮 能楽殿

素謡

熱田神宮 能楽殿



うなぎまぶし

質 問

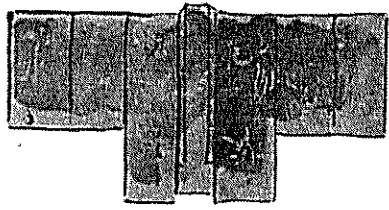
能の主人公がシテ、副主人公がワキというのが普通ですが、曲によってはワキが演技の中に...

能の主役転化について

西村 弘 敬

能は仕手方を主役とし、補佐役として脇方、シテツレ、ワキツレとの総合協力によって演奏するようになっている。

Table with columns for actors (羅生門, 檀風, 鳥追舟, 愛染川) and rows for various roles (シテ, ワキ, シテツレ, ワキツレ) listing specific plays and actors.

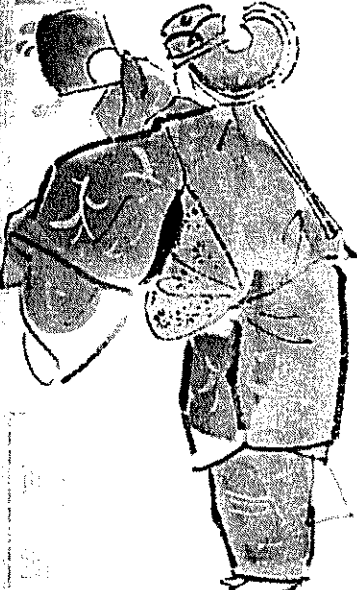


義 談 束 装 (六) 舞 衣 (まいぎぬ)

逸 栄 井 二 ふと

こないだ、大阪国際フェスティバル能に出演したとき思ったこと。世阿弥は「貴所、広座、小座、庭前、屋内、ないし、かりそめの座式(座敷のこと)の音曲といっ...

そこで装束談義。今回は、舞衣(まいぎぬ)を取材する。この舞衣も、能装束の上衣の一つで、女体のみ用いるものである。



名匠鑑賞能への期待

五月二十六日能楽殿で

「定家」を舞うのも興味深い。「大原御幸」「楊貴妃」と共に三婦人といわれているのはその高貴性からであるが、その高貴の人に...

植村真太郎氏叙勲 勲四等瑞宝章に輝く

四月二十九日の天皇誕生日の佳節にこし春の叙勲が発表され、現任社団法人古原...

別会名匠鑑賞能(第五十七回) 五月二十六日(日)正午始 熱田神宮能楽殿

先考常照院四十五年記念追善番組 番囃子(観)翁 法会之式 観世喜之 田鍋忍一郎 増田小太郎...

舞囃子(宝)海 人 辰巳 孝 河村隆一郎 藤田喜太郎 梅田邦久...

舞囃子(観)現在七面 柴田初太郎 吉田定男 清水深雪 森田光八...

舞囃子(剛)西王母 山田仁三郎 福井 欽一 野崎 季信...

能定 一調 勸進帳 観世 元正 宝生 弥一 山本敬一郎 森田 光春...

狂言 花子 和泉 保之 井上松次郎 井上礼之助...

能道 成寺 宝生 閑 下村 英一 観世 元信 田鍋 洋一 藤田 六郎兵衛...

後見 観世 野村 四郎 殿島 修二 柴田 照也 武田 小兵衛 地謡 河村 錠三 藤波 重調...

後見 武田 太後 塚本 秀雄 林 甲子夫 柴田 初太郎 地謡 加藤 丈太郎 藤波 重調...

後見 柴田 初太郎 増田 一雄 柴田 元正 観世 喜之 田鍋 忍一郎 増田 小太郎...

後見 野村 四郎 小林 弘一 梅田 邦久 観世 喜之 田鍋 忍一郎 増田 小太郎...

静かな雰囲気 能楽殿下じゅうたん 熱田神宮能楽殿の廊下と観客席 通路に四月からじゅうたんが敷かれ...

Advertisement for NHK 'Koyuki' (狂言の時間) rebroadcast on June 15th. Includes details about the program and broadcast schedule.

装 束

とふみ

も、無理をしられることがある。かもしれない。それはそれで、新しい時代の観衆を満足させることには、演者も満足するから、二巾で済んだもので、ひとりで済ませる。



能楽協会名古屋支部 能楽披露 菅委員会で観能のうえで能楽殿の施設改善について検討しているが、落ちついた雰囲気です。このほど、役員会でじゅうたんを敷くこと、茶室、四用掛の設備を

名匠鑑賞能への期待

五月二十六日能楽殿で

名古屋能楽鑑賞会、田鍋惣太郎師など主催の「別会・名匠鑑賞能」は、きたる五月二十六日、熱田神宮能楽殿で催される。(能組は(面)尾藏)

「定家」「道成寺」の二番、番舞子「翁」舞子「海人」。「現在七面」「西王母」さらに協賛、一調をそろえ、名匠鑑賞の名に恥じない好番組で人気が高い。

能楽評論家沼村雨氏は、とくにこの名匠鑑賞能の魅力をつぎのよう述べている。

追善能こそ豪華であれ 沼 雨

追善能こそ豪華であれ

沼 雨

名匠鑑賞能が常に好評であることの原因は、囃子方の主催にある

「定家」を舞うのも興味深い。「大原御幸」「楊貴妃」と共に三婦人といわれているのはその高貴性からであるが、その高位の人にあっては定家のもつ執心の苦悶は、能として至難の役である。また、他の二曲が比較的型がすくないのにくらべて、これは、前半での、石に残す姿として作り物に彫りつけられるような姿を見せる中入前から、後の引廻しのおろされ

能評家に答えて

西 村 弘 敬

四月十日発行の能楽の友第十六号の自由席の欄に素人能評家として、「梅若丸のお母さん」という題にて「ある無能者」と匿名にての一文が載っていた。これを一読したところどうしてどうして無能者どころか大した見識でなかなか鋭い観察眼を備えておられる御方と拝察した。

能を演じている立場でも、彼の卒都婆とか繪扇とか、その他の老女物などは、いずれもその仕方や所作の凡てが老女としての型が決まっているので自然にその心構えも出来てくる筈であるが、通常の能ではいちいちその年令を考え合わせるで心得て演じている人は少ないのではないかと思われる。ここに指摘せられた梅若丸の母の年令は何才位かと、そこまで考えて勤めていた人は或いは少ないか、ま

能評家に答えて

西 村 弘 敬

た見物の方々でもそこまで考えながらご覧になっている方も少ないかと存じます。斯くいう私共も永年舞台上に上っているが、いちいちその役の人物の年令まで考えて勤めた事は少ないように思えるので、今は故人になつたが、明治、大正時代に東京で有名な能評家があつ

た見物の方々でもそこまで考えながらご覧になっている方も少ないかと存じます。斯くいう私共も永年舞台上に上っているが、いちいちその役の人物の年令まで考えて勤めた事は少ないように思えるので、今は故人になつたが、明治、大正時代に東京で有名な能評家があつ

た見物の方々でもそこまで考えながらご覧になっている方も少ないかと存じます。斯くいう私共も永年舞台上に上っているが、いちいちその役の人物の年令まで考えて勤めた事は少ないように思えるので、今は故人になつたが、明治、大正時代に東京で有名な能評家があつ

5月のラジオ案内

NHK ラジオ 第2放送
毎日曜日 午前8時から9時まで

| | | | |
|-----|-------|------|-------|
| 12日 | 喜多流 | 「山姥」 | 後藤得三 |
| 19日 | 金剛流 | 「杜若」 | 金剛巖 |
| 26日 | 和泉流狂言 | 「神鳴」 | 野村万蔵 |
| | 大蔵流狂言 | 「清水」 | 大蔵弥太郎 |

(番組の変わることがあります。ご了承下さい。)

宝生会 定式能

六月二十三日(日) 熱田神宮能楽殿

| | | |
|--------|---------|-------|
| 百 声 | 劉 寶生 英雄 | 西村 欽也 |
| 萬 倉本 雅 | 高安 滋郎 | |

金沢能楽会の五月 定例研究発表会

金沢能楽会五月定例研究発表会
は、きたる五月(日)午後一時から金沢能楽堂で行なわれた。番組はつぎのとおり。

素謡「杜若」シテ 小西誠治、ワキ 上尾武史、地謡 吉田社中
能「春日龍神」シテ 石坂宇兵衛、ワキ 殿田保輔、大鼓・飯島佐六、小鼓・森靖久佐、太鼓・徳田与作、笛・林 豊寿
狂言「竹の子」増田秋男、能村祐聖、殿村与作
能「三山」シテ 佐野 萌、ツレ 宮野佐朝、ワキ 泉 喜八、大鼓・飯島忠、小鼓・住駒陽介、笛・片岡吉雄

次回 六月二日
予定番組 能「加茂」「頼政」
狂言「萩大名」

大阪薪能

大阪薪能は、昭和三十三年から生国魂神社ではじめられた。生国魂神社と能との関係は古い。沼村雨氏は「生国魂神社はNHKの宮として、今のNHKのあたりであったが、この境内で今の盆踊りのように夜能が催されて、これには各町から代表が選ばれて参加して見物は方を救えた、という記録がある。」と述べている。

大阪薪能は能楽協会大阪支部の大きな行事となつていて、生国魂神社宮司二宮正彰氏は「戦後の生国魂神社の氏子や大阪市民に対し、一年一回でよいから生国魂神社の境内で薪能の観賞をしてもらって、日本文化の幽玄さから民族意識の復活高揚をしよう」と当時の能楽協会支部長であった大槻十三先生(故人)を室谷助太郎氏(故人)とともに訪ね快諾を得、能楽協会大阪支部とともに大阪薪能を催すことになった。」と語っている。

なお大阪薪能は毎年八月十九、二十日の二日間行なわれている。

観世会 定式能

六月十六日(日) 午後一時始 熱田神宮能楽殿

| | | | | |
|-----|---------|-------|-------|--------|
| 忠 度 | 梅若丸三郎 | 高安 滋郎 | 寛井啓次郎 | 鬼頭 季信 |
| 名取川 | 橋岡 久共 | 西村 欽也 | 河村総一郎 | 藤田六郎兵衛 |
| 半 間 | 後見 梅田邦久 | 梅若丸紀夫 | 飯田 賢 | 林 甲子夫 |
| | 後見 梅田邦久 | 梅若丸紀夫 | 飯田 賢 | 林 甲子夫 |

NHK「謡曲・狂言の時間」再放送

NHKでは、毎週日曜日の午後二時から放送される「謡曲・狂言の時間」を、その週の金曜日午後二時から放送される「謡曲・狂言の時間」に再放送されることになった。

六月十五日(土) 熱田神宮能楽殿

一番、ほかに素謡、囃子数番

植村真太郎氏 勲四等瑞宝章に輝く

植村真太郎氏は、多年産業の振興につくし、現在社団法人名古屋能楽会副会長、熱田神宮能楽会連合委員会委員、名古屋能楽クラブ会長として能楽界の発展に貢献されている。

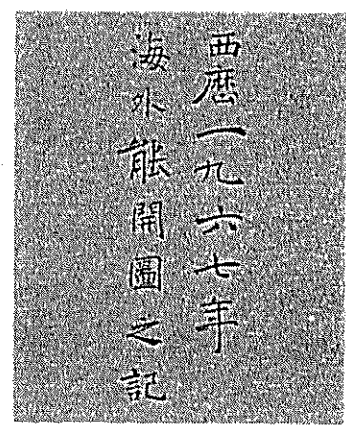
四月二十九日の天皇誕生日の佳節にこし春の叙勲が発表され、勲四等瑞宝章を受章された。

海外能開図之記

貴重な資料を集録

海外演能団が編集刊行

昨年二月から四月まで約二カ月の間にわたり、観世流シテ方、橋岡久馬師を團長とする海外演能団(一行十四人)は、デンマーク、ノルウェー、スエーデン、フィンランド、ポルトガル、フランス、イギリス七カ国で公演、日本の古典芸術への関心をため、大きな反響をよんだ。
七カ国で三十四回上演、能六十七番、狂言三十三番という公演を行なったこの演能団の記録がさる三月、「西暦一九六七年海外演能開図」として、観世流シテ方、橋岡久馬師を團長とする海外演能団(一行十四人)は、デンマーク、ノルウェー、スエーデン、フィンランド、ポルトガル、フランス、イギリス七カ国で公演、日本の古典芸術への関心をため、大きな反響をよんだ。
七カ国で三十四回上演、能六十七番、狂言三十三番という公演を行なったこの演能団の記録がさる三月、「西暦一九六七年海外演能開図」として、観世流シテ方、橋岡久馬師を團長とする海外演能団(一行十四人)は、デンマーク、ノルウェー、スエーデン、フィンランド、ポルトガル、フランス、イギリス七カ国で公演、日本の古典芸術への関心をため、大きな反響をよんだ。



興行として成功した際の苦心など日経にもとづいて正確に記録されている。能楽の海外進出がさげられるとき、その先達として欧州を回ったこの演能団報告書は単なる記録ではなく大いに斯界に資するところある貴重な文庫である。
編著者 橋岡久馬
発行所 海外演能団編集部
(東京都港区赤坂一丁目十二番二十八号、橋岡舞台内)
(写真) 表紙と扉の表題
住所移動
観世流・梅若盛義師はこのほど左記に住所を移動された。
(新住所) 神戸市東灘区御影町 那家大蔵一七番地

重要無形文化財 北陸中日能

六月三十日(日) 金沢市観光会館

Table listing performers for the 'Chūjū Nō' event, including roles like 宝生流仕舞, 通小町, and 網之段, along with their names and hometowns.

Table listing performers for the 'Shōshū Nō' event, including roles like 宝生流能鉢, 観世流能葵, and 大藏流狂言, along with their names and hometowns.

金剛流春季謡曲囃子会

五月十二日(日)午前九時三十分始 名古屋市覚王山中むら松楓閣

Table listing various songs and performers for the 'Kōryū Spring Noh and Kyōka Ensemble', including roles like 素謡神歌, 熊野, and 安宅, along with their names and hometowns.

演能案内

先代梅若万三郎師二十三回忌追善 猶韻会大会 四月二十日(土)午前十時始 熱田神宮能楽殿

Advertisement for 'わんや書店' (Wanya Shoten), a bookstore, with address and phone information.

Advertisement for '井口土建株式会社' (Inokuchi Dojū Kenji Kaisha), a construction company, with address and phone information.

Advertisement for '餅よめまき' (Mochi Yome Maki), a traditional Japanese confectionery, with address and phone information.

Advertisement for 'アメハマ製菓株式会社' (Amehama Seika Kaisha), a confectionery company, with address and phone information.

友の友社 吹上本町2-20 7984 36393 1年200円 1年380円 20円

能

る

新能は神事能の一つで、奈良の...

編集同人 (五十音順)

- 伊藤鉄之進 柴田初太郎 殿島修二
- 梅田邦久 杉村竹翠 内藤泰二
- 加野昭二郎 高安滋郎 野村又三郎
- 後藤正男 田鍋惣一郎 花木徳三郎
- 佐藤卯三郎 戸田秀雄 二井栄逸

能 楽 の 友

題字は熱田神宮 篠田富司筆

発行 能 楽 の 友 社

名古屋市千種区吹上本町2-20
電話 (731) 7984
振替口座 名古屋 36393

購読料 1年 200円
郵送の場合 1年 380円
一 部 20円

面白い響きをもっていると思う。関西では昔から、素謡会でお誦のお披露が盛んで例えは、藤戸、隅田川等九音階程度のもので、思えてならない。授けてくださったこと、地謡も誦

ことで、能の当日、楽屋の鏡の間ではない。こわいような気がする。けれども、チャンスがあればと考

所誦の秘事一切を、ご自身で伝えていただくこと、地謡も誦

授けてくださったこと、地謡も誦

授けてくださったこと、地謡も誦



「鶉飼」のスケッチ
仙田雪山子画

「鶉飼」の解説

西村弘敬

この絵の鶉飼の曲は、安房清澄 殺生禁断であったこの川で禁断をの僧が甲州旅行の途次、甲府の東 破り鶉を使って漁をした科により石和川の辺に来た時に、その昔 榮演けになった漁師の亡霊に行き

達いたるに、その漁師が回向を頼んで懺悔のため、その当時の鶉を使つた有様を見せる所謂鶉の段の「面白の有様や底にも見ゆる篝火に」のあたりの演技を写した絵である。

いわゆる「劇場能」がしばしば催されるようになった。能楽堂の能が、広い劇場で、さまざまな階層の人に接する機会が多くなっている。それだけに新しい角度から「能」の在り方が論ぜられてきている。さる四月、大阪で行なわれた国際フェスティバル能に寄せて、そのプログラムの中で、観世寿夫氏は「能」これからの十年」と題し、劇場能の在り方についてつぎのように述べている。とくに引用させて置いた。

現在あらゆる能楽堂において持たれている能会でも、映画を見たて、芝居を見たりすると同様に能楽堂の窓口で入場券を求めさえすれば、誰でも見られるのであるが、何となく特殊な世界といった印象が強く、一般の人達にとつては入りにくい感じを持たされてしまつていくことは否めない。その原因については、いまの能の会の持たれ方の中に、江戸時代を通じての能が式楽であったことの残骸が感じられるためであろう。

新しい「能」の道

大阪国際フェスティバル能プログラム 観世寿夫氏「これからの10年」より

近々人達を集め装束も着用して見せていたらしく、今の月例の能会と同じようなものであった。こうした特別な観客のみを対象とした能会が、そのために今でも月例の能会、楽師の稽古であった公演しているのではない、といった考え方が多分に残されている。今の能会の中には、何か仲間うちだけの会といった考え方が含まれていて、それが外側から見ると特殊部落という感じをあててしまうのだと思う。これらの月例の会に対して、劇

場での演能は、江戸時代における勳進能にあたるのであって、勳進能の場合には、時によつては何千人という大勢の観客の中で演じられた。なおこの時だけは、観客の階級も武士階級に限らず、あらゆる人々が見に来たらしい。つまり式楽の形から開放されたわけである。現在の能は式楽から開放されて百年にもなるわけであるが、実際は家元制度といったような、非

現代の能会の中にも、そのままである。かたちとしては式楽から離れたといえるが、片足は江戸時代につつまれたままといつた状態である。江戸以来、必要以上に武士的精神ののこりすぎで、いたずらに形式化、固定化の道をたどつてきた能を、今一度創生期の世阿弥の考へていたような、生き生きとしたものとして見直すことが必要で

つ意義がなくなつて、逆にマイナスになることも考えられる。世阿弥は、貴所・広座・少座・庭前・屋内ないし、かりそめの座式(座敷)の音曲、といったように、さまざまな会場や条件にに応じた演出なり演技の方法を考えなければならぬと書いており、それらをもつて、あらゆる観客に満足にあたえなければならぬと、くり返し力説している。

現在の劇場能についても、ただ常に演じられていく能を、そのまま演じればよいといった安易な考え方でなく、その会場に合った演出や演技また装束、照明といったものが考えられなければならないと思う。

企画者側としては、曲目、演者の選択はもちろんであるが、演出者を初めとしたスタッフを決めて新しい劇場能としての演出なり装束なり、照明なりを能の本質にのつとつて創り出して行くとか、また新しい作品をとり上げるとか劇場の能を、より独自の形として打ち出して行く必要があると思う。

十九日 葬儀は七月九日午後一時から大阪市北区の太陰寺町で大蔵流葬、二時から告別式が行なわれ、放長右衛門氏は本名

東京新聞
中日新聞東京本社
〒100 東京都千代田区千代田2-3-11
TEL 大丸ビル11-2111

叶一石謡会能組

昭和四十三年六月十五日(土)九時始
於熱田神宮能楽殿

| | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|------------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|
| 橋 弁慶 | 菊 童 | 半 守 | 野 師 | 弱 姥 | 山 子 | 船 慶 | 鉢 木 | 草子洗小町 | 桜 川 | 鶴 龜 | 高 砂 | 松 風 | 玉 巒 | 百 萬 | 船 慶 | 田 素 | 小袖曾我 | 藤 丸 | 善 知 | 松 虫 | 野 宮 | 放 僧 | 那 下 | | | |
| 和波 敏子 | 佐藤ゆき子 | 谷川 道雄 | 増田 糸 | 園鉄一謡会 | 内田 睦子 | 林 千鶴 | 長戸 花子 | 吉川 たま | 山崎 晴代 | 田鍋惣一郎 | 高芝ときえ | 角田 富美 | 村木寿恵子 | 亀山 盛一 | 名謡会(中央電報局) | 長戸 花子 | 林 千鶴 | 鶴田清三郎 | 遠藤 俊雄 | 八田常次郎 | 鬼頭 不求 | 川瀬 絹子 | 澄川 幸子 | 海田トシ子 | 近藤 重次 | 川瀬 節子 |
| 石村ちよ子 | 林 大造 | 寺西 弘次 | 藤田喜代子 | | 奥村久次郎 | 福井啓次郎 | 加藤 啓次郎 | 福井啓次郎 | 松本 啓次郎 | 田鍋惣一郎 | 橋本 金子 | 橋本 金子 | 橋本 金子 | 橋本 金子 | 橋本 金子 | 橋本 金子 | 橋本 金子 | 橋本 金子 | 橋本 金子 | 橋本 金子 | 橋本 金子 | 橋本 金子 | 橋本 金子 | 橋本 金子 | 橋本 金子 | 橋本 金子 |
| 鬼頭 喜太郎 | 鬼頭 喜太郎 | 鬼頭 喜太郎 | 鬼頭 喜太郎 | 鬼頭 喜太郎 | 鬼頭 喜太郎 | 鬼頭 喜太郎 | 鬼頭 喜太郎 | 鬼頭 喜太郎 | 鬼頭 喜太郎 | 鬼頭 喜太郎 | 鬼頭 喜太郎 | 鬼頭 喜太郎 | 鬼頭 喜太郎 | 鬼頭 喜太郎 | 鬼頭 喜太郎 | 鬼頭 喜太郎 | 鬼頭 喜太郎 | 鬼頭 喜太郎 | 鬼頭 喜太郎 | 鬼頭 喜太郎 | 鬼頭 喜太郎 | 鬼頭 喜太郎 | 鬼頭 喜太郎 | 鬼頭 喜太郎 | 鬼頭 喜太郎 | 鬼頭 喜太郎 |



装 側

とふみ



喜多流においては、流祖(喜多七大夫)が、寛永四年九月二十二日、江戸城本丸で、また、同五年三月十八日には駿河大納言忠長邸で、同六年六月十七日には東松院(そはつき)である。これに、能

能は面白いですね。ある意味では芝居より面白い。芝居といつても広うござんすが、歌舞伎ですね。日本の古典芸能としては能、歌舞伎、文楽、この三つですね。世界の知識人もこの三つには頭を下げる。頭を下げるというほどきょうに国際的評価が安定しています。

この中で文楽は、これまたなかなか面白いが、人形芝居です。これはちよつといまのところ脇へ寄っていただいて、人間が舞台上で活躍する芸術だけをとり上げましょう。能と歌舞伎、この二つ。

もともと私は映画が好きで、能や歌舞伎はむろんのこと、芝居は新劇にしろ新派にしろ観劇にしろ、あまり好きでない。第一テンポがのろい。それに我々安月給取りは安い席で見るものだから、役者の顔がよく見えないね。映画は一番安い席が、一番よく見える。

前でも後でも変わらない、しかしです。国際時代、宇宙時代、万博時代に我が古典芸能について全然の無知識では、外国へ行つたとき恥をかきそう。いやでも応でも能や歌舞伎がどんなものかぐらいは心得ていないといけません。...

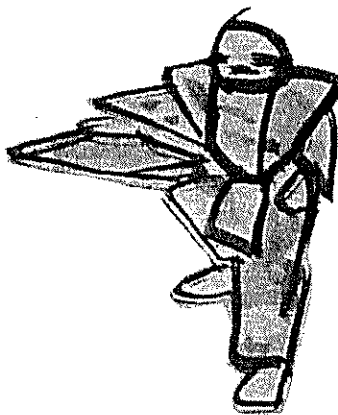
素人のたわごと

前 田 満 穂

よ、シテに至つてはいうまでもない。獅子だ、幽霊だ、何らかの意味で超人間でないものはほとんどない。それをですね。ピフテキを食つたり、洋酒をのんだりホステスと...いや、これは失礼、とにかく生身の現代人(能役者だつて立派な現代紳士です)がそれらしく演じようというのですから、なかなかうまくいかないのも無理はない。

しかしだ。この私などもレッキとした現代紳士ではない、貧士の方だが、それでいて「能は面白い」といえるのだから妙なものです。ここに一派相通じるものがあ

能役者といわず一般楽師の方々、あなた方が天才である必要はない。われわれの能への愛着をつなぎとめるには、素人というものは、案外つまらぬことでいや気がさしたりするものです。玄人同志では、芸オンリーで話が通じます。玄人と素人の間では芸以外の要素が意外に大きくなる。玄人の先生方には心外のことかも知れませんが、芸以外のつまらぬことで、芸までとやかくいいたがるのが素人というものです。



素人ほどこわいものはない。全くその通り。といつてこわがってばかりいってばかりではありません。折角能にひかれて寄つて来たやからです。出来るだけ逃げていかないようにすべきです。まあ、いろいろ手はあるでしょうが、どうでしょう、芸はもろんですが、芸以外の生活、言動でも、清潔であり誠実であることも一つの手ではないでしょうか。相手はエリートだけに、この手はすくなく効くと思

田能楽殿で、五、六年前に催された。本年はたまたま七回目でもあり、故十三先生の七回忌に当たるので、全国大会追善能として福岡市の住吉能楽殿において(住吉神社境内におき)去る五月三日(祭家)で感謝状および記念品を贈呈し

七月六日 午後五時始

熱田神宮能楽殿

文相撲 大坂東ノ者 井上松次郎 太郎冠者 佐藤友彦

佐渡狐 佐渡ノ百姓 茂山千五郎 越後ノ百姓 善竹忠一良

六人僧 仏 野村又三郎 井上祐一 妻 佐井上義弘

奈須語 和泉 保之 鬼頭 八郎 寛 鶴太郎 藤田 六郎兵衛

瓜盗人 瓜盗人 善竹忠一良 加ノ持主 茂山千五郎

長刀応答 太郎冠者 河村 丘造 立客 井上礼之助 井上松次郎 野村又三郎 井上祐一良 義次

会費 指席 六〇〇円 普通席 四〇〇円 朝日新聞社 狂言共同社

取投所 朝日新聞名古屋本社 中區裏門前町五ノ二 井上芳 電話 八一三二 一四三〇

能と太鼓物 能二百番のうち、太鼓物は約八十番あります。演能の番組を作るときは、一番は必ず太鼓物を入れるべきになってくる。

竹韻会社中会 竹韻会は、さる九月午前九時から、名古屋市中区錦二丁目・短歌会館で社中会を催した。

6月のラジオ案内

- NHK ラジオ 第2放送
毎日曜日 午前8時から9時まで (再放送)
毎金曜日 午後2時から3時まで
(再) 14日(金) 「井筒」 桜間 道雄
16日(日) 「観世流 景清」 大西 信久
(再) 21日(金) 「通小町」 本田 光洋
23日(日) 「金春流 通小町」 本田 光洋
(再) 28日(金) 「大藏流 狂言 千鳥」 石井淡笑
30日(日) 「喜多流 嵐山」 立石
(再) 7月5日(金)

流元 剛行 金莞 流本 世宗 観宗
合資会社 檜書店
東京都千代田区神田小川町2-1
電話(291)2488-9 3552
振替東京 3552
電話(23)1990
振替京都 113

森 荘
書画材料一式・絵絹・絵具・顔料・図案用品
書画用額縁・色紙・短冊・紙・筆・墨・硯
名古屋市中区東新町2-2
(東新町電停北半丁電車通り東側)
電話(052)962-1401 番代表

宝生会 定式能 六月二十三日(日) 熱田神宮能楽殿
調友会 七月七日(日) 熱田神宮能楽殿
淡文会 ゆかた会 七月十四日(日) 熱田神宮能楽殿
藤門会 七月二十一日(日) 熱田神宮能楽殿
七月二十八日(日) 熱田神宮能楽殿

初の国際文化使節

アメリカ、メキシコで公演

観世元正、鎮之丞、梅若六郎師ら

観世流宗家、観世元正、観世鎮之丞、梅若六郎師ら一行は、外務省ならびに国際文化振興会の委託により、文化使節として、アメリカ、メキシコ兩國で公演旅行を行なうことになり、六月四日、日航機で東京国際空港を出発した。

出発に当たって「能楽が初めて国の文化使節として派遣されることは、私どもの栄誉であり、同時にその責任の重さをひとしお身に感じております。どうかご支援を

私の体験

殿島修二



毎日婦人文化センターの謡曲教室の講師として、故林風蔵氏のお稽古を受け持つことになってからこれ七年になるが、午前二時から三時、午後二時から三時に分けて、全部で六組にお稽古をして、つまり一組の時間は大体四十分ということになるが、これはあくまで標準であって、勿論時間が決まるものではない。そのクラスによって二枚から

三枚、四枚宛の進行ぶり、この点は普通の個人稽古に何等変りはない。団体稽古であるために、沢山の人数を同じ程度に進行せしめねばならぬ。非常に苦心をこらへんのくふうも出来てきたので、この意味でよき体験になったと聊か自信がついた。

野村雅子さん逝去

狂言方、野村又三郎師夫人雅子さんは、病氣のため入院療養中であつたが、薬石効なく、五月二十八日午前十時十七分、城西病院で逝去された。享年四十八歳。

これを「礼節」といいます。本式には翁には必ずしも脇能と脇狂言が付きまゝから、鼓の頭取は翁の最初から脇狂言の最後まで舞台に残らねばならず、約三時間というものは、舞台から出ることができず、寒い冬などは殊に苦行です。太鼓も同様でこれは特に脇能のキリまでは役が無いのに最初から舞台に出ますので特に苦しいわけです。以前は翁と脇能とは同じシテが勤め、唯子方も狂言も一人が通して勤めるとされたもので、近頃は別人がこれを分けて勤めることが多くなりました。これは確か大正天皇御即位記念能の時であつたかと思ひますが、割當時間が少ないのに各流の人々を揃えて出演しなればならなかつた関係でそういう前例が出来ました。つまり短時間に多くの人に出演させるために考へたものでしょう。

翁は古来神聖なものとして取扱われ、天下泰平国土安穩を祈るめでたい能であり、また禁裏の慶応や、或いは追善の際にも用いられた他の能と全く異なつて極めて尊重されているものであります。旧幕時代勧進能などの際に演ぜられる場合には、二日目、三日目とそれぞれ文句は多少変わりますが、三日以後は最初に戻つて演ぜられたようです。追善の場合には「法会」の式の小書が付きますが、この際は観世流では多少変わりますが宝生流では変わらないようです。

古来、翁を引受けた役者は「別火」といって各役とも一週間の間精進潔斎をして勤めることになつております。現在でも上演当日は楽屋には「別火」を入れた火鉢が置かれてあります。

「翁」のこと

翁の構成は、最初に「とどうたらり」と翁の賀詞があり、次に千歳の舞、更に翁の舞があり、最後三番舞の舞があります。三番舞の舞は二段に分かれて、「採之段」と「鈴之段」があります。翁の場合には、小鼓は三挺あり、これが普通の場合の大鼓や太鼓の代りに殆ど小鼓のみで舞うのが特長です。三挺の内中央の鼓を取頭(とどうり)といひ、脇鼓二人の

すると面箱は翁の前に箱を捧げます。その時唯子方は、橋掛りから舞台に入り、着座いたします。翁は着座すると直ぐに吹き出し、小鼓方はそのとき床几に掛けて素袍の両肩をぬぎ、直ぐ鼓を取ります。笛は短かいのですから素早く、しかも不体裁にならぬよう、形をととのえてから取頭から打ち出します。この打出しが難かしいので「ポー、タッポー」と打ち次から脇鼓と三人で打ちます。

歳がなくて面箱を持って出た狂言方が千歳の舞を舞います。千歳の舞の中に翁は面をつけ「橋角(あげまき)やとんどや」とシテが謡い出し、鼓は頭取と脇鼓が入れ違ひの手を打ちます。「まゐらふれんげりやとんどや」と止めると、大鼓が座したままで調べを打ちます。大鼓は翁の時には楽屋で調べを打たぬことになっており、舞台でこのとき初めて調べを打つて、次に翁の独吟があげられ、

充実した能組で

演能案内

五月十二日(日)午前九時開演
熱日申宮能集費

の友社
大上本町2-20
7984
屋36393
1年200円
1年380円
20円

五月十二日(日)午前九時三十分始
名古屋東山・中むら松楓閣
素謡・舞唯子十五番ほか仕舞・独吟等
(番組四回掲載)
第九回狂言やるまい会公演

御料理・仕出し
魚・粕
合資会社
玉傳本店
名古屋市中区池田町二九・電(241)3845
9945

中日本装備株式会社
本社 名古屋市中村区高道町6の5
TEL(代表)461-8111番

大友
ナゴヤ納屋橋畔(231)2709・6818
名鉄百貨店七階のれん茶屋

名古屋市北区杉栄町3ノ5(カムカム劇場前)
奥田歯科診療所
奥田 継一
電話(981)4554・7720番

能 楽 の 友

題字は熱田神宮 篠田富司筆

社 友 楽 能 行 発

名古屋市中区吹上本町2-20
電話 (731) 7984
振替口座 名古屋 36393

購読料 1年 200円
郵送の場合 1年 380円
— 部 20円

購読のお申込み

本紙のご購読は一カ年二百円、送料とも三百八十円。お申し込み方法は、能楽の友社または先生にておとりまとのねがえれば幸甚です。振替用紙ご入用の節はおはがきにてお申し込み預ければ払込料能楽の友社負担の用紙をご送付致しますからご利用下さい。

薪能・熱田神宮で 能「橋弁慶」「葵上」を上演

市民納涼能楽の夕べとして、名古屋、能楽協会名古屋支部主催で催される「薪能」は、ことし第三回を迎え、さる八月三日(土)午後五時半から熱田神宮神楽殿前

とくに今回は、会場、舞台構成にこれまでの経験をいかして新しい構想が練られ、熱田神宮・長谷権宮司による火入れ式、杉戸市長のあいさつが予定されている。番組はつぎのとおりである。

薪能

八月三日(土) 午後五時半始
熱田神宮神楽殿前

能 橋 弁 慶
能 加 茂
能 組
足立 暁
竹腰 勝一
内藤 泰二
吉田 定男
後藤 孝一郎
藤田 昭彦

火入れ式
接 拶
名古屋市長 杉戸 清
長谷権宮司

能 葵 上
能 船 弁 慶
能 蟹 山 伏
能 梅 田 邦 久
能 上 高 安 勝 久
能 梅 田 邦 久
能 高 安 勝 久
能 野 村 又 三 郎
河村 総一郎
田鍋 惣一郎
鬼頭 季信
河村 総一郎
田鍋 惣一郎
鬼頭 季信
鬼頭 八郎
藤田 六郎兵衛
佐藤 秀雄
井上 松次郎

「養老」のスケッチ

仙田 雪山子 画

老いたる父母に孝養をつくす子に、天が感じて、孝養の徳を称え、その中、た伝説や民話は数多いが、その中でも、とくに養老霊泉の物語はよく知られ、能では、初能、一番目、神祇物として扱われている。

中部地方にゆかりの深い岐阜県養老郡にある養老の滝に展開されるこの曲は、概ね初能の典型的な構成をもっている。ただ前シテの老翁は実在の樵夫であり、後シテは養老の滝のある山神で老翁の化身でないことである。

開狂言は里人で三段之舞を舞うが、水波の伝になると、開狂言は省かれ、天女が登場して天女の舞をまい、シテは替の面装束をつけて現れ、華やかな、かつ荘重な神舞を舞う。

神といふといふも、ただこれ水波の隔てにて、衆生済度の方便の声と諸天影向のさっそうとした舞楽を奏でる。



重 喜 (じゅうき)
地 舞 (じどうまい)
伯 養 (はくよう)
仙 師 (せんし)
鶴 (つる)
長刀 応答 (ながたのおうた)
内 沙 汰 (うちさた)
八 句 連 歌 (はくくせんか)
鍛 腹 巻 (くわいはらまき)
竹の子 (たけのこ)
鶴 雁 金 (つるかりがね)
岡 太 夫 (おかだう)
佐 渡 狐 (さどきつね)
人 を 馬 (ひとをうま)
鴨子遣子 (かぎやこ)

8月の謡曲

NHK ラジ
毎日曜日 午前
(再放送)
毎金曜日 午後
8月11日(日)
16日(金) 野
宝生流「野」
8月18日(日)
23日(金) 土
視世流「土」
8月25日(日)
30日(金) 雨
金春流「雨」

東 代

春 故 会 真 柄 米 次
名 古 屋 修 諷 会
梅 若 修 一
雄 淵 会 下 田 雄 三
大 阪 市 東 区 高 橋 橋 詰 町 五 三
泉 壺 泉 会
南 山 大 学 八 四 号
大 阪 府 下 四 条 橋 町 八 五
電 (大 東) 七 六 二 二 六 九

暑中御見舞申上げます

観 世 元 正
名 古 屋 観 世 九 畢 会
観 世 喜 之
観 世 武 雄
名 古 屋 観 世 九 畢 会
観 世 喜 之
観 世 武 雄
掬 水 会
柴 田 初 太 郎
柴 田 収 武
曲 水 会 増 田 一 雄
観 上 田 観 正 会 能 楽 堂
観 正 会
上 田 照 也
澄 声 会 尾 関 健 太 郎
竹 内 竜 神 会
岡 崎 市 六 供 町 三 七 五 七
猶 忠 会 熊 沢 恵 美 子
芳 韻 会
半 田 市 船 入 町 三 一
稻 生 芳 雄
田 村 勇
電 話 半 田 二 一 〇 八 一 五
邦 謡 会
名 古 屋 謡 曲 仕 舞 教 室
梅 田 邦 久
名 古 屋 市 昭 和 区 台 町 二 丁 目
一 六 一 五 電 話 (六 四) 四 六 三 二

大 阪 能 楽 会 館
大 西 信 久
大 西 智 久
大 阪 市 北 区 道 本 町 十 二
電 話 例 〇 七 六 四 番
大 槻 清 韻 会
大 槻 秀 夫
大 槻 文 藏
大 阪 市 東 区 上 町 二 番 地
竹 韻 会
杉 村 竹 翠
谷 水 会 石 谷 初 藏
淡 水 会 飯 田 賢
名 古 屋 観 衛 会
山 本 博 之
山 本 勝 一
黄 雪 会 後 藤 契 雲
名 古 屋 市 中 区 栄 三 丁 目 三 三 三

第三回薪能について

能楽協会名古屋支部長

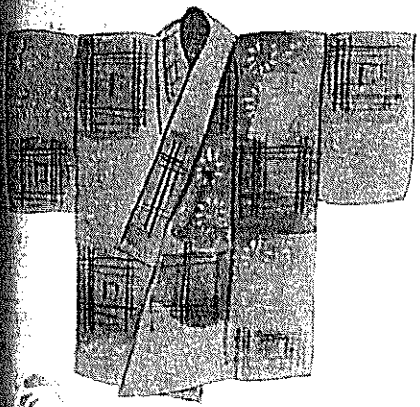
田鍋惣太郎氏あいさつ

薪能は、能楽演出法の一つであ...

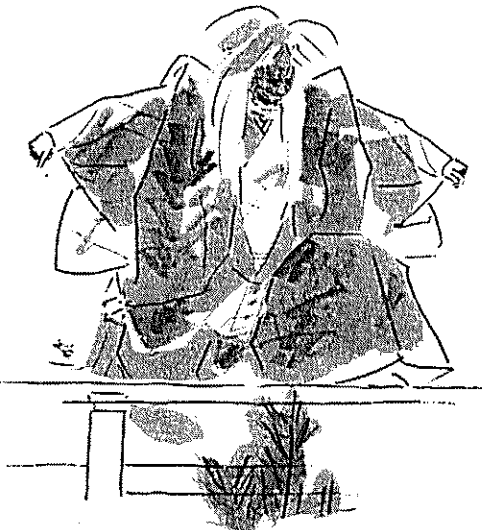
装束の模様のなかの、文字散らし、と、いうのが...

二井 栄 逸

能装束の模様のなかの、文字散らし、と、いうのが...



能装束の模様のなかの、文字散らし、と、いうのが...



7月の謡曲狂言番組

NHK ラジオ 第2放送 毎日曜日 午前8時から9時まで...

暑中見舞広告について 各位のご協力により暑中見舞広...

演能案内

調友会第七回能組 七月十四日(日)午後一時始...

九月一日(日) 於熱田神宮能楽殿...

暑中御見舞申上げます

Table listing various associations and individuals, including names like 研能会, 竹翠会, 若松宏守, etc.

調友会第七回能組

七月十四日(日)午後一時始
於 熱田神宮能楽殿

(觀) 嚙子 杜 若 山田仁三郎 河村總一郎 田鍋惣一郎 龍川 龍夫

(宝) 嚙子 阿 漕 内藤 泰三 吉田 定男 青木 恒治 池田 三男 茂

(喜) 嚙子 船 弁慶 長田 颯 田鍋 洋一 鬼頭 義信 山本 義之 山本 博之

(觀) 嚙子 竜 田 山本 勝一 吉田 定男 田鍋 惣一郎 鬼頭 義信 山本 博之

狂言 八 尾 井上松次郎 佐藤卯三郎 地謡 井上礼之助

駒之段 山本 博之 後藤孝一郎 辰巳 孝 河村總一郎

一調 歌 占 二井 栄逸 野崎 太郎

春日童神 井上礼之助

(觀) 能 天 前山 本 順之 高安 滋郎 筑井啓次郎 鬼頭喜太郎 藤田 昭彦

淡文会ゆかた会 七月二十一日(日) 熱田神宮能楽殿

藤 門 七月二十八日(日) 熱田神宮能楽殿

御会費(税込)
指定席 一、七〇〇円
自由席 二、〇〇〇円
学生(自由席) 四、〇〇〇円

色紙散らし、紋散らし
等があったり、また、
段取りに散らしを取り
着附というの、外から見て、一
番下に着る小袖類の総称で、厚板
(あつた) 縫箔(ぬいはく) 摺り
箔(すりはく) 白練(しろねり)
白練(しろあや) 熨斗目(のしめ)
附は格子厚板または山形模様
小袖がある。

九月一日(日) 於 熱田神宮能楽殿

第一部(十一時始)

能(剛) 田 村 西村 欽也 河村總一郎 鬼頭 季信

狂言 不見不聞 野村又三郎 井上礼之助

仕舞(剛) 玉之段 豊嶋三千春 井上松次郎

能(觀) 三 輪 高安 滋郎 吉田 定男 後藤孝一郎 藤田 昭彦

能(嚙) 熊 坂 榎間 竜馬 吉田 定男 鹿取 太郎

能(觀) 七 騎落 西村 欽也 河村總一郎 鬼頭 義信

狂言 文 荷 井上 祐一 佐藤卯三郎

能(宝) 鉄 輪 高安 滋郎 筑井啓次郎 藤田 昭彦

能(嚙) 養 老 大 概 秀夫 吉田 定男 鬼頭喜太郎 藤田 昭彦

能(觀) 鉄 輪 高安 滋郎 筑井啓次郎 藤田 昭彦

能(嚙) 鉄 輪 高安 滋郎 筑井啓次郎 藤田 昭彦

能(嚙) 鉄 輪 高安 滋郎 筑井啓次郎 藤田 昭彦

8月11日・12日に開催
生国魂神社新能(大阪)

ことし十三回目を迎える大阪新
能は、きたる八月十一日(日)十
二日(月)の二日間にあつて、
生国魂神社で催される。
この大阪新能は能楽協会大阪支
部の大きな行事として毎年盛大に
行われている。例年八月十九日、
二十日に開かれたが、台風接近の
時期で天候の心配が多く、ことし
から八月十一・十二日に変更され
たものである。
能組はつぎのとおり。

能(清) 経 金春 晃実 能(嚙) 鶴 飼 竹谷 文一

静交会 高橋 静夫
武蔵野市吉祥寺北町三ノ五ノ八
電話(03) 335-0303

笙月会 中川 清
長浜市地蔵寺町八ノ二九
電話(057) 335-0303

豊嶋弥左衛門
豊嶋 三千春
京都市東山区智恵院山
内林下町四五五

宗家宝生九郎
東京都文京区末郷一五一九

高安流 白水会
和泉 太郎

大蔵彌太郎
大蔵 会

谷田宗二朗
電話(075) 463-4875

大蔵狂言会
東京都渋谷区千駄谷三丁目一〇ノ五
電話(03) 340-0259 五九七七番

茂山忠三郎
吹田市山手町一ノ二十二ノ十一
電話(06) 388-3528番

中部金剛会
金剛流 春鶯 会
山田仁三郎

福王茂十郎
福王 輝幸
大阪市東区平野町一ノ二五

高安滋郎
西村弘敬也
西村 欽也

京都高安会
岡治郎右衛門

豊嶋十郎
郵便番号(271)

名古屋菊扇会
広田 泰三
東京都中野区中央四一三〇一四
電話(三八一) 九四一三番

山本敬一郎
岐阜市岩田坂十二組
TEL (0) 七一一四四番

住 住
駒 陽 介
金沢市片町一丁目十二ノ五
駒 明 弘
埼玉県北足立郡新座町
片山 池田上三一六四

杉市太郎

亀井俊雄
保忠雄
東京都中野区江原町一ノ九ノ一五

前川善雄

寺井政数
東京都世田谷区世田谷四一三一二五
電話(四二〇) 六六七六番

幸祥光
東京都港区六本木七ノ四一八

飯島佐六
金沢市香林坊二の八の八
電話(0) 四三四〇

森田光春
京都・東山・八坂上町三七六

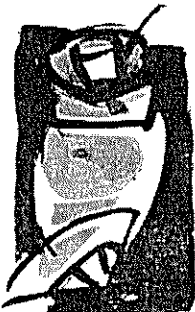
桂会
岐阜市松屋町 後藤方

暑中御見舞申上げます

名古屋和泉流
狂言 共同社

狂言 やるまい会
野村又三郎
名古屋市中村区島森村内上三二
電話(四七二) 五〇六七

名古屋能楽鑑賞会
かすみ 会
田鍋惣太郎



よろず 質問室

狂言の曲名とその読み方をお教え下さい。(瑞穂区・一生)

狂言の現行曲の総数は、和泉流が二百五十四番、大流流が百八十番とされます。和泉流狂言についてはつぎのとおりです。(紙面の関係にて五十番掲載・以下次号)

和泉流狂言 曲名(名寄)

野村又三郎
いろは 塚(きつねづか)
御屏 流(あかがり)
御冷 流(おひやし)
鶏 流(けいりゅう)

菊の花(さくのはな)
太刀奪(たちうばい)
成り上り(なりあがり)
鞍馬参り(くらままいり)
太子手鉢(たいしのてばこ)
牛馬(ぎゅうば)
鈍根草(どんこんそう)
舟船(ふねふな)
舎弟(しゃてい)
瘦松(やせまつ)
茶壺(ちやっぼ)
魚説法(うおせっぽう)
保盛種(ほうじょうたね)

竹生島参り(ちくぶしままいり)
清水(しみず)
痺り(しびり)
花真似(はなまね)
口真似(くちまね)
真奪(しんばい)
柑子(かんじ)
長光(ながみつ)
蝸牛(かぎゅう)
富士松(ふじまつ)
金津地藏(かなづじぞう)
雷石(かみなり)
磁石(じしやく)
蟹仙伏(かにやまぶし)
梟山伏(ふくろうやまぶし)
暇眺(さつか)
醉壺(すはじかみ)
口真似(くちまね)
飛越(とびこえ)
文荷(ふみにない)

附子(ぶす)
引括り(ひくくり)
柱杖(しじょう)
呂連(ろれん)
不腹立(はらたてず)
岩橋(いわはし)
宗八(そうはち)
三人長者(さんにんちやうじや)
鷹磔(たかづぶて)
杭か人か(かいかひとか)
昆布売(こぶうり)
柿山伏(かきやまぶし)

文化使節団帰国 観世元正師一行

日本政府派遣の文化使節として米國、メキシコ兩國で公演を行なっていた観世元正師一行は、六月二十七日、その任を終えて羽田に帰った。

道成寺奉納

さる六月三日、田鍋惣一郎、杉村竹翠両師らとともに紀州道成寺の有志一行十二人は、紀州道成寺に参詣、素齋・竹生島、道成寺、独調・御丸、玉之段を奉納し、翌四日は、那智の滝、熊野三社、鬼ヶ城などのゆかりの地を訪ね、和やかに帰郷した。(T)



に参詣、素齋・竹生島、道成寺、独調・御丸、玉之段を奉納し、翌四日は、那智の滝、熊野三社、鬼ヶ城などのゆかりの地を訪ね、和やかに帰郷した。(T)

金沢能楽会 定例発表会

金沢能楽会では、さる七日、金沢能楽堂で定例研究発表会を開催した。

飯富祥雲氏逝去

ワキ方飯富祥雲氏(熊本市黒髪町坪井七一六)はかねて病氣療養中のごとき薬石効なく、六月一日逝去された。

住居表示変更

久保田直亮氏(兵庫県芦屋市興川町五番十五号)

「お披露目」に因んで 殿島修二

能楽の方では、よくこの「お披露目」という言葉が使われる。誰か、今度何々を披露、という意味と、誰々が今度お披露目という場合とに聞く言葉であって、非常に鋭い感覚をもっている、なかなか味わいがあり、私は好きである。それはいろいろのお披露目を体験してきたからであろうが...

能のお披露目が無事にすんで、幕入りの後「おめでと」と「御首尾よく」と周囲の人に迎えられる時の気分というものは何ものにも替え難い感懐で、この醍醐味は、何度やっても、たまたまないのである。私の今までの習場のお披露目の中、最も印象に残っているものは、何と云っても「道成寺」の能の時である。

大倉長右衛門氏(大倉流小鼓十三世宗家)は、六月三十日午前六時八分、心不全のため西宮の自宅で逝去。七十九歳。葬儀は七月九日午後一時から大槻市北區の大蔵寺町で大阪流葬、二時から告別式が行なわれた。故長右衛門氏は本名大倉太郎、大阪市民文化...

Advertisement for '大友' (Daiyuu) restaurant, featuring '民芸料理' (Folk Art Cuisine) and '乃志乃' (Noshino). Location: 中區宮出町一九番地. Phone: 241-9078.

Advertisement for 'わんや書店' (Wanya Shoten) bookstore. Locations: 東京都千代田区神田神保町3-9 and 東京都中央区銀座8-4. Phone: (531) 5507-6666.

の友社
文上本町2-20
7984
屋 36393
1年 200円
1年 380円



ケッチ子画

笛吹川といふ平素は水の流れば無く、川底の河原は一〇センチメートルもある大きな石ころばかりで歩くにもすこぶる困難であって、一旦水が出る時は、その猛烈な流れは言語に絶することであ...

演能案内
昭和四十三年六月十五日(土)九時始
於熱田神宮能楽殿

友 楽 の 能 行 社

名古屋市千種区吹上本町2-20
電話 (731) 7984
振替口座 名古屋 36393

購読料 1年 200円
送料 1年 380円
郵送の場合 20円

題字は熱田神宮 篠田宮司筆

能 楽 の 友

購読のお申込み

本紙のご購読は一カ年二百円、送料とも三百八十円。お申し込み方法は、能楽の友社または先生にておとりまじめねがえれば幸甚です。振替用紙ご入用の節はおはがきにてお申し込み頂ければ、送料金能楽の友社負担の用紙をご送付致しますからご利用下さい。

宝の笠 (たからのかさ)
福の神 (ふくのかみ)
賽の目 (さいのめ)
野老 (ところ)
大黒連歌 (だいこくれんが)

信竹 (しんちく)
連歌十徳 (れんがじゅとく)
祢宜山伏 (ねぎやまふし)
松脂 (まつやに)
清水座頭 (しみずざとう)

末広がり (すえひろがり)
目近 (めぢか)
三本柱 (さんぼんじ)
麻生 (あそお)
張 (はり)

川上 (かわかみ)
宗論 (しゅうろん)
悪太郎 (あくたろう)
吃 (どもり)

鎌倉能の会
中森晶三
中森貫太

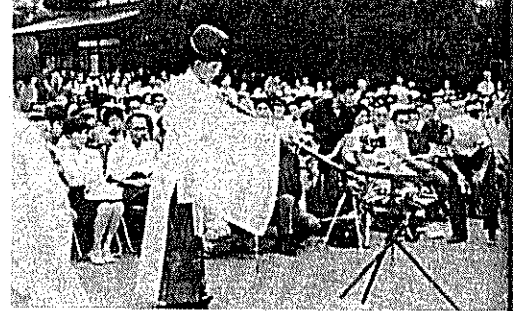
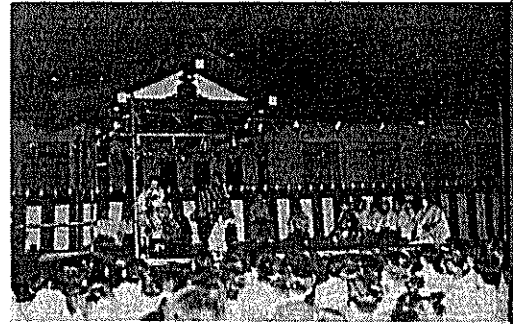
あなたに心をこ
富士道

家具の
名古屋 TE 愛知
本ショールーム
工

神苑に展ぐ薪能

3日夕熱田神宮で盛大に催さる

市民納涼能楽の夕べとして、第三回を迎えた「名古屋薪能」は、好天に恵まれた三日、熱田神宮で盛大に行なわれた。午後五時開場と同時に愛好者は陸続と来会、細くくぐりながら、ひびく鼓の音とともに夏の興趣を盛りあげた。とくに杉戸名古屋市長は「このような盛大な薪能が行なわれることは名古屋の大きな誇りである」と賛辞をよせ、宮田市長議長は「都市計画日本一を誇る名古屋は、精神文化において、日



〔写真〕(上)能「葵上」(下)熱田神宮長谷権宮司によるおごそかな火入れ式の儀。熱田神宮にて

古典邦楽市民鑑賞会

明治100年の名古屋芸術祭

能楽の友社主催 10月23日に

ことし明治百年を迎え、各界で行事が企画されているが、能楽の友社では、この記念行事にふさわしい催しとして伝統ある能楽、邦楽を中心に、明治改元の日になむ今秋十月二十三日「明治百年記念・古典邦楽市民鑑賞会」を熱田神宮能楽殿で開催することにな

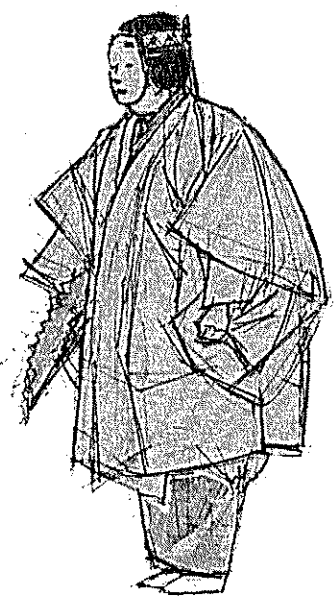
この企画は、毎年行なわれている秋の名古屋市民芸術祭の一環として、名古屋市および教育委員会も大きな期待をかけており、国民芸術としても、能楽は明治以後、新たな復興のあゆみをとげてきただけに、市民文化の高揚と伝統芸能の最高峰として能楽及び文化財を誇る平曲、さらに平曲、尺八、地唄舞などを総合的に鑑賞できるものとして、名古屋市民芸術祭の内容をより充実させるものであろう。

市民鑑賞会には、名古屋邦楽協会、社団法人名古屋能楽会が積極的に後援、古典芸能愛好者による演奏、演劇が芸術の秋を飾ることになっている。詳細は次号、九月号に発表されるが、その概要は次のように企画されている。

名称 明治百年記念 古典邦楽市民鑑賞会
日時 十月二十三日(水)
会場 熱田神宮能楽殿

【第一部】邦楽Ⅱ第曲、尺八、平家琵琶、地唄舞
【第二部】能楽Ⅱ舞囃子、狂言、能

飛鳥川のスケッチ



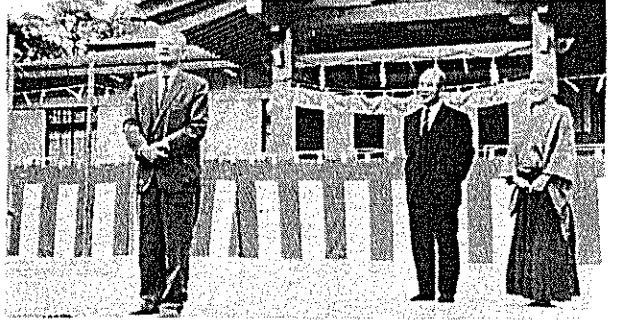
仙田 雪山子 画

本曲は現在金剛、喜多の二流だけにあるもので、四番目物、季は五月、所は大和国、飛鳥川辺、どちらかといえは遠い曲です。概要は友若という少年(子方)が母の行方知れずになったのを悲しんで、京の男(應)に伴われて吉野の金峯山に母への再会を祈願に行き、その帰途、飛鳥川辺で、田植の様子を眺め、やがて川を渡るうとすると、田植女の一人(住手)が河の淵の変わったことを注意する。そして飛鳥川の古歌「世の中は何か常なる飛鳥川、昨日の淵ぞ今日は潮になる」の古今集の歌を物語り、我が身の上を述べたが、やがて気を取り直して、田植

歌面白く早苗をとる。友若はその田植女が母であることを発見して、めでたく母子再会するという筋である。このような母子の再会を取扱った謡曲は少なくないが、多くは母が子を思うあまり狂乱の姿となつて、母が子を尋ねて行くものが多いが、この曲では母は狂乱もしていません。子が母を尋ねて行く点で他の曲と趣を異にしている。母子が再会していながら母は気づかず、子供の方から母を見出し、声をかけて再会を喜ぶという点など、詞章としては美しいが、人情の深みが足りない感がある。

暑中御見舞申上げます

| | | | | |
|----------------------|---|----------------------------------|--|--|
| 此水会 高野瀬 透 | 観 詠 会 藤 井 久 雄 藤 井 徳 三 藤 井 淳 三 | 井 上 嘉 久 京都市北区紫野下島田町六 | 名 古 屋 梅 若 会 梅 若 六 郎 事務所 名古屋市中区流川町三ノ二 近 藤 鉦 治 方 | 潤 水 会 名古屋千種区今池町二ノ四九 林 甲 子 夫 電 七三二一四二八三番 |
| 名古屋 淡 交 会 橋 岡 久 共 | 名 古 屋 風 韻 会 殿 島 修 二 | 正 楽 会 加 藤 丈 太 郎 鶴 声 会 丹 下 三 義 | 加 藤 門 良 会 光 詠 会 飯 田 新 子 | 秀 芳 会 塚 本 秀 雄 久 田 親 正 会 久 田 秀 雄 |
| 中 森 昌 三 鎌倉市常盤一〇一六 | 河 村 一 謡 会 河 村 叶 石 会 昭和区前山町一ノ二二 電話 四四八八二二 | 松 詠 会 佐 藤 太 俊 | 嘉 詠 会 加 藤 總 兵 衛 面 作 五 十 年 島 三 友 能 面 頒 布 会 清 光 会 岡 田 光 紘 | |



〔写真〕(上)第三回新能であいさつする杉戸名古屋市長、後列(左)富田名古屋市長、(右)能楽協会田嶋名古屋支部長、(下)会場をうめた観客

仙田画伯の羽衣天女の図

系名 石探祭山車の見送りに描く

系名市石探祭の船場町羽衣組山車の装飾は、地金に白金や純銀を多分に使用した高村光雲の秀れた作品として知られているが、戦災で焼失した大天幕見送りに仙田画伯が羽衣天女の図を描き川島織物で見事に出来上がった。この完成を機に京都芸能史の林屋辰三郎、平山敏治郎、杉本藤次郎、北岸佑吉、北川忠彦の各教授と中村保雄、藤田嘉一郎、前西芳雄、権藤芳一氏ら能楽関係者合わせて一行二十名と名古屋からは野水信教授、朝日新聞の横井節之輔、中日新聞の松村静雄、大原祥三、新谷栄之助、野呂八東の歴々の諸氏も参加して系名石探祭民俗資料、文化財、古能面、古文書などを見学した。番組は次のとおり。

金沢能楽会 定例研究会

金沢能楽会では、八月四日午後一時から定例研究発表会を開催した。番組は次のとおり。

伊勢神宮秋季神楽祭 9月24日 長生会が奉納

伊勢神宮では、昭和四十三年度神宮秋季神楽祭をきたる九月二十四日午前十一時から内宮神苑内能楽舞台で催すが、親世流太鼓長生会(代表 鬼頭八郎氏)が、恒例により奉納する。当日は、親世流、宝生流舞臺子を奉納、約四十五人が参加する。なお長生会は伊勢神宮神楽祭にすでに十二回の奉納をおこなっている。

村英丘、能「藤」シテ宝生九郎、ワキ泉 喜八
次回は、九月一日、能「海人」「小督」、狂言「栗焼」

義 談 東 装 (九)

箔 (はく)

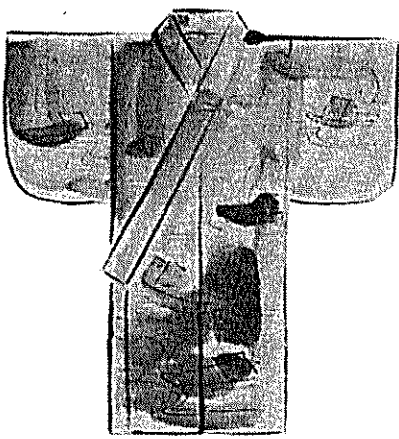
逸 栄 井 二 ふみ と 系

能の演出を五つに分けると、神、男、女、狂、鬼となる。それほどに、狂いは重要な芸術の一要素として取りあげられている。物狂いのよきは、垢蕪状態の中に、フツと清澄の気に満ちた緊張をみせ、鋭い理智を閃めかす変化の美しさであらうか。



恋に破れた女性のなげきが、物狂いにまで進展すると能になる。三井寺の狂女もその一つ。もちろん、三井寺は狂女に名月と名庵とを絡ませて、すこぶる詩情を豊かにしている。三井寺の鐘は、三名鐘の一つにかぞえられていて、田原藤太秀郷が、百足を射殺し、報謝として得たものであると、太平記には記されている。水の面に、照る月なみを数ふれば、今宵ぞ秋のなかなかりける。

よまれた 歌も思い 出される 程に近江の湖畔は 美しい。 この月明の 下の近江の 湖面の 輝きは正しく狂人を我に返すには何でもない。鐘の音がすむと、一転して深々とした静けさにもどり、哀れを感じしめるのであるが、このような面白さは、やはり狂女物独特の味である。



昔、女性の独り旅には、狂人を装ったこともあるかも知れない。また、たばかりで、狂人になりすまし、強いて三井寺にのぼるべしという、御告げを受けたのだという説もあるが、それはどちらでもよい。この三井寺の後シテは、かろやかな旅装、浅黄の水衣としよる考えをした結果、一応シテだけ全員退場したあと、面をとりまして、橋がかりへ出ましてお客様に一礼をするというアンコールをやりました。

浮きやかに幕を出てくる。

× × ×

装束談義 箔にうつる。箔は、無地の平絹に、金、または、銀の箔で模様を掲り出したものを箔箔(すりはく)といひ、主に女性の着用に用いる。また、いろいろと色糸で模様を刺繍したのを縫箔(ぬいはく)といひ、女性の腰巻、公達童子の着用に用いる。特殊なものに、姥着箔(うばづけはく)、鱗箔(うろこはく)、丸箔(まるづくし)等がある。腰巻(こしまき)といひのは、縫箔をちようど肌脱ぎの形に若て腰に巻く着方で、面白く効果的な着方である。

きいた狂女は、にわか心で、うな面白さは、やはり狂女物独特の味である。昔、女性の独り旅には、狂人を装ったこともあるかも知れない。また、たばかりで、狂人になりすまし、強いて三井寺にのぼるべしという、御告げを受けたのだという説もあるが、それはどちらでもよい。この三井寺の後シテは、かろやかな旅装、浅黄の水衣としよる考えをした結果、一応シテだけ全員退場したあと、面をとりまして、橋がかりへ出ましてお客様に一礼をするというアンコールをやりました。

演 能 案 内

大 衆 能 九月一日(日) 於 熱田神宮能楽殿

四十三年度第四回 九月十五日(日) 午後一時始 於 熱田神宮能楽殿

雲田 龍山 福井 道子 服部 紗枝

高木 栄一郎 名古屋市北区敷島町一〇七 電話九九一四三三七

神楽会 増田 十草

滋水 会 有賀 滋子

福福 会 福井 道子

知水 会 服部 紗枝

暑中御見舞 申上げます

喜多流 和調会 和島 富太郎 西宮市津門西口町五十二 電話西宮七二九七番

富 宝 会 豊川市中央通五ノ七 畑 智洋方

清風社 大塚 一二

寿福 会 久保田 亘亮 芦屋市川崎町五ノ一五 電話三三八四番

野村 万蔵 東京都豊島区南長崎六ノ一五 電話四八七三番

善竹 忠一郎 神戸市東灘区御影町家大蔵二

藤田 六郎兵衛 藤田 昭彦

たなびき 会 田鍋 惣一郎

長生 会 鬼頭 八郎 鬼頭 喜太郎

池野 崎太郎 池田 茂

幸友 会 福井 啓次郎 福井 良久

呉竹 会 寛三 男

寛鉦 一 河村 総一郎 吉田 定男

素として取りあげられている。物狂いのよきは、昂奮状態の中に、フツと清澄の氣に満ちた緊張をみせ、鋭い理智を閃めかす変化の美しさであろうか。

メキシコ、オリンピック記念、国際芸術展示に出演の日本政府派遣の文化使節能楽団(鈴木九万団長)一行は、アメリカ、メキシコの公演を終えて帰国した。七月三日朝、NHKラジオ「時の人」で、観世宗家、観世元正師のインタビューが放送された。以下その要旨の再録である。

アメリカでの公演について
アメリカでは到着翌朝ケネディ氏の不幸な事件をテレビで知ったのですが、ワシントンの会場が国務省の講堂だったのでその点非常に心配して、現地の日本大使館の方と相談をして大体二日間やるはずでしたが、初日の方を遠慮して二日目にマチネと二部と一日で二回つめてやりました。

国際芸術交流に使って

アメリカ、メキシコの公演

— 観世元正師、NHK「時の人」で語る —
— アメリカ、メキシコの公演 —
— 観世元正師、NHK「時の能」で語る —



観世元正師、NHK「時の能」で語る

— 観世元正師、NHK「時の能」で語る —
— アメリカ、メキシコの公演 —
— 観世元正師、NHK「時の能」で語る —

— 観世元正師、NHK「時の能」で語る —
— アメリカ、メキシコの公演 —
— 観世元正師、NHK「時の能」で語る —

— 観世元正師、NHK「時の能」で語る —
— アメリカ、メキシコの公演 —
— 観世元正師、NHK「時の能」で語る —

野村 萬蔵
東京都豊島区南長崎六十五番
電話 四八七三番

海能案内

大衆能

九月一日(日) 於熱田神宮能楽殿
第一部(十一時始) 伊藤鉄之進
能 田 村 西村 欽也 河村 欽一郎 鬼頭 季信
伊藤鉄之進

狂言 不見不聞 殿 高安 滋郎 吉田 定男 鬼頭 八郎
後見 大槻 秀夫 地謡 石谷 初六郎 尾関 健太郎
真柄 米次郎 久田 邦子 秀雄

能(観) 三 輪 高安 滋郎 吉田 定男 鬼頭 八郎
後見 大槻 秀夫 地謡 石谷 初六郎 尾関 健太郎
真柄 米次郎 久田 邦子 秀雄

能(観) 七 騎 落 西村 欽也 河村 欽一郎 鬼頭 季信
後見 久田 邦子 秀雄 地謡 飯田 初太郎 尾関 健太郎

狂言 文 荷 井上 祐一 佐藤 友彦 佐藤 三郎
仕舞(巻) 殺生石 辰巳 孝 佐藤 三郎

能(宝) 鉄 輪 高安 滋郎 吉田 定男 鬼頭 八郎
後見 竹内 澄子 地謡 小川 喜一 戸田 秀雄

能(観) 熊 坂 桜間 竜馬 吉田 定男 鬼頭 八郎
後見 竹内 澄子 地謡 小川 喜一 戸田 秀雄

附祝言
会費 指定席一〇〇〇円 普通席八〇〇円(但一部、二部通し)
取投所 各出演楽師宅 各プレイガイド

善竹 忠一郎
神戸市東灘区御影町家大蔵二

海能案内

大衆能

九月十五日(日) 午後一時始 於熱田神宮能楽殿
第一部(十一時始) 伊藤鉄之進
能 田 村 西村 欽也 河村 欽一郎 鬼頭 季信
伊藤鉄之進

狂言 不見不聞 殿 高安 滋郎 吉田 定男 鬼頭 八郎
後見 大槻 秀夫 地謡 石谷 初六郎 尾関 健太郎
真柄 米次郎 久田 邦子 秀雄

能(観) 三 輪 高安 滋郎 吉田 定男 鬼頭 八郎
後見 大槻 秀夫 地謡 石谷 初六郎 尾関 健太郎
真柄 米次郎 久田 邦子 秀雄

能(観) 七 騎 落 西村 欽也 河村 欽一郎 鬼頭 季信
後見 久田 邦子 秀雄 地謡 飯田 初太郎 尾関 健太郎

狂言 文 荷 井上 祐一 佐藤 友彦 佐藤 三郎
仕舞(巻) 殺生石 辰巳 孝 佐藤 三郎

能(宝) 鉄 輪 高安 滋郎 吉田 定男 鬼頭 八郎
後見 竹内 澄子 地謡 小川 喜一 戸田 秀雄

能(観) 熊 坂 桜間 竜馬 吉田 定男 鬼頭 八郎
後見 竹内 澄子 地謡 小川 喜一 戸田 秀雄

附祝言
会費 指定席一〇〇〇円 普通席八〇〇円(但一部、二部通し)
取投所 各出演楽師宅 各プレイガイド

河村 総一郎
吉田 定男

海能案内

大衆能

九月二十二日(日) 午前十時三十分開演 於熱田神宮能楽殿
第一部(十一時始) 伊藤鉄之進
能 田 村 西村 欽也 河村 欽一郎 鬼頭 季信
伊藤鉄之進

狂言 不見不聞 殿 高安 滋郎 吉田 定男 鬼頭 八郎
後見 大槻 秀夫 地謡 石谷 初六郎 尾関 健太郎
真柄 米次郎 久田 邦子 秀雄

能(観) 三 輪 高安 滋郎 吉田 定男 鬼頭 八郎
後見 大槻 秀夫 地謡 石谷 初六郎 尾関 健太郎
真柄 米次郎 久田 邦子 秀雄

能(観) 七 騎 落 西村 欽也 河村 欽一郎 鬼頭 季信
後見 久田 邦子 秀雄 地謡 飯田 初太郎 尾関 健太郎

狂言 文 荷 井上 祐一 佐藤 友彦 佐藤 三郎
仕舞(巻) 殺生石 辰巳 孝 佐藤 三郎

能(宝) 鉄 輪 高安 滋郎 吉田 定男 鬼頭 八郎
後見 竹内 澄子 地謡 小川 喜一 戸田 秀雄

能(観) 熊 坂 桜間 竜馬 吉田 定男 鬼頭 八郎
後見 竹内 澄子 地謡 小川 喜一 戸田 秀雄

附祝言
会費 指定席一〇〇〇円 普通席八〇〇円(但一部、二部通し)
取投所 各出演楽師宅 各プレイガイド



よるろず 質問室

『拍子謡』について

1. 勉強の課程とそれに必要な本。 2. 習うにはどういふ先生に就いたらよいか。

拍子謡の基礎を勉強する。 2. 謡の先生、囃子方の先生。 1. 地拍子の基礎を勉強する。

拍子が人らずに「素謡」として謡だけの演奏方法があつて、多くは、この方が世間一般に罷り通つてゐるのである。

和泉流狂言曲名(名寄)

Table listing various kabuki plays and their names in the Waka-ryu style, including titles like '右流左止', '文山賊', '小水掛', etc.

友社 吹上本町2-20 7984 電話 36393 1年 200円 2年 380円 3年 200円

宮で上演 たくに今回は、会場、舞台構成にこれまでの経験をかして新しい構想が練られ、熱田神宮・長谷権宮司による火入れ式、杉戸市長のあいさつが予定されている。

観世元正 柳水 柴田初太郎 柴田武

8月の謡曲狂言番組 NHK ラジオ 第2放送 毎日曜日 午前8時から9時まで (再放送) 毎金曜日 午後2時から3時まで

竹韻会秋季大会 九月二十三日(祭) 熱田神宮能楽殿 九月二十九日(日) 熱田神宮能楽殿

鳥追舟 能楽 観世 武雄 田鍋忍太郎 加藤正光 高安勝久 山本敏一郎 丸 西村欽也 澄雄 田鍋忍一郎 三男 間 佐藤卯三郎 立石澄雄 山本敏一郎 寛 三男 後見 観世 喜之 地謡 加藤青木 加藤武彦 加藤弘彦 加藤武雄 加藤忠次 井上松次郎 井上礼之助 井上礼之助 井上礼之助 井上礼之助

株式会社 東亜木工所 代表取締役 山田茂 名古屋市昭和区江越町一ノ三 電話 代表 (871) 0291

流元 剛行 金発 流本 世家 観宗 合資会社 檜書店 電話(291)2488-9 振替東京 3552 電話(23)1990 振替京都 113

北京料理 東陽飯店 名古屋市昭和区汐見町6番 電話 (052)832-0012・0013

日本観光旅館連盟会員 日本交通公社協定旅館 やま いづみ 料理旅館 山泉 名古屋市中区栄3丁目19-14 (呉服町通り) 電話 (241)2506~8番

春成会 真柄米次

先代梅若万三郎師追善会
10月5日 大阪で開催
先代梅若万三郎師二十三
回追善会が十月五日大阪能
楽会館、十月十二日熱田神
宮能楽殿で開催される。大阪での追善会番組はつきのとおりである。

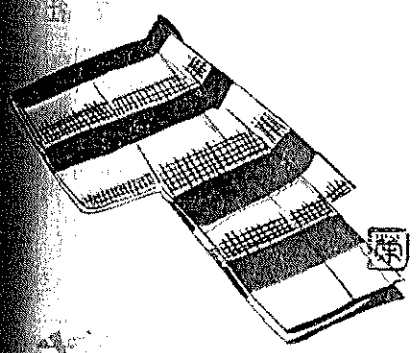
十月五日(土)
大阪能楽会館

- 松 梅若 基直 梅若 猶義 間 昌留 江崎金次郎 新田海兵衛 大倉長十郎 野口伝之輔 茂山 正義
- 清 国枝良三郎 能 井戸 良造 中村弥三郎 大村 良二 中川 隆夫 貞光 義次
- 恋 井上 生香 観世鏡之丞 福王茂十郎 山本敬一郎 三島 太郎 高木 敏郎 森田 光治 武藤 達三
- 悪 坊 狂言 茂山 千作 園山 千之丞 園山 祝

義談装束(十)

熨斗目(のしめ)

逸栄井二 ふみと



音しきの余り、妻を宮仕えに出
し、自分は流浪の旅をしながら、
声を売り、貧しい暮しの日々を
送る男、それは目下左衛門であつ
た。大和物語より脚色された、
能、若刈の主人公である。最後は
夫婦がめぐりあい、むつまじく暮
らす、いわば夫婦和合の何の変哲
もないハッピーエンドの物語りで
あるが、この能を一段と面白くさ
せるのは、当時の唄い物とも考え
られる笠之段を組み入れ、飄逸な
遊狂の場面を展開し、物狂能にお
とらぬ情感を表現していることと
である。



熨斗目(のしめ)、白大口、水
衣の粗衣をまとったこの左衛門は
散て身の落魄をなげく風も無く、
拙い生計の声を売るに
も興に乗じ、心楽しく
ますらい歩く、愛すべ
き能のおこななのであ
る。

笠之段では、この左
衛門は、能楽特有の狂
いでもあるかのように
興趣を横溢させ、一
かけらの愛いもみせな
かす。能のしきの音
すげがき、うぐす
春日大社と密接な関係の存するこ
とも知られる。
次に新能の沿革について、その
概要を述べる。
興福寺東西金堂の修二会に、法
楽として行われた新能は、後に
戦後の状況については、昭和二
十一年より春日大社で「御社上
り」の能が復活、昭和二十五年に

- 鬼三郎 池内一之助 五郎丸 大槻 文蔵
古王 岡田明彦 立郎 鈴木 善明
十郎 梅若 盛義 谷口 善則
五郎 梅若 善一 荒木 照雄 野口 浩和
夜討曾我 大藤内 片山千之丞 主催 梅若 猶義

- 追加 加賀室生の復興に大きな
貢献をした初代佐野吉之助の
七十年忌にあたり、十月三十日金沢能楽堂で追善会が催される。
この追善会には、三老女の一として、明治百年、金沢ではじめて秘
曲「娘指」を十七世宗家芸術院会員室生九郎が演じる。ワキ、三役、
地謡、後見はいずれも重要無形文化財保持者の出演。
初代 佐野吉之助五十年忌 追善会楽会番組
二代 佐野吉之助七回忌
十月三十日(水)午後六時半 金沢能楽堂
宝生 九郎
能 娘 捨 松本 謙三 飯島 佐六 柿本 豊次
間 野村 万蔵 住駒 小太郎 藤田 大五郎
後見 佐野 安彦 才川 小太郎 辰巳 英雄
野村 剛作 地謡 田川 雅章 室生 九郎
佐野 正治 佐野 大坪 十雄 前

準師範披露
観友会 番組
九月二十二日(日)午前十時三十分開演
於 熱田神宮能楽殿

| | | |
|-----------|--|-------------------------------------|
| 神歌 | 加藤 良久 | 千歳 忠次 |
| 菊慈童 | 高安 滋郎 | 寛 鉢一 鬼頭 八郎 後藤 孝一郎 藤田 六郎兵衛 |
| 三輪 | 観世 喜之 | 服部 紗枝 塚本 秀雄 |
| 放下僧 | 有賀 滋子 | 塚本 秀雄 |
| 笠之段 | 塚本 秀雄 | 観世 喜之 |
| 御挨拶 | 観世 喜之 | 小島 芳雄 観世 喜之 武雄 |
| 卒都婆小町 | 長谷川 章 加藤 保彦 青木 武弘 地謡 | 観世 喜之 武雄 五木田 武計 |
| 花筐 | 増田 一雄 | |
| 鳥追舟 | 観世 武雄 | 田鍋 忍太郎 |
| 加藤 正光 | 高安 勝久 | 山本 敬一郎 寛 三男 |
| 丸 | 西村 欽也 立石 澄雄 | 田鍋 忍太郎 寛 三男 |
| 間 | 佐藤 卯三郎 | 加藤 保彦 武雄 一秀雄 佐観世 武雄 喜之 五木田 武計 |
| 狂言 | 井上 松次郎 | 佐藤 秀雄 井上 礼之助 |
| 蚊相撲 | 柴田 初太郎 五木田 武計 | |
| 高村 砂 | 柴田 初太郎 五木田 武計 | |
| 三笑 | 長山 芳雄 小島 芳雄 佐々木 康之 | |
| 観世 武雄 | 西村 弘敬 河村 総一郎 福井 啓次郎 鬼頭 喜太郎 藤田 昭彦 | |
| 和合三段之舞 | 加藤 正光 地謡 塚本 秀雄 長谷川 一秀雄 小島 芳雄 五木田 武計 佐々木 康之 | |
| 後見 柴田 初太郎 | 地謡 塚本 秀雄 長山 芳雄 五木田 武計 佐々木 康之 | |

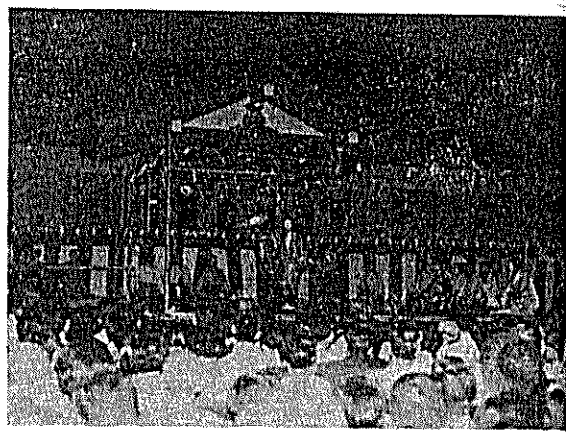
木造大観 師追善
竹韻 会 能 組
九月二十九日(日)午前九時
熱田神宮能楽殿

「南都新の神事申楽云々二月二日「始めす」と唱う
夜西金堂より初む。同じ三日夜 次に権宮司以下岩本神社東壇上に
東金堂、五日は春日四所御神 出仕す
前にて四座の長、式三番を仕る」次に呪師走り能
とあり、新能根本の翁で、最も古 次に権宮司以下並びに金春権守代
い式三番の様式を残し、猿楽の母 諸役人直会殿の座に著く

小袖曾我 清水 功克 佐伯 好次郎
トモ 杉本 佳道 宮田 一彦
頼 宮崎 一音 稲垣 道雄
土蜘蛛 シナ 稲垣 道雄
野宮 三宅 志づ 恒川 志やう
花筐 岩崎 敏子 神野 道子
連吟 小 曾 増田 幸子 稲上 精
熊野 池田 正彦 池田 美代子
笹之段 日比野 勲 木造 博厚
仕舞 桜 衣川 幸節 香世子 佐々木 由里子
鶴 亀 戸松 六雄 幸節 香世子
紅葉 丸 宮部 保良 戸松 六雄
遊 柳 小島 利作 戸松 六雄
野 斑 宮 伊勢 信雄 伊勢 信雄

高砂 増田 保雄 吉田 定男 鬼頭 喜太郎
東 盛 赤間 鎮雄 吉田 定男 藤田 昭彦
土蜘蛛 恒川 志やう 加藤 三奈 後藤 孝一郎 藤田 昭彦
求成寺 増田 保雄 田村 勇 大槻 文蔵
道成寺 小島 とみる 泉 康強
乱拍子二調 田鍋 忍一郎 泉 康強
恋重荷 松本 頭一 増田 保雄
遊行柳 飯田 悦子 大西 智津子
卒都婆小町 大西 智津子 角野 博久
砧 鷺坂 富美子 角野 博久
船弁慶 水野 猛 角野 博久
松風 鬼頭 千枝 河村 総一郎 富士 道周
融 滝川 一司 河村 総一郎 藤井 春子
船弁慶 藤田 弘子 河村 総一郎 鬼頭 喜太郎
恒川 松彦 田鍋 忍一郎 藤田 六郎兵衛
戸 奥村 泰広 田鍋 忍一郎 鬼頭 喜太郎
藤 杉村 容子 寛 鉢一 鬼頭 喜太郎
羽衣 西村 欽也 水野 申三 鬼頭 喜太郎
和合之舞 福井 啓次郎 寛 三男
追加 主催 竹村 韻 秀 会
(終了予定七時半)

紅葉 鬼捕 高安 勝久 福井 啓次郎 寛 助川 三男
同 白濁 信義 西村 欽也 福井 啓次郎 寛 助川 三男
同 信義 西村 欽也 福井 啓次郎 寛 助川 三男
同 信義 西村 欽也 福井 啓次郎 寛 助川 三男



新能とは、春日大社(元官幣大社春日神社)と関係の深い奈良の興福寺に於て、平安の昔から執り行われて来た神事能の固有名詞であつて、これをおいて新能と称すべきものは存しない。

「新能について」

熱田神宮権宮司 長谷晴男

新能とは、春日大社(元官幣大社春日神社)と関係の深い奈良の興福寺に於て、平安の昔から執り行われて来た神事能の固有名詞であつて、これをおいて新能と称すべきものは存しない。

新能という名称が近年一般化され東京・名古屋・京都・大阪などで、野外に仮設舞台を設け、舞や新を焚いて能・狂言を演ずる能と新能と称しているが、これは能楽特有の幽玄味を一箇効果的に表現できるもので、主として民衆を娯ませるレクリエーション的な、単なる野外能であり、本稿にいう新能とは全くその主旨を異にするものである。

御門は、能楽特有の狂いでもあるかのようにならぬことを、興趣を横溢させ、一かからの愛いもみせな

女は、あしからじとこそ人も別れけめ、何か難波の浦は住みうは、素袍を着る男体に用いる。間狂言も特殊なものを除いたほかは

羽衣 西村 欽也 水野 申三 鬼頭 喜太郎 福井 啓次郎 寛 三男

次に新能の沿革について、その概要を述べる。興福寺東西金堂の修二会に、法

戦後の状況については、昭和二十一年より春日大社で「御社上り」の能が復活、昭和二十五年に

紅葉 狩 鬼捕 間 持女 佐藤 友彦 末社 大野 弘之

「御社上り」の能

熱田神宮権宮司 長谷晴男

新能南大門七日間の内、第三日目に一座宛抜けて、春日若宮社

「御社上り」の能を行い、他の三座が南大門で演じ、十二日には四座がそろって打上げをするのが例

四日市・観世九奉会能会

九月二十九日(日)十二時三十分開演

高砂 柴田初太郎 福井啓次郎 寛 三男

中部金剛会

十月十日(金)

俊寛 豊島弥左衛門 西村 欽也

松謡会

十月五日(土)

一謡 後援 中四日市教育委員会

熱田神宮能楽殿

十月六日(日)

先代梅若万三郎二十三回忌 追善能



よろず 質問室

〔質問〕
貴紙演能案内が紹介される能のなかで、ときに小書が
ありますが、その曲によって解説して頂けませんか、
また番組の解説を今後おねがいします。(中区T生)

〔お答え〕

羽衣 和合之舞の解説

観世流のみの替え型(小書)であつて、普通の羽衣は、松の遺物を舞台で正先に出し、羽衣(長摺)をその松にかけ、和合の小書の時、橋掛り一の松勾欄に掛けた羽衣を、ワキが拾い持ち帰る姿を、シテが暮より呼掛けて出て、橋掛りで初回上歌「迦陵頻伽の」地の中程迄、所作をする「千鳥鷗」より舞台に入る。普通は橋掛でなく、直ぐに舞台に入り所作をする。
序の舞のあと「シテのワカ」より、「舞の袖」迄を省き、序の舞の三段を位進め、破の舞の位にて(位早め、キリ地の「東遊びの数

和泉流狂言曲名(名寄)

- その3 (前号のつゞき)
- | | | | |
|-------------------|--------------------|------------------|-------------------|
| 松 樫 (まつゆずりは) | 船 渡 鯉 (ふなわたしむこ) | 釣 針 (つりばり) | 今 参 (いままいり) |
| 昆 山 伏 (びしゃもんれんが) | 昆 布 柿 (こぶがき) | 鬼 の 継 子 (おにのまご) | 文 相 撰 (ふずもう) |
| 餅 酒 (もちさけ) | 双 六 (すごろく) | 悪 の 坊 (あくぼう) | 朝 比 奈 (あさいな) |
| 子 盗 人 (こぬすびと) | 二 千 石 (にせんせき) | 横 の 座 (よこざ) | 祐 西 善 (うせぜん) |
| 茸 神 明 (くまじら) | 八 幡 の 前 (やわたのまえ) | 仁 王 (におう) | 栗 田 口 (あわたぐち) |
| 宝 明 (たまじんめい) | 若 和 布 (わかめ) | 松 唯 子 (まつばやし) | 酒 講 之 式 (さけこうのしき) |
| 福 神 (ふくのかみ) | 筒 竹 筒 (つつさきえ) | 横 槌 (たからつち) | 庖 丁 髯 (ほうちやうむこ) |
| 野 目 (さいのめ) | 連 歌 十 徳 (れんがじゅうとく) | 大 山 伏 (おほやまふし) | 二 人 袴 (ふたりばかま) |
| 賽 老 (さいのめ) | 松 宜 山 伏 (まつきやまふし) | 末 広 が り (すえひろがり) | 川 上 (かわかみ) |
| 大 黒 連 歌 (だいこくれんが) | 清水 座 頭 (しみずざとう) | 三 本 柱 (さんぼんち) | 宗 論 (しゅうろん) |
| | | 麻 生 (あそひ) | 悪 郎 (あくらう) |
| | | 張 始 (はりだて) | 吃 郎 (くちらう) |

薪能雑詠 戸田秀雄

千年の歴史をひそむ神宮に
今宵ゆかしき薪能かな
暑き避け今宵はゆかしき薪能へと
人々集まれり神宮の庭に
せみしぐれ木の間にすだく神宮の
森の宵闇にかざり火あかし
夕闇の熱田の森にせまる頃
かざり火に映ゆる能舞台かな
大小の鼓のひびき笛の音も
数千年の巨木にこたます
かざり火の光一さわり照り映えて
かざり火のまきまきる能衣装かな
打ち合えるなきなたの音鏡も
気合こもれり宝生流橋弁慶
一陣の涼風袖をかすめたり
暑き忘れぬ地謡座の我は
(筆者は編集同人・宝生流)

の友社
大上本町2-20
7984
屋 36393
1年 200円
1年 380円
20円

神苑に展ぐ薪能
3日夕熱田神宮で盛大に催される



名古屋梅若会
事務所 名古屋市中区流川町三ノ三
近藤 敏治 方

潤水会
名古屋市中区今池町二ノ四九
林 甲子 夫

9月の謡曲狂言番組
NHK ラジオ 第2放送
毎日曜日 午前8時から9時まで
(再放送)
毎金曜日 午後2時から3時まで

| | | |
|----------|-------------|-----------------------|
| 9月15日(日) | 20日(金)(再) | 観世流「鶴亀」 藤波順三郎 ほか |
| 9月22日(日) | 27日(金)(再) | 観世流「班女」 福岡梅若会 ほか |
| 9月29日(日) | 10月4日(金)(再) | 観世流「殺生石」 観世流 寿夫 信弘 ほか |

〔訂正〕
本紙八月号一面、
暑中広告中、間違ひ
がありましたので次
のように訂正、お詫
言ひます。

鎌倉能の会
中 森 晶 三
中 森 貫 太

| | | |
|---|-----------|---------|
| 青 陽 会 | 十月十三日(日) | 熱田神宮能楽殿 |
| 淡 交 会 追 善 会 | 十月二十日(日) | 熱田神宮能楽殿 |
| 名 古 屋 市 民 芸 術 祭 明 治 百 年 記 念 古 典 邦 楽 鑑 賞 会 | 十月二十三日(水) | 熱田神宮能楽殿 |
| 修 課 会 | 十月二十六日(土) | 熱田神宮能楽殿 |
| 名 匠 鑑 賞 会 | 十月二十七日(日) | 熱田神宮能楽殿 |

あなたに心をこめておおくりする……

富士道の婚礼道具

家具のふじみち

本社 名古屋市中区栄3丁目34番40号 (新館完成)
TEL (241) 3367・1453
ショールーム 愛知県西加茂郡三好町 TEL (05613) 2-1178
工場

宝生流宗家本

わんや書店

東京都千代田区神田神保町3-9
電話 (263) 6771 代表
小売部 東京都中央区銀座8-4 (金春ビル)
電話 (571) 0514
電 話 東 京 4163

日本観光旅館連盟会員
日本交通公社協定旅館

料理旅館 山泉

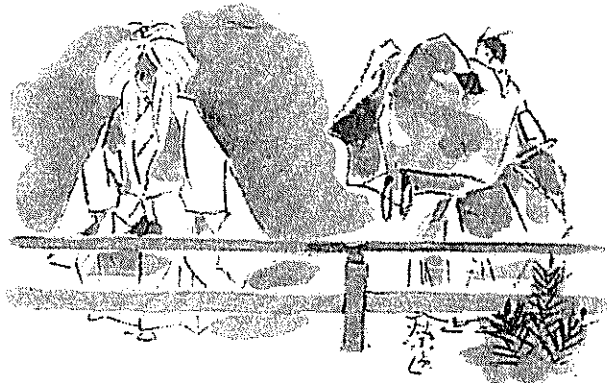
名古屋市中区栄3丁目19-14 (呉服町通り) 電話 (241) 2506-8番

装束談義 (十二)

白練(ねしろ) 白綾(あや)

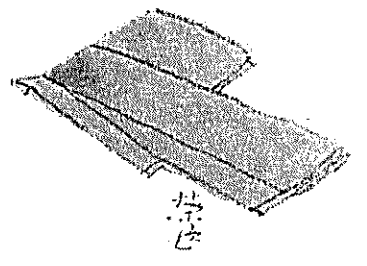
ふとふみ 二井栄逸

一時は忘れ去られたかのように見えた日本美が、逆境の中にあつて自分のほんとうのものを守りつづけて、再び美の本道に向かつて歩みつづけている。そして、国内だけでなく、全世界に向かつて拡がりつつある。その日本の美とはいったいどんなものなのか。...



おっとりしている。どこどなく品が良い。やんわりと私達を包んでくれるような美しさ。どこかに官能美さえひそませてある。ゆるやかなのびのびして...

ブルとか、高尚とか、ツンと取りすました上品さでなく、誰でもがとけ込んでゆるゆるな上品さ、ゆるやかなておゆるゆるな魅力、そのようなものであろう。



能の中には、みやびを優先させた演出がみられる。羽衣、かきつばた、湯谷等、また白綾(しるあや)の着附、白大口、白地舞衣(まじぎぬ)、白頭(しろかしら)を着し、神泉苑にスリと降り立った驚(さき)等も、まことみやびの姿である。...

各地だより

「関寺小町」を上演

杉浦友雪師 八十寿祝賀能 京都観世会の長老・杉浦友雪師の八十寿祝賀能 楽会が、きたる十月二十日、京都観世会館で催され、「関寺小町」を友雪師が演ずる。

- 子方 杉浦友雪 豊彦 谷田宗二郎 高安 滋郎 高坂 康弘 野口伝之輔
関寺小町 大倉長十郎
ツレ 吉井順一 西山 慶次郎 片山 慶次郎 森 元正 関治郎右衛門 晴蔵
東方朔 北野 三郎 曾和 博三 小寺 順三 仙八 森田 順人 桃仁 茂山千五郎

豊春会秋の能

10月20日会館能楽堂で 豊春会第十二回秋の能 会はきたる十月二十日、京都・金剛能楽堂で催される。

- 河村総一郎 森田 光春 竹村圭之輔
狂言 岩崎 狂雲 茂山 真吾
仕舞 中尾六三郎 遊 行 柳 金剛 巖
上 豊嶋三千春 豊嶋 三三 豊嶋 三三 豊嶋 三三

Table listing performers and roles for the 'Fushun Kai' event, including names like 岩崎 狂雲, 中尾六三郎, etc.

Table listing performers and roles for the 'Miyabi Kanzen' event, including names like 加藤 正光, 佐藤 定男, etc.

Table listing performers and roles for the 'Shinonome' event, including names like 吉田 定男, 鬼頭 八郎, etc.

Table listing performers and roles for the 'Miyabi Kanzen' event, including names like 吉田 定男, 鬼頭 八郎, etc.

11月の演能案内

九皋会大会 十一月三日(日) 熱田神宮能楽殿

風韻会能大会 十一月十日(日)九時半始 於熱田神宮能楽殿

第十六回竜神会総会 十一月十日(日)午前九時始

「一」楽会が、きたる十月二十日、京都親世会館で催され、「関寺小町」を友能が演ずる。当日は能「関寺小町」「東方朔」「安宅」半能「石橋」舞臺子「山姥」狂言「福の神」のほか仕舞、

能殺生 石 福王 輝幸 梅若 六郎 白頭 間 後見 復世 喜之 殿島 修二 後見 復世 喜之 殿島 修二 後見 復世 喜之 殿島 修二

新作能「女と影」

10月17日・中電ホールで
元駐日フランス大使
クロード・デル氏の戯曲上演

今年フランスの現代における象徴主義の詩人、劇作家であり、また外交官でもあったポール・クロード・デルの生誕百年記念に当たり、そのための催しが世界中の関係者によって行なわれている。日本においても、日仏協会、仏文学会、日本クロード・デル協会等の主催による、大学における講演会や、また各地での彼の作品上演が行なわれている。

九阜会大会 十一月三日(日) 熱田神宮能楽殿
第八回和泉会 十一月九日(土) 午後五時始 熱田神宮能楽殿
十一月十日(日) 九時半始 熱田神宮能楽殿

クロード・デル氏は古典演劇には深い関心をもち、在日当時は歌舞伎や能を深く研究し、とくに能について、「ギリシヤ悲劇に匹敵する」と高く評価、評論を書いているほどで、作品「女と影」も先代中村福助を中心とする「羽衣会」の依頼で書き、当時帝劇で先代松本幸四郎などによって上演されたが、クロード・デル自身も、能でなければ表現できないと語っていたほどで、とくにこの上演には「能」の依頼で書き、当時帝劇で先代松本幸四郎などによって上演されたが、クロード・デル自身も、能でなければ表現できないと語っていたほどで、とくにこの上演には「能」

「女と影」
原 作 ポール・クロード・デル
脚 色 木村太郎
演出 泉嘉夫
照明 松本吉正
演奏 木村太郎

能 紅 葉 狩 間 高安 勝久 河村総一郎 鬼頭喜太郎
能 野 焼 井上松次郎 井上礼之助 藤田六郎兵衛
能 栗 燒 井上松次郎 井上礼之助 藤田六郎兵衛
能 野 燒 井上松次郎 井上礼之助 藤田六郎兵衛

能 卒都婆小町 福王茂十郎 田鍋三郎 藤田六郎兵衛
能 草子洗小町 都筑静子 丸橋勝一 岩附善吉
能 紅葉狩 内田キヨカ 河村総一郎 田鍋三郎
能 龍 水野系子 丸橋勝一 岩附善吉

第十六回 竜神会 十一月十日(日) 午前九時始 於岡崎市門前町 随念寺舞台
能 遊 行 柳 岩附たつ子 河村総一郎 大野栄代
能 遊 行 柳 岩附たつ子 河村総一郎 大野栄代

能 高 砂 高安勝久 河村総一郎 田鍋三郎
能 高 砂 高安勝久 河村総一郎 田鍋三郎
能 高 砂 高安勝久 河村総一郎 田鍋三郎

東京で明治百年記念芸術祭能 文化庁と能楽協会主催
「水掛翠」三宅藤九郎ほかの諸師。
十六日(能)「三輪」シテ板間道雄、ワキ森茂、一調「放下僧」後援により、水道橋能楽堂で十月十五、十六、十七の三日間公演される。

三百年の伝統・新城能

市制十周年祝し奉納能開催

新城能の起原は、今を去る三百年前、奥平九郎信昌が、長篠の戦功により、徳川家康に嘉賞せられ、この地に城を賜り、その落成の日、祝能が催されたに始まる。

元文元年八月十四日、時の城主定易の子、定用御家督御祝儀のため今の富永神社の祭礼に能を演奏したことから、以来、祭礼には毎年本町の氏子が能を奉納するならわしになつてゐる。

装束、能面、小道具等、すべて揃つてゐるし、シテ方、ワキ方、囃子方、狂言方等、本町の氏子の内できめられ、奉納するという古来よりのしきたりをよく守り、毎年、能が催されてゐることは珍らしいことである。現在のメンバーでは、シテ方(喜多流)長田徳一

浦田保嗣師追善

浦田後援会で開催
さる九月十五日、大垣で浦田後援会主催による

大垣

能会が催された。
大垣に浦田保嗣が誕生してから十年「後援会能」は、こんどがはじめてで、大垣市外町の外側会館(旧市民会館)で行なわれ、会員斯道の同好が集い、きわめて盛會であつた。

壺泉会能会

壺泉会では、十月十日(体育の日)岡崎市岡崎市民会館で能会を開催。

崎岡

能「葵上」シテ杉浦芳枝、ツレ柴田うた子、ワキ 福玉輝之、能「船弁慶」前後替、前シテ伊藤滋敏、後シテ谷野博、ワキ 福玉輝之、ワキツレ松井武夫の二番。

- 能小 鍛治 鈴木 正治 河村総一郎 水谷 清
中嶋 信夫 太田 克明 永田六兵衛 中村 久芳
- 能半 太田 康弘 藤野 隆 鈴木 正治 寛 三男
森田 収

和泉流狂言曲名(名寄)

- 秀句傘 (しゅうく) がかさき
二人大名 (ふたりだいな) だいまよう
鞠座頭 (まりざとう) さらざとう
貫打 (つらうち) さらうち
雪原太郎 (ゆきはら) さらはら
河原太郎 (かはら) さらはら
入間川 (いりまがわ) さらまがわ
鼻取相撲 (はなとり) さらとり
馬口 (ばくち) さらち
折紙 (おりがみ) さらがみ
- 無布施経 (ふせない) さらない
不見不聞 (みずきかず) さらきかず
鈍太郎 (どんたろう) さらたろう
六人僧 (ろくにんそう) さらんそう
塗附 (ぬりつけ) さらつけ
八尾 (やお) さらお
脱殻 (ぬけがら) さらがら
鐘の音 (かねのね) さらね
塗師平六 (ぬしへいろく) さらへいろく
素袍落 (すおおとし) さらおとし
素袍落 (すおおとし) さらおとし

- 武 悪 (あく) さらあく
伯母ケ酒 (おばがさけ) さらさけ
吹取 (ふきとり) さらとり
連歌盗人 (れんがぬすびと) さらぬすびと
簾屑 (ひくす) さらひくす
隠し狸 (かくしたぬき) さらぬき
繩引 (なわひき) さらひき
首引 (くびひき) さらひき
伊文字 (いもじ) さらもじ
鍋八 (なべやっばち) さらやっばち
鎌腹 (かまばら) さらばら
蜘蛛人 (くもぬすびと) さらぬすびと
寝盗 (ねおんぎやく) さらおんぎやく
- 栗焼 (くりやき) さらやき
棒縛 (ぼうしばり) さらばり
合柿 (あわせがき) さらがき
米市 (まいいち) さらいち
才宝 (さいほう) さらほう
孫智 (まごち) さらち
千切木 (ちぎりき) さらぎりき
瓜盗人 (うりぬすびと) さらぬすびと
節分 (せつぶん) さらぶん
千鳥 (ちどり) さらどり
空腕 (そらうで) さらうで
三人片輪 (さんにんかたわ) さらかたわ
文蔵 (ぶんぞう) さらぞう
蚊相撲 (かずもう) さらもう

10月の謡曲狂言番組

NHK ラジオ 第2放送

毎日曜日 午前8時から9時まで
(再放送)
毎金曜日 午後2時から3時まで

10月13日(日) 観世流「柏崎」山本 博之 ほか
18日(金)(再)
10月20日(日) 下郷宝生流「放下僧」宝生 弥一 ほか
25日(金)(再) 高安流「胡蝶」豊嶋 十郎 ほか
10月27日(日) 観世流「江口」観世 寿夫 ほか
11月1日(金)(再)

葵上 無明之折

この小書がつくと、梓ノ出のときのようにシテ(穴条御所の生霊)の出の謡が、次第からサシの大部分が省略され、一ノ松から舞台に入つて常座に立ち、ハサの音はいづくぞやいと謡い出し、申入前は、ハサに立てる破れ車一で正先に立出た白地溜の袖(葵上)の病体に見立てたの強く見えた後、いつものように後見座で物着をせず、唐織を引きかざしたまま浴に中入りします。

後シテは緋の長袴に長かもしと、いう姿です。(長かもしは折りのときにワキを威嚇するための効果的な扱ひがあると聞いています)小書「無明之折」は、折りがいつもと異なるわけで、シテは正先にある小袖の襟をムズと引きつかんでシテ柱の方へ行くのを、ワキ(横川の小屋)が追っかけて飛びついて取戻し、恰も病人をいたわるように丁寧にあつた元、元の正先へ置いてうすまりながら珠数を押しもんで折りに折る。その間にシテは襟がかりへ出て、行者

「無明之折」の小書がつかますと、曲の位がぐっと重くなり、緩急抑揚も激しさを加えますので、ワキは勿論、ハヤシ方、ツレ、地謡、狂言、後見などそれぞれに格別の協力が要請されます。非京都・豊春会秋の観能のしるべ(栗林貞一氏の解説)より。

此水会秋季謡会

此水会では、十一月十日(日)秋季謡会を高野瀬道師宅(名古屋市中区榑木町二ノ九)で開催する。連吟「二人静」高野瀬 透、高野瀬三、今村嘉男、素謡「西王母」山口とよ、加藤有毅「錦木」加野昭二、日野美智子、守屋潤江「井筒」今村嘉男、高橋宗司、「橋弁慶」高木喜八、水野進三、

春鶯会秋季大会

金剛流春鶯会では、きたる十一月十七日(日)名古屋駅前松岡旅館で秋季大会を開催。素謡、舞囃子十数番が予定されている。

佐藤勇、「三井寺」高橋ちか子、高橋宗一郎、伊藤彰、「紅葉狩」野田房子、大橋まゆみ、山口とよ、「龍田」小川貞三、高橋宗一郎、「阿漕」浅井明、二宮義雄。

井口土建株式会社

土木・建築・請負業
設計・施工

代表取締役 井口 留次志
建築部専務 井口 吉哲
土木部専務 井口 哲

豊橋市魚町一三 建築部 電話 4370・5128
土木部 電話 0674

檜書店

合資会社

東京都千代田区神田小川町2-1
京都市中京区二条通鉄屋町東入

電話(291)2488-9
振替東京 3552
電話(23)1990
振替京都 113

日本趣味の店

特選貴金属・洋品雑貨・贈答用品の専門店

名古屋市中区栄一丁目15番 電話 211-1651
東京・名古屋・一宮

鳥料理 本場名代

登録商標

鳥料理 本場名代

電話 三三二一〇一五五

楽の友社
吹上本町2-23
1) 7984
古屋 36393

1年 200円
1年 380円
20円

真髓 芸術祭 決まる

「明治百年記念・古典邦楽鑑賞会」が熱田神宮能楽殿で開催されるが、この内容が別項のとおり決定した。

この古典邦楽鑑賞会は、名古屋

舞 講 演 第二部 藤井 制心

熱田神宮桐竹会

納管利

納管利は關原王の答舞(こたえまい)で、雙龍(そうりゅう)交遊の貌をかたどったので、一名雙龍舞とも称し、一人で舞うときは「落舞(らくせん)」という。こ

発行 能 楽 の 友 社

名古屋市中千種区吹上本町2-20

電話 (731) 7984

振替口座 名古屋 36393

購読料 1年 200円

郵送の場合 1年 380円

一 部 20円

題字は熱田神宮 篠田富司筆

能 楽 の 友

ごあいさつ

昭和四十三年度名古屋市民芸術祭に、ときあたかも明治百年にあたり、これを記念して、能楽の友社主催のもとに古典邦楽市民鑑賞会を盛大に開催致すことができました。これに際して名古屋市をはじめ、各界のご理解あるご協力の賜ものにはかたがた厚く御礼申し上げます。今後とも斯道のため精進努力を致す所存でございますので、何卒一層のご支援を賜りますようお願い申し上げます。

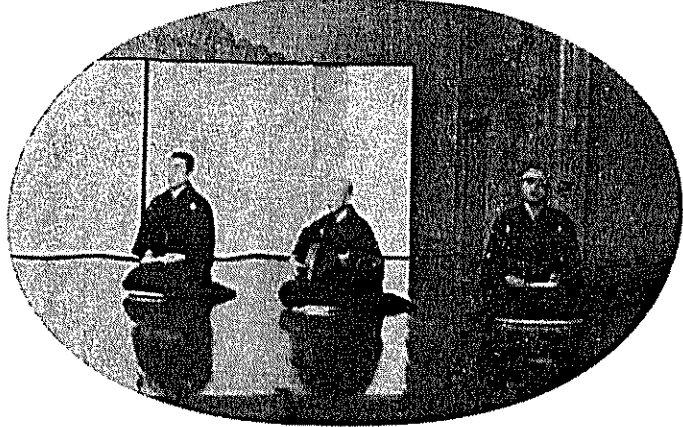
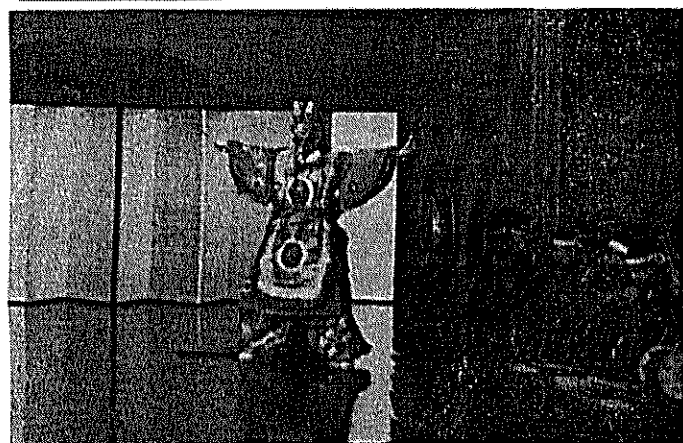
能 楽 の 友 社

繰 展 げ た 古 典 の 至 芸

熱 田 神 宮 能 楽 殿 で 明 治 百 年 記 念

盛 大 に 邦 楽 鑑 賞 会 開 催

第一部能楽の部は、名古屋能楽会副会長植村真太郎氏から明治百年を記念しての時宜を得た意欲深い邦楽鑑賞会の開催についてあいさつがあり、第二部古典邦楽の部では、名古屋文化財調査委員、愛知大学音楽史教授藤井利心氏の「音楽史上よりみた古典音楽の価値」と題する講演について邦楽の粋が演ぜられた。



昭和四十三年度名古屋市民芸術祭、明治百年を記念する能楽の友社主催、名古屋市民教育委員会、名古屋能楽会、邦楽協会など後援の「古典邦楽市民鑑賞会」は、さる十月二十三日、熱田神宮能楽殿で開催、雨模様であいにくの天候にもかかわらず愛好者は陸続と来会、舞台にくりひろげられる伝統芸能の真髓に触れ、まさに市民鑑賞会にふさわしい盛大な催しであった。



「大江山」のスケッチ 仙田雪山子画

今回はとくに北岸佑吉氏の寄稿を3面に掲載しました。

邦 楽 の 発 展 に 寄 与

杉戸名古屋市長、篠田熱田神宮宮司が祝辞

この古典邦楽市民鑑賞会について杉戸名古屋市長は「邦楽は、我々の祖先が造り出し今日までよく育てた、いわば日本の精神文化の結晶の一つである。戦後、ともすると日本の古きよきものが粗末に扱われ、理由もなく卑下された時期があったが、最近はそのまた反動というか、日本の古典芸術が再認識せられ、再び民衆の注目を集めはじめたことは誠に喜ばしいことである。明治百年の行事として、歴史をふりかえり、一つの区切りとして未来の日本を探る動きを寄せられた。



写 真 説 明

- 〔右上〕能「石橋」
- 〔右下〕狂言「素袍落」
- 〔左上〕舞楽「蘭陵王」
- 〔左中〕平曲「那須与市」
- 〔左下〕地唄舞「ともしび」

宝 生 流 宗 家 本

わ ん や 書 店

東京都千代田区神田神保町3-9 代表
電話(263)6771 (金春ビル)
小売部 東京都中央区銀座8-4 0514
電話(571)0514
振替 東京 4163

殿島蒼人氏が受彰
さる三日、文化の日に、愛知県では産業、文化、社会事業に貢献した二十三人を表彰、文化関係では殿島蒼人氏が受彰した。

は老女の最高のものである。
4. 神 舞
男体の神の舞で、神々しくよどみなく打つ。全部太鼓入りで、「高砂」「養老」「弓八幡」など、典雅な感じの舞で、この舞の特徴は、笛の調子が初段オロシまで、鐘調であるので早舞より男舞に似ているが、これは舞臺の舞なので、極めて位の早い舞で太鼓なしの舞で、流儀によっては男舞と称しているが、正確には黄鐘早舞といふべきである。普通の早舞と違って太鼓が入らず、笛の調子も黄鐘調であるので早舞より男舞に似ているが、これは舞臺の舞なので、極めて位の早い舞で太鼓なしの舞で、流儀によっては男舞と称している。また太鼓入りのカケリとしては「阿漕」「山姥」等がある。「阿漕」は網に魚を追い入れるという特殊な型がある。(つづく)

西村弘敬、舞臺子「船弁慶」内藤泰三の諸師、唯子方、地謡方による熱演、狂言「素袍落」和泉保之、井上松次郎、野村又三郎師につづいて、明治百年記念と、市民芸術祭にふさわしい半能「石橋」(大獅子)赤・梅田邦久、白・殿島修三、ワキ西村欽也師により、けんらんたる舞台で萬歳千秋と舞い納め、邦楽鑑賞会の有終を飾った。

同厚く感謝申し上げます。きたるべき昭和四十四年は、母号にわたって「観能の手引き」その他新しい企画で皆様のご期待にこたえるべく精進を重ねる決意です。どうか一層のご支援を頂きます。

「能の本体は舞踊である」とさえいわれる。能楽のシテ中心主義は畢竟、シテの舞踊中心に通ずるといえる。総合芸術の中核といえる「舞物」について、田鍋徳太郎氏著「小鼓蒔話」より引用して解説をさせて頂いた。

1. 中の舞

舞物について (1)

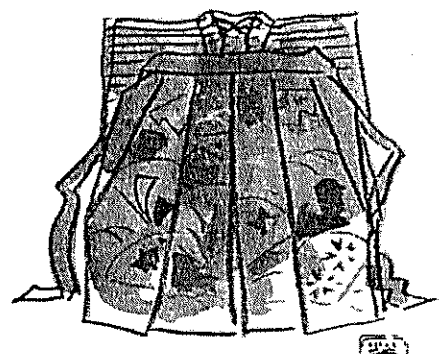
これは最も普通の舞で、その名の示すように、早からず遅からず中庸の舞であり、多くは女性のシテの舞う舞で、序の舞の端麗に比して優艶の趣を具えている。中の舞は今日では普通三段であるが、以前は五段で時間の関係などから次第に省略されてきたと思われる。太鼓入りと太鼓なし(大小鼓「紅葉狩」「船弁慶」等)があり、太鼓入りのものには「西王母」「胡蝶」「狸々」等がある。概して太鼓なしのものは「安宅」である。

鼓なしのものは、緩急が多くしつかり打つもので、太鼓入りのものは品よく素直にのりよく軽快打つものとされている。またこのほかに、イロエ掛り中の舞として、「能野」と「松風」がある。イロエ掛りというのは、掛りがあり、破掛りには「小督」「小袖曾我」(観世)、達舞掛りには「盛久」「芦刈」「春栄」、山伏掛りには「安宅」がある。山伏掛りは、笛がヒシギを吹かない所が達舞と違うのである。山伏で男舞を舞うものは「安宅」一曲で、またシテが山伏という曲も少ないものである。なお男舞には太鼓は入らない。

義談東装 (十二) 大口(おくち)

逸栄井二 ふと

表面に出ている部分よりも、何倍かの量を見えない地下に持っている、それが能である。日本美を表現する単語の一つ、幽玄を説明するならばズバリ能を幽玄といつてよい。幽は底のない深さを意味し、玄は黒に通じる。



のついたのを色大口、緋の色の緋大口、また、箱、織出し等の模様のあるものを紋大口、模様大口といっている。大体、原則として、白大口は、位のある僧や大臣、或いは山伏等がはき、色大口は、老女、老体の神、草木の精、直面ものの安宅のシテ等がつけ、また緋大口は身分のある女、紋大口は公達物のシテがつける。このように、すべて、曲柄によって大口の種類もわかる。



力と能楽にあたるものである。そして、能は六百年のよわいを保ちながら脈々と生きつづけるのである。この能の重要な演出の一つである、能装束、冠り物、頭髪、着附、上衣、袴、上下、附風物の七種のうち、上衣類、着附類を終わら、本母から袴にうつる。袴類には、大口、半切(はんぎり)、指貫(さしぬき)、腰巻の四種がある。大口は、もと、下袴であったが、能に下袴として用いるのは、込大口(こみおくち)で、普通の大口は上袴として用いる。この後が平たく長く伸びている。

六甲山の裏側にある下谷上の農村、歌舞伎舞台が民俗資料として国の重要文化財に指定された記念の芝居が催されるのに行ってみた。狂言方の強力が童子の榎家へ宿を乞いに恐ろしく行くと、洗濯女などの御姿」とワキの前に追つて

演能案内

霞会秋季囃子会

十一月十六日(土) 正午始
熱田神宮能楽殿

観世会定式能 四十三年度第五回

十一月十七日(日) 正午始
熱田神宮能楽殿

能組

松 連 吟 飯田新子
虫キリ 芥川秀子
卷 絹 加藤総兵衛
虫クセ 稲生芳雄
女 松 久田秀雄
花 久田秀雄

東 方 朔

西村弘敬也 吉田定男 野村陽太郎
高安勝久 後藤孝一郎 藤田昭彦
和泉保之 佐藤友彦

葛 清水座頭

和泉保之 井上松次郎
山本博之 高安滋郎 筑紫一 鬼頭八郎
大和舞 立石澄雄 田鍋徳太郎 藤田六郎兵衛

山 通 盛

山本順之 松浦信一郎
楊貴妃 柴田初太郎 梅田信久
天鼓 大槻文蔵 地謡 梅田信久
船弁慶 山本真義 地謡 波多野晋

邦 附 祝 言

河村総一郎 鬼頭喜太郎
西村欽也 田鍋徳一郎
高安勝久 佐藤三郎

大 演 能 案 内

大槻十三・七回忌追善能
十一月二十四日(日) 午前十時半始
大槻能楽堂

名古岸金春会

十二月一日(日)
熱田神宮能楽殿

宝生 定式能

十二月八日(日) 午後一時始
熱田神宮能楽殿

能天 野村景久

能車 衣斐正宜

能 乱

十二月十五日(日) 正午始
熱田神宮能楽殿

能 杜

鬼頭八郎

能 橋

赤鏡 助川 龍一

能 石

藤田六郎兵衛

金 沢

金沢能楽会では、きる十一月三日、金沢能楽堂で定例研究発表会を開催した。

素謡 紅葉狩

山田信子 森田花子

(能) 枕 慈童

飯島佐六 飯森友男

(狂言) 宗 八

飯島保八 森田久佐

能 葵

飯島忠 安江与吉

大 演 能 案 内

故今井栄次郎五十年祭記念能
十一月十七日(日) 午後一時
大槻能楽堂



歌舞伎舞台が民俗資料としての重要な文化財に指定された記念の芝居が催されるのに行ってみよう

だが、天気も下り坂だったので断念、京金剛の例に珍らしい「大江山」があるのを思い出して見に行

京だより

大江山のたのしさ

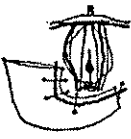
北岸 佑吉

大江山酒呑童子の能は世阿弥の作だともいわれているが、鞍馬天狗や曾我もの、満仲、放下僧などの劇能を作った宮増の作との説の方が信じられる。

強力がなだめ口説いて、身どもの女房になったら子供とともに引取るうらと連れ帰る約束をするのも面白い。

「都鄙」と同じ大宮屋敷が脇座に出される。ワキは兜巾を去り、鉢巻をし、肩をとって松明を振り、側次かモギドリーになったツレを従えて橋掛りにならぶ。

大江山ついでこの秋、仙田さんや繪書店の前西さんらと、大江山の麓へ鬼退治ならぬ茸狩りに行くうではないかと話している。



私の観能記録

中部金剛会をみて

K・T 生

十月十日中部金剛会に参りました。能二番いずれも見ごたえがありました。

「俊寛」小柄な弥左衛門が役に相応しく好演でした。落魄した鬼界ヶ島の俊寛が背をかかめ、日々を空しく送っている風情を弥左衛門は自身俊寛になりきっている如く余情たっぷり演じてみせました。

その意味からも弥左衛門には通役で、その持味を十分に出したものでした。

勅使になったワキの西村欽也も実にスッキリとした演技で、殊に舟が島を離れるとき、弥左衛門がトモ綱にすがるとき、非情な趣は光っていました。

「装束」の金剛殿も通役で、身体の手ディキップを逆によく生かした立派な演技でした。嫉妬に狂う六条の御所所が怨念の極化となり、身内からの職が巧まらずして全身から湧きおこり、観る者を慄然とさせる凄味がありません。

私が知っていたこともありません。うら、弥左衛門の悲嘆にくれる有様が側々とおぼえて来ました。

一つの能会にも見られることですが、見所で謡曲本と首つ引きでその章句をなぞっている人がいますが、折角の観能を全く勿体ないことだと思えます。

た。横川の聖との打々発止の立合いは、さすが舞金剛の名に背かない流麗な中にも気候のこもった身のこなしで感服しました。(熱田神宮能楽殿にて)



あなたのおそばに 東海銀行

後見 大槻 秀夫 地謡 真田 米次 加藤 丈太郎 柴田 山本 武之

大槻十三・七回忌追善能

十一月二十四日(日)午前十時半始

景 鉢 連 小川 二郎 榎 井 順次郎

盛 久 大竹 清之 荒木 敏郎 野口 伝之輔

雨 仕 井田 文二 沢近 六左衛門 西岡 菊太郎 地謡 小坂 信男

善 知 鳥 波多野 敬 地謡 泉村 康太郎 竹 翠

山 独 竹 綱三和子 宇治 正夫 久保田 亘亮 中川 隆夫 森田 光春

卒都婆 小町 一度之次第 久保田 亘亮 中川 隆夫 森田 光春

泣 狂 善竹 玄三郎 善竹 幸四郎

采 女 大槻 文蔵 林 喜右衛門 大江 又三郎 地謡 泉村 康太郎 小泉 清之

実 町 大 竹 文蔵 林 喜右衛門 大江 又三郎 地謡 泉村 康太郎 小泉 清之

花 盛 竹 谷 文一 生一 泰知 地謡 泉村 康太郎 小泉 清之

昭 君 生一 泰知 地謡 泉村 康太郎 小泉 清之

反 魂 香 吟 山本 朝太郎 山本 博之

前子 方 山 中 義一 山本 敬一郎 貞井 信一

鳥帽子 折 指吸 雅之助 植田 隆之亮 山本 敬一郎 貞井 信一

融 大槻 秀夫 中村 弥三郎 荒木 照雄 貞井 信一

能 葵 佐野 夏之助 殿田 保輔 飯島 靖久 安江 与吉

故今井栄次郎五十年祭記念能

十一月十七日(日)午後一時

能 伯 母 捨 久保田 亘亮 江崎 康雄 森本 幸治 大倉 長十郎 小寺 光七

仕 舞 遊行 柳 森 親雄 地謡 谷口 喜代三 小寺 光七

能 伯 母 捨 久保田 亘亮 江崎 康雄 森本 幸治 大倉 長十郎 小寺 光七

狂言 悪太郎 茂山 千作 武藤 達三 茂山 千作

仕 舞 通小町 種田 道雄 種田 道雄 種田 道雄

一調 女 花 豊嶋 弥左衛門 中村 亨道 谷口 喜代三 小寺 光七

能 石 ツレ 今井 清隆 岡治 郎右衛門 竹村 幸三 貞井 信一

後見 金剛 藤本 正一 藤本 正一 藤本 正一 藤本 正一

主 催 今井 記念 能楽 会

後 援 華 金 剛 会

主 催 今井 記念 能楽 会

後 援 華 金 剛 会

主 催 今井 記念 能楽 会

後 援 華 金 剛 会

主 催 今井 記念 能楽 会

11月の謡曲狂言番組 NHK ラジオ 第2放送 毎日曜日 午前8時から9時まで (再放送) 毎金曜日 午後2時から3時まで

編集同人 (五十音順)

伊藤鉄之進 杉村竹翠 内藤泰二
梅田邦久 高安滋郎 野村又三郎
加野昭二郎 田鍋惣一郎 花木徳三郎
佐藤卯三郎 戸田秀雄 二井栄逸
柴田初太郎 殿島修二

能 楽 の 友

題字は熱田神宮 復田富司筆

発行 能 楽 の 友 社

名古屋市千種区吹上本町2-20
電話 (731) 7984
振替口座 名古屋 36393

44年1月より
購読料 1年 300円
購読の場合 1年 400円
郵送の場合 1年 30円

多彩な催能で飾る

記念すべき「明治百年」の行事

ことしの中部能楽界

ことしの中部能楽界は、きわめて盛況であった昨年を上回る幅広い催能で飾られた。

熱田神宮能楽殿での演能は、もちろん、東海各地での演能は、各会

の演能は、中部能楽界のスケールをそのまま表現するものである。

観世会定期能、宝生会定期能は同流、同好の人々で能楽堂を埋め

また中部金剛会能、名古屋金春会

の演能、また東西から注目される名匠鑑賞能は、まさにその名のと

おり、宝生、観世の能組をそれぞれ春・秋に催し、別会と合わせ、

通算五十八回という輝かしい演能の伝統を築きあげてきた。

また、朝日狂言会は第十回を迎え、加えて各流、各会による記念

能、追善能など名曲を織りなして能楽への理解と鑑賞の機会は大いにひろめられた。

とくに、ことしの催能として、記しておきたいのは、市民精神能楽の夕として、第三回を迎えた

シテが静かに舞台を廻る。「船弁慶」「杜若」「弱法師」「卒都婆小野」等で太鼓は入らないが「百萬」「山姥」等は太鼓が入る。...

「名古屋新能」が、能にゆかり深い熱田神宮境内で行なわれたことと、明治百年を記念して能楽殿で「古典邦楽市民鑑賞会」が催されたことである。

海外公演も引きつづき活発で、メキシコ・オリンピックを記念して、国際芸術展示に、日本政府派遣の文化使節能楽団がアメリカ、メキシコで公演、また野村狂言団のアメリカ、カナダ公演とともに日本の文化芸術を紹介、その使命を果たすとともに「能・狂言」の国際性を遺憾なく発揮した。また新作能「女と影」の上演も日仏交流に大きな役割を果たした。

東海各地でもいろいろな催能が行なわれ、新能では、市制十周年・明治百年を記念して奉納能が催された。京都ではこの十月、観世流「関守小町」が杉浦友雪師によって上演されたこともことしの能楽界を飾るものである。

多くの演能を通じて、能楽が一般市民に触れる機会是非常に多くなってきたことはまことに喜ばしい。そしてこの盛んになってきた

また「申楽の一会」をナス役人、面々我一身習得スル所ヲモチ、心ニ又遠慮ヲモツベキ道アリ。一座成就ノ感風ハ、連人の曲力合ナクバ、道カナフベカラズ。連人一同ノ俱行ソロハズハ、イカニ面々其ワザヨクナスト思フトモ、舞歌平頭ノ成就ハアルベカラズ、サ

また「申楽の一会」をナス役人、面々我一身習得スル所ヲモチ、心ニ又遠慮ヲモツベキ道アリ。一座成就ノ感風ハ、連人の曲力合ナクバ、道カナフベカラズ。連人一同ノ俱行ソロハズハ、イカニ面々其ワザヨクナスト思フトモ、舞歌平頭ノ成就ハアルベカラズ、サ

また「申楽の一会」をナス役人、面々我一身習得スル所ヲモチ、心ニ又遠慮ヲモツベキ道アリ。一座成就ノ感風ハ、連人の曲力合ナクバ、道カナフベカラズ。連人一同ノ俱行ソロハズハ、イカニ面々其ワザヨクナスト思フトモ、舞歌平頭ノ成就ハアルベカラズ、サ

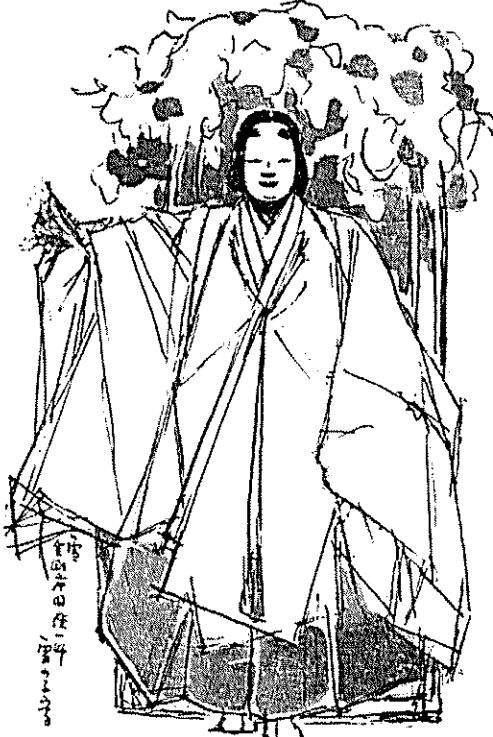
また「申楽の一会」をナス役人、面々我一身習得スル所ヲモチ、心ニ又遠慮ヲモツベキ道アリ。一座成就ノ感風ハ、連人の曲力合ナクバ、道カナフベカラズ。連人一同ノ俱行ソロハズハ、イカニ面々其ワザヨクナスト思フトモ、舞歌平頭ノ成就ハアルベカラズ、サ

また「申楽の一会」をナス役人、面々我一身習得スル所ヲモチ、心ニ又遠慮ヲモツベキ道アリ。一座成就ノ感風ハ、連人の曲力合ナクバ、道カナフベカラズ。連人一同ノ俱行ソロハズハ、イカニ面々其ワザヨクナスト思フトモ、舞歌平頭ノ成就ハアルベカラズ、サ

また「申楽の一会」をナス役人、面々我一身習得スル所ヲモチ、心ニ又遠慮ヲモツベキ道アリ。一座成就ノ感風ハ、連人の曲力合ナクバ、道カナフベカラズ。連人一同ノ俱行ソロハズハ、イカニ面々其ワザヨクナスト思フトモ、舞歌平頭ノ成就ハアルベカラズ、サ

また「申楽の一会」をナス役人、面々我一身習得スル所ヲモチ、心ニ又遠慮ヲモツベキ道アリ。一座成就ノ感風ハ、連人の曲力合ナクバ、道カナフベカラズ。連人一同ノ俱行ソロハズハ、イカニ面々其ワザヨクナスト思フトモ、舞歌平頭ノ成就ハアルベカラズ、サ

また「申楽の一会」をナス役人、面々我一身習得スル所ヲモチ、心ニ又遠慮ヲモツベキ道アリ。一座成就ノ感風ハ、連人の曲力合ナクバ、道カナフベカラズ。連人一同ノ俱行ソロハズハ、イカニ面々其ワザヨクナスト思フトモ、舞歌平頭ノ成就ハアルベカラズ、サ



「雪」のスケッチ 仙田雪山子 画

今回はとくに栗林貞一氏のご寄稿を頂き、面に掲載しました

また「申楽の一会」をナス役人、面々我一身習得スル所ヲモチ、心ニ又遠慮ヲモツベキ道アリ。一座成就ノ感風ハ、連人の曲力合ナクバ、道カナフベカラズ。連人一同ノ俱行ソロハズハ、イカニ面々其ワザヨクナスト思フトモ、舞歌平頭ノ成就ハアルベカラズ、サ

また「申楽の一会」をナス役人、面々我一身習得スル所ヲモチ、心ニ又遠慮ヲモツベキ道アリ。一座成就ノ感風ハ、連人の曲力合ナクバ、道カナフベカラズ。連人一同ノ俱行ソロハズハ、イカニ面々其ワザヨクナスト思フトモ、舞歌平頭ノ成就ハアルベカラズ、サ

また「申楽の一会」をナス役人、面々我一身習得スル所ヲモチ、心ニ又遠慮ヲモツベキ道アリ。一座成就ノ感風ハ、連人の曲力合ナクバ、道カナフベカラズ。連人一同ノ俱行ソロハズハ、イカニ面々其ワザヨクナスト思フトモ、舞歌平頭ノ成就ハアルベカラズ、サ

また「申楽の一会」をナス役人、面々我一身習得スル所ヲモチ、心ニ又遠慮ヲモツベキ道アリ。一座成就ノ感風ハ、連人の曲力合ナクバ、道カナフベカラズ。連人一同ノ俱行ソロハズハ、イカニ面々其ワザヨクナスト思フトモ、舞歌平頭ノ成就ハアルベカラズ、サ

また「申楽の一会」をナス役人、面々我一身習得スル所ヲモチ、心ニ又遠慮ヲモツベキ道アリ。一座成就ノ感風ハ、連人の曲力合ナクバ、道カナフベカラズ。連人一同ノ俱行ソロハズハ、イカニ面々其ワザヨクナスト思フトモ、舞歌平頭ノ成就ハアルベカラズ、サ

また「申楽の一会」をナス役人、面々我一身習得スル所ヲモチ、心ニ又遠慮ヲモツベキ道アリ。一座成就ノ感風ハ、連人の曲力合ナクバ、道カナフベカラズ。連人一同ノ俱行ソロハズハ、イカニ面々其ワザヨクナスト思フトモ、舞歌平頭ノ成就ハアルベカラズ、サ

また「申楽の一会」をナス役人、面々我一身習得スル所ヲモチ、心ニ又遠慮ヲモツベキ道アリ。一座成就ノ感風ハ、連人の曲力合ナクバ、道カナフベカラズ。連人一同ノ俱行ソロハズハ、イカニ面々其ワザヨクナスト思フトモ、舞歌平頭ノ成就ハアルベカラズ、サ

また「申楽の一会」をナス役人、面々我一身習得スル所ヲモチ、心ニ又遠慮ヲモツベキ道アリ。一座成就ノ感風ハ、連人の曲力合ナクバ、道カナフベカラズ。連人一同ノ俱行ソロハズハ、イカニ面々其ワザヨクナスト思フトモ、舞歌平頭ノ成就ハアルベカラズ、サ

また「申楽の一会」をナス役人、面々我一身習得スル所ヲモチ、心ニ又遠慮ヲモツベキ道アリ。一座成就ノ感風ハ、連人の曲力合ナクバ、道カナフベカラズ。連人一同ノ俱行ソロハズハ、イカニ面々其ワザヨクナスト思フトモ、舞歌平頭ノ成就ハアルベカラズ、サ

また「申楽の一会」をナス役人、面々我一身習得スル所ヲモチ、心ニ又遠慮ヲモツベキ道アリ。一座成就ノ感風ハ、連人の曲力合ナクバ、道カナフベカラズ。連人一同ノ俱行ソロハズハ、イカニ面々其ワザヨクナスト思フトモ、舞歌平頭ノ成就ハアルベカラズ、サ

また「申楽の一会」をナス役人、面々我一身習得スル所ヲモチ、心ニ又遠慮ヲモツベキ道アリ。一座成就ノ感風ハ、連人の曲力合ナクバ、道カナフベカラズ。連人一同ノ俱行ソロハズハ、イカニ面々其ワザヨクナスト思フトモ、舞歌平頭ノ成就ハアルベカラズ、サ

また「申楽の一会」をナス役人、面々我一身習得スル所ヲモチ、心ニ又遠慮ヲモツベキ道アリ。一座成就ノ感風ハ、連人の曲力合ナクバ、道カナフベカラズ。連人一同ノ俱行ソロハズハ、イカニ面々其ワザヨクナスト思フトモ、舞歌平頭ノ成就ハアルベカラズ、サ

Table with columns for '魚節', '鮮鯉', '楽師会', '能', '十二月十五日(日) 正午始', '熱田神宮能楽殿'. Lists names and roles.

Table with columns for '能', '狂言', '十二月十五日(日) 正午始', '熱田神宮能楽殿'. Lists names and roles.

Table with columns for '能', '狂言', '十二月十五日(日) 正午始', '熱田神宮能楽殿'. Lists names and roles.

Table with columns for '能', '狂言', '十二月十五日(日) 正午始', '熱田神宮能楽殿'. Lists names and roles.

Table with columns for '能', '狂言', '十二月十五日(日) 正午始', '熱田神宮能楽殿'. Lists names and roles.

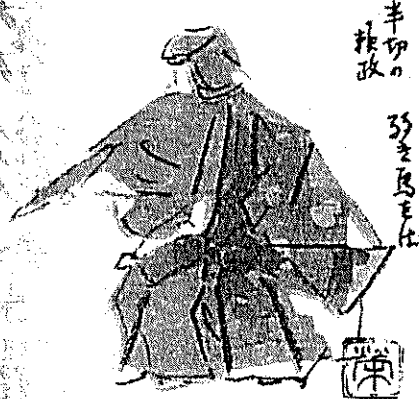
高等学校生徒 能楽鑑賞会 十二月十六日(月) 熱田神宮能楽殿

能楽の友社

義 談 束 装

指貫（さしぬき）半切（はんぎり）

逸 栄 井 二 二 三

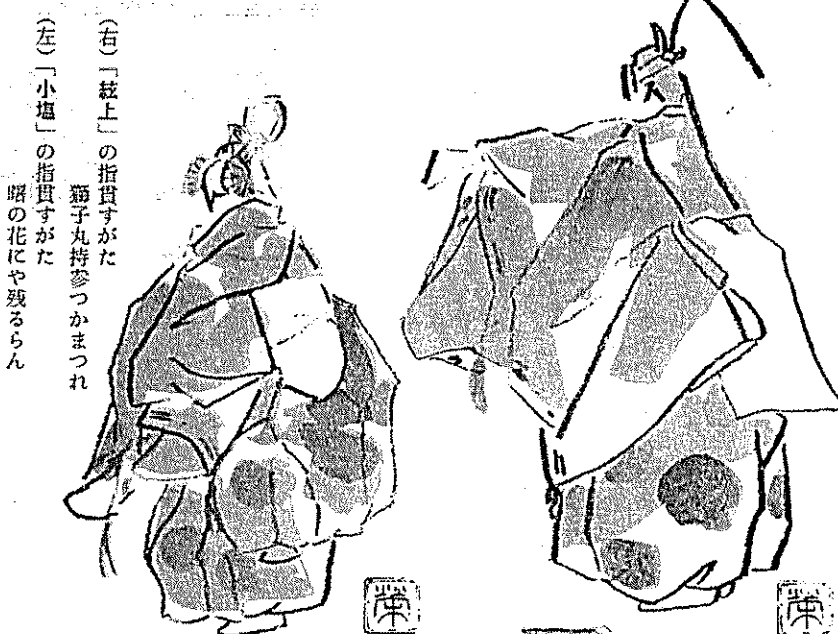


「羽衣」のカット

- 三十七 海海（たんかい）
- 三十八 陀羅尼落葉（だらににおちば）
- 三十九 高安（たかやす）
- 四十 太刀堀（たちほり）
- 四十一 鶴若（つるわか）

を結ばれ入るの後伊吹山の賊征伐に行く時に、草薙の宝剣をこの娘に授けて行かれた。この宝剣は後に熱田神宮の御神体として祀られた。この神社は、仲哀天皇の四年（一九五年）に建立せられ、寿福

ものあわれなんて、王朝風の貴族めいた人達だけが愛するものなわけ、と、言ってしまうは、それまでのことであるが、さにあらず、あわれは、日本人であれば、誰の心の中にも、ひそんでいいる感情なのである。それならば、このあわれとはどういふものなのだろうか。これはなかなか意味深いことばであって、そのものズバリと言いつたら、余情を感じよう美、すなわち、余情を感じよう



（右）「絨上」の指貫すがた
（左）「小塩」の指貫すがた
（右）「絨上」の指貫すがた
（左）「小塩」の指貫すがた
と、このが現代文字では、あわれを、悲しい程の美しさ、と、言いつたであらわしている。これは、日本美の一つであるもののあわれの感情を、うまく表現したものだと思いつている。
美しいものは悲しい。それほど切実な美しいものへのあこがれは、あわれという感情の泉となつて、人間社会に独特の余情をまき散らすのである。植民地的都会文化、何事も前衛ばかり、というものに幻惑されて、日本美を忘れることは悲しい。あわれは、かわいそう、とか、ふびん、とか言つた感情が主でなく、ああ素晴らしい、ああ美しいとか、あっぱれ、とかいふ感動詞が主だと思つた。余情も楽しむ日本人は、素晴らしい美に打たれた場合は、なおそれ以上に奥深く、表にあらわせない美、すなわち、余情を感じよう



とする気持ちが無意識に動く。ものあわれは、或る時は、崇高に、ある時は、すがすがしく、ある時は悲しく、またある時は狂はしく私達の心の中を去来する。能は、ものあわれを、無言のうちの人々の心の中に、よみがえらせてゆくのである。

演 能 案 内

能楽協会名古屋支部謡初会

昭和四十四年一月三日（金）
熱田神宮能楽殿

学生能と狂言の会

一月七日（火）
熱田神宮能楽殿

- （新春）能竹生島 高安 滋郎
（観世）能舟弁慶 大浜 一郎
狂言 末広 富永 宏 鈴木 芳明
狂言 花折 川島 清美 大矢 芳明
（観世）能舟弁慶 大浜 一郎 村田 光生
狂言 末広 富永 宏 鈴木 芳明
狂言 花折 川島 清美 大矢 芳明

青 陽 会

一月十二日（日）
熱田神宮能楽殿

- 研究能 藤原 高橋 原一 寛 勉一
間 高安 勝久 福井啓次郎 鬼頭 季信
仕舞 鞍馬天狗 祖父江修一 加賀 敏彦

- 舞臺子 草子洗小町 竹内 六郎 河村総一郎 寛 三男
仕舞 富士太鼓 服部 紗枝 石谷 初蔵
能老 松 高安 滋郎 後藤孝一郎 寛 助川 童夫
仕舞 隅田川 柴田初太郎
狂言 酢 菘 佐藤卯三郎 井上礼之助
仕舞 屋 加藤文太郎
老 松（おいまつ） 観世元照 謡の「我をも共に連れて行け」で真ノ次第の囃子でワキ梅津某がワキツレ従者二人を従えて登場、次いで真ノ一声の囃子でシテ老翁がツレ樹守の男を先にし出て、一ノ松、三ノ松に立ち向き合つて真

- 子方 河村 幸市
能花 西村 欽也 河村総一郎 鬼頭 季信
仕舞 菊慈童 久田 秀雄
能鉄 輪 高安 滋郎 吉田 定男 池田 六郎兵衛
間 高安 勝久 田鍋 一郎 藤田 六郎兵衛
井上松次郎

- 長屋 三務氏 追善会
名古屋 清 韻 会 能
一月十五日（祭）十時始
熱田神宮能楽殿
神歌 長谷川 実 千歳 中村 克己
舞臺子 養 老 稻生 芳雄 山口 寛一
素 藤田 保男 日比大太郎 福間 昌作 地 藤田 保男
俊 寛 富士道周明 福間 昌作 地 藤田 保男

- 草紙洗小町 大辻 君子 吉田 定男
野宮 坂田 猛 吉田 定男
巻 絹 伊勢 信雄 田鍋 一郎 鬼頭 三男
鉢 木 吟 稻生 清子 日比大太郎
鉢 上 舞 藤田 保男
山 姥 丸 藤田 保男

- 藤戸 坂崎 勝彦 下山 敏一
同山中 義 滋
小田 康之 利 夫 博 登
泉 久 島 康 之 夫 博 登
赤間 鎮雄 高安 滋郎 田鍋 一郎 藤田 六郎兵衛
能安 湯進 儀 太刀持 佐藤 秀雄
間 滝流之儀 強力 井上松次郎

- 三人長者 狂言 井上 義次
佐藤 友彦
大野 義次
後見 大泉 秀夫 地 藤田 保男
下坂 昌彦 小田 林 二 郎

指貫



「羽衣」のカット

謡曲には、どなたも存じの通り仕手五流と脇五流で都合十流ある筈ですが、現在行なわれているのは、仕手五流と脇三流とで、脇の二流は目下無くなっており、まして世間で多く知られているのは仕手五流で脇の三流は余り知られておりません。

現行曲では
観世流二一〇番
金春流一五〇番
宝生流一八〇番
金剛流二〇〇番
喜多流一四四番

各流に共通している曲は、大体一〇九番のようです。その他の曲は、流儀により有る曲も無い曲もまちまちになっている。また或る流にのみ有って他に無い即ち独特の曲が

古典雑話

西村弘敬

観世流十七番、金春流 五番、宝生流 四番、金剛流十一番、喜多流 なし。
ということになっています。
これ等現行曲の外に、今では各流共に用いていない、いわゆる廃曲という古曲が沢山あります。これ等の古曲は、いつ頃に誰によって作られたか、またいつ頃から廃曲となったかなど一向に不明であります。その曲名と本文とは私の家に昔からあります。而してこれ等の謡は、乱曲のような短かいものでなく一番の能の形式で出来ていて、能として演奏出来るものであります。初心の方には兎も角も、謡を稽古なされて研究的に考察になる方のご参考を以下これ等古曲の曲名や内容の一部を記して見ることに致します。

- 二十九 重盛(しげもり)
三十 墨染(すみぞめ)くら
三十一 孫子逸(そんしやく)
三十二 橋(たはな)
三十三 孫子逸(そんしやく)
三十四 七夕(たなばた)
三十五 為世(ためよ)
三十六 丹後物狂(たんごものぐる)

これ等の謡の内容は色々ありますが、一々説明する程のものでもありませんので、少々ばかり概略を記して見ます。
先ず第一に、当地に縁のある曲「火上」について述べます。
火上とは昔の地名で今の名は氷上で、名古屋市緑区大高町に氷上姉子神社というのがあります。熱田神宮の摂社で、祭神は、日本武尊の妃となられた宮媛媛命(みやひめのみこと)で、日本武尊が東夷征伐より帰って来ると

- 四 板敷山(いたしきやま)
五 池上(いけがみ)
六 稲荷(いなり)
七 浦島(うらしま)
八 空蟬(うつせみ)
九 隠岐院(おきのいん)
十 萬城天狗(まぎらてんぐ)
十一 要石(かなめいし)
十二 清重(きよしげ)
十三 切妻首我(きりかみねそが)
十四 貴船(きぶね)
十五 九十賀(くじゅうが)
十六 現在江口(げんざいゑぐち)
十七 現在檜垣(げんざいひがき)
十八 現在巴(げんざいとも)

三十八 陀羅尼落葉(だらにおちば)
三十九 高安(たかやす)
四十 太刀堀(たちほり)
四十一 鶴若(つるわか)
四十二 鼓滝(つづみのみたき)
四十三 萬葉(まがひのす)
四十四 鶏籠田(にわとりたつた)
四十五 箱崎(はこさき)
四十六 花軍(はないくさ)
四十七 火上(ひがみ)
四十八 常陸帯(ひたちおび)
四十九 伏見(ふしみ)
五十 関原与市(せきがはらよいち)

授かっているという、何共肩腰の感ある曲であります。このほか唐土の曲を作った曲に橋、孫逸、七夕、孫子逸、枕草堂(観世は菊慈童)中入前、狸々中入前などもあり、また外にも色々面白き曲が有りますが余り長くなるのでこの辺で一応止めることにします。なお、これ等の古曲の調子がご入用の方は、曲目御申越しあれば写しを差し上げます。

狂言 野 島
仕舞 隅田川
柴田初太郎
佐藤卯三郎
井上礼之助
加藤丈太郎
山中 彦彦

教育テレビ放送
12月29日(日) 午後3時
金剛流「砧」
シテ 豊 嶋 弥左衛門
ツレ 豊 嶋 三千 春
ワキ 久保田 夏 亮

放送 12月29日(日) 午後3時
NHKラジオ第2放送
名古屋から放送(宝生流) 熊野
日、名古屋から放送(高安流) 舟 弁 慶
番組、出演はつぎのとおりである。
番 熊 野
シテ 辰巳 孝、ワキ 藤 藤 二 衣 斐
正 宣 戸 田 秀 雄、内 藤 六 郎 兵 衛、
小 鼓 田 鍋 一 郎、大 鼓 河 村 総 一 郎
素 謡 (高安流) 舟 弁 慶
シテ 高 安 滋 郎、ワキ 西 村 弘 敬
子 方 西 村 弘 敬

花 籠 (はながたみ) 柴田収武
ワキツレ(使者)が登場して、大逆逆の皇子に仕える者であると名のり、携えた花籠と文(ふみ)とを、照日の前に届けるためにいそぐ旨を謡って、橋懸りに行く。シテ照日ノ前が答から出る。
ワキツレは我が君即位のことを告げ、花籠と文をシテに渡して察し、シテは文を読み上げ「花の跡とて懐かしき御花籠玉草を抱きて里に帰りけり」でつきぬ名残の情を見せて中入する。
次第の囃子にて子方帝を先きにワキ、ワキツレ登場。
一声の囃子に後シテ狂女はツレ

観能の手びき
一月の能 熱田神宮能楽殿
後ワキの待謡がすみ、出端の囃子で、後シテ老松の精が橋懸り一ノ松で、舞台を見込み「いかに紅梅殿」と謡い出し、今宵の賓客であるワキを慰めるために、舞樂を奏する旨を地謡と掛合に謡い舞台に入って真ノ序之舞を舞う。非常に位が高く三番目物の序ノ舞とは比較にならない極めて静かなもので、一曲を通して型らしい型はなく莊重な真ノ序之舞が、曲の眼目と言えよう。趣きを替えた脇能で、静かなうちは殺然とした強さがあり、演出はなかなか至難なもの。
ワキツレ(使者)が登場して、大逆逆の皇子に仕える者であると名のり、携えた花籠と文(ふみ)とを、照日の前に届けるためにいそぐ旨を謡って、橋懸りに行く。シテ照日ノ前が答から出る。
ワキツレは我が君即位のことを告げ、花籠と文をシテに渡して察し、シテは文を読み上げ「花の跡とて懐かしき御花籠玉草を抱きて里に帰りけり」でつきぬ名残の情を見せて中入する。
次第の囃子にて子方帝を先きにワキ、ワキツレ登場。
一声の囃子に後シテ狂女はツレ

12月の謡曲狂言番組
NHKラジオ第2放送
毎日曜日 午前8時から9時まで(再放送)
毎金曜日 午後2時から3時まで
12月15日(日) 20日(金)(再)
高多流「融」 高多 節世 ほか
宝生流「小督」 宝生 英雄 ほか
12月22日(日) 27日(金)(再)
観世流「西行桜」 武田太加志 ほか
12月29日(日) 1月3日(金)(再)
宝生流「能野」 辰巳 孝 ほか
高安流「舟弁慶」 高安 滋郎 ほか

宝生会定式能
一月十九日(日)
能 八 内藤 泰二 西村 欽也
能 卷 宝生 九郎 高安 滋郎
伊 網 高安 滋郎
海 士 大槻 秀夫 吉田 定男 鬼頭 喜太郎
番外舞獅子 田鍋 惣一郎 寛 三男
御来聴歓迎

三人長者 佐藤 女彦
野 守 殿島 修二 鬼頭 八郎
玉 燧 奥村 久枝 河村 孝一郎 鬼頭 季信
天 鼓 竹内 陽子 河村 洋一郎 藤田 昭彦
船 弁 慶 中村 克己 吉田 定男 鬼頭 季信
能 安 達 原 西村 欽也 河村 孝一郎 鬼頭 喜太郎
長谷川 実 高安 勝久 後藤 孝一郎 寛 三男
間 佐藤 卯三郎
後見 大槻 秀夫 地謡 坂田 保男 水藤 又吉
大槻 秀夫 地謡 坂田 保男 水藤 又吉
伊勢 信雄 博 泉 大槻 文雄
伊勢 信雄 博 泉 大槻 文雄
主 催 名 古 屋 清 韻 会

「雪」をたたえる

栗林貞一

(仙田雪子画「雪」によせて)

「雪」は、現在金剛流だけに流行している単式夢幻能です。諸國一見の僧が、四天王寺に詣らんと撰津の園、野田の渡りのあたりに来た時假雪に会う。折から雪中より一人の女性が現われ、僧との問答があり、クセの後序ノ舞となり舞のあと、夜明けとともに幻のよう雪の中に消えて行くという舞本位の構成です。各流現行曲中で最も単純簡明な曲。故人の佐成謙太郎氏は「謡曲大観」で、簡淡であることの外にこれという見どころがない。——凡作、むしろ感作に近いと極論していられます。しかし見方によっては、能楽の極致である幽玄に最も近い名曲だと私は思っています。ともかく、この曲は近年、能はもとより、舞臺子、仕舞などにしばしば上演され流儀を越えて愛好されていること

舞の間にそのムードを十分出さねばならない。運歩、袖の扱い、拍子の踏み方などが心得事となっています。キリは再び作り物に入っ下居、地謡が終つて後、唯子のみが残つてしずかに終曲となります。

要するにこの曲の特色は、雪の精を象徴するためシテの装束が白一色であること、雪中の気分を出すため拍子は一切音を立てないこと、知らぬ迷ひを晴し給へといいいながら、キリで「僧にかかると消え失せる、他の曲のようには成仏得ないこと」などで、名能評家坂元雪鳥氏は、「通人が杯を伏せること、一筆なめる珍珠」ともいふべき曲だと評しています。

ともあれ、流儀ではこの四十分あまりの曲を、「西行桜」「求塚」などと同じ準九番習として重く扱っています。清純一隨のこの曲は、舞う者も見る者も、曲の真髓を心して味得すべきだと思います。

3. 序の舞

これは本三番目の曲で、品位高い女性、又は老人の舞う極めて静かな舞である。太鼓入りのものは「杜若」「羽衣」「雲林院」等は普通の位で、重いものには「遊行柳」「西行桜」「鬘願寺」などがある。太鼓なしには「半部」「夕顔」「宝生流なし」「東北」、重いものには「井筒」「野宮」がある。太鼓なしの特殊のものには、「剪鶴小町」で、破掛り序の舞は、これ一曲である。なお「破掛」は太鼓入り、「関寺小町」は太鼓なしの序の舞で、いずれもその位は老女の最高のものである。

4. 神舞

男体の神の舞で、神々しくよどみなく打つ。全部太鼓入りで、「高砂」「養老」「八幡」など

5. 真の序の舞

老体の神、又は神がかりした老人の舞、おもしろい狂歌な舞いぶり、序の舞の気分が神舞を舞うという位で打つ。「老松」「雨月」「白楽天」(宝生流なし)などで太鼓入りである。

6. 急の舞

これは「道成寺」の前シテの舞うもので、「紅葉狩」でも中の舞の途中から位が変つて急の舞になる。極めて位の早い舞で太鼓なしである。

8. 黄鐘早舞

「松虫」「敦盛」「錦木」などは特殊なもので、狐師が鳥を追って打ち落とす所で唯子は習い物となつて居る。また太鼓入りのカケリとしては「阿漕」「山姥」等がある。「阿漕」は網に魚を追い入るといふ特殊な型がある。

7. 早舞

典雅な感じの舞で、この舞の特徴であるので早舞より男舞に似ているが、これは鶴屋の舞なので

道歌抄

音曲はたゞ大竹のその如く直くに清くて節すくなかれ
諷はんに先づ祝言を専らに
さて其後は恋慕哀しやう
諷わんに調子を低く吟じつ、
短きことをまづ諷うべし
さしよけて諷う調子は双調か
後は黄鐘盤渉もよし
諷う心かわよき剣ねり細に
包めるごとく晴むそよき

息つきは拍子のほかに早く切れ
声をしづかに出だすべきなり
論議こそやすく聞えて大事なれ
とふに答ふる程を知らずや
積古をばはれにするぞと思ひなし
はれをば常のころなるべし
その人の弟子といひたる計りにて
積古もなきまきまはうらさし
我寺の仏ばかりを尊むな
余の教をもきけや諸人
為すわざを問ふを恥とや思ふらん
問わぬはついの恥とこそきく

願ふとき身もち思もち口ぐせは
つねに鏡にうつしても見よ
人毎にわらく云いなす心得は
我身のあだに成ると知らずや
慢心や卑下する体を打捨てて
唯何となくたしなむそよき
舞二年太鼓三年笛五年
つゞみ七年謡十年
諷わんと思わば腰をはり出し
一間真中のさきを見るべし
氣を吞みて心を鎮め下腹に
力をこめて諷うべきなり
息つきは静に心鎮めつ、
人に知らさでつくべかりけり
大きをば声を細めて色をなし
調子を高く諷うべきなり
細きをば声を太めて色をなし
調子を低く諷うべきなり
下手こそは上手の上の飾りなれ
いかにわろくもそしりばしすな

松阪二井会

文化会館で追善会
では、さる十一月十七日午
前九時から松阪市殿町丸ノ
内・松阪市文化会館舞臺で、稲垣
徳堂、一鳥重信、小西与治兵衛、
牧戸寛一、池村鉄次郎、西井久兵
衛の故人の追善会を催した。

当日は、素謡「阿漕」西井良
一、村田正、斎藤金教「藤戸」斎
藤金教、片桐民夫「求塚」中西義
太郎、浜口幸成「融」小西多三
郎、片桐民夫「通小町」川井きみ
子、米川嘉吉、岡本茂「井筒」横
井鈴江、福吉愛「黒塚」稲垣秋、
河口嘉一、小西多三郎「小督」山
川登志子、西川善彦、山崎新太郎
「敦盛」山崎新太郎、奥山修二、
佐藤美枝、

市川鳩翁、小鼓・中尾和子、太
鼓・山口亭、笛・福吉忠子、同
「実盛」松村治郎兵衛、大鼓・市
川鳩翁、小鼓・山口亭、笛・河口
嘉一
連吟「経政」西井良一、小西多
三郎、一鳥重信、稲垣秋、独調「天
鼓」和谷衛市、岡田みね「女郎
花」和谷亀三郎、吉村くに恵「玉
之段」片桐民夫、村田正「鐘之
段」中北明男、村瀬定子「鶴之
段」和谷亀三郎、北村澄「鉢木」
山本才、浜口幸成、仕舞「半部」
北村澄「松虫」村瀬洋子「鶴飼」
小林一夫「羽衣」吉村くに恵「鳥
頭」杉浦美恵子、「浮舟」吉村た
み子、「松風」大野コト、「阿
漕」上田倫雄、「笹之段」横井鈴
江、「弱法師」福吉愛「船」岡田
みね「高野物狂」浜口幸成、「藤
屋」斎藤金教、

新春の放送番組

(NHK第2)
一月一日10:30-11:30「翁」
宝生九郎ほか「草子洗小町」親世
元正ほか「小袖曾我」金剛巖ほか
「屋島」金春信高ほか「石橋」喜
多実ほか

内外ともに多端をきわめ
た昭和四十三年の納刊をお
くることのできることは、
ひとえに愛読同好の皆様は
じめ、名古屋能楽会、熱田
神宮、名古屋市など関係各
位、またご寄稿をおよせ頂いた方
々、ご協賛を賜ったお蔭と同人一
同厚く感謝申し上げます。
きたるべき昭和四十四年は、毎
号にわたって「観能の手引き」そ
の他新しい企画で皆様のご期待に
こたえらるべく精選を重ねる決意で
す。どよみかたの再版を頂きま

友社の友社

| |
|----------|
| 吹上本町2-20 |
|) 7984 |
| 屋 36393 |
| 1年 200円 |
| 1年 380円 |
| 20円 |



ケッチ子画
吉氏の



西村弘敬、舞臺子、船弁慶、内藤
泰三の諸師、唯子方、地謡方による
熱演、狂言「素袍落」和泉保之、
井上松次郎、野村又三郎師につづ
いて、明治百年記念と、市民芸術

観宗 流本 剛行 流元 金発

檜書店

合資会社

東京都千代田区神田小川町2-1
京都市中京区二条通鉄屋町東入

電話(291)2488-9
電話東京35520
電話(23)1990
電話京都1113

アマハ製菓株式会社
名古屋市中区新道町4の11
電話(代)571-1968